

大阪府立豊中高等学校アメリカンフットボール部 OB会

ここから始まった……

1946年10月1日、進駐軍のジープに乗って豊中中学にやって来たピーター岡田氏は全校生の中から集められた有志の前で、われわれが初めて目にする少し先の尖った楕円形のボールを手にして、フットボールの手ほどきを始めたが、これがわが国の中学・高校におけるアメリカンフットボールの第一歩だった…。



[ピーター岡田氏から寄せられたメッセージを彫り込んだ記念碑——豊中高校中庭]

To: Toyonaka High School
After a tragic war, followed by much confusion and lack of spirit amongst student in high schools, I introduced "Touch Football" at this site on 1st October 1946 making this school the fountain-head of American Football in high schools in Japan.

Peter K. Okada
21st July 1996

豊中高校に贈る

不幸な戦争が終わり、それに続く数々の混乱のなかで、私は高校生達に生きる活力を与えるため、1946年10月1日、この豊中に“タッチフットボール”的種を蒔いた。これが日本の高校アメリカン・フットボールの発祥となった。

ピーター K. オカダ
1996年7月21日

創部50年を祝う

1996年9月29日、ホテル・アイボリー

1996年9月29日、ホテル・アイボリーで創部50周年の記念式典と祝宴を行なった



130名が集まって祝宴は盛り上がった
(顧問だった先生方の顔もみえる)



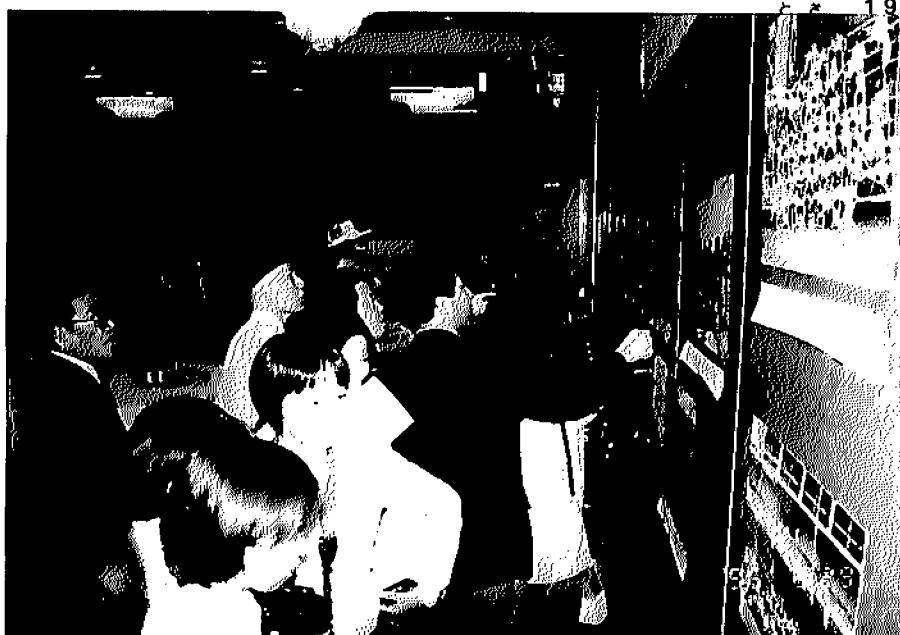
岡け/ロードランナーズ

創部 50周年記念式典

1996年9月29日(日)
ホテル・アイボリー

府立豊中高等学校
ソフトボール部・OB会

記念式典のプログラム



会場に展示された写真を前に思い出話は尽きない

TOUCHDOWN

輝け!! ロードランナーズ

**豊高フットボール
50年のあゆみ**

大阪府立豊中高等学校アメリカンフットボール部OB会

目 次

ここから始まつた

創部50年を祝う

あいさつ

国際社会に貢献できる人物を育成

大阪府立豊中高等学校校長 田 中 紘 人 8

「チームのために」が感動を呼ぶ

豊中高校豊陵会会长 小 西 淳 次 8

特筆すべき「日本初」が3つ

豊中高校アメリカンフットボール部OB会会长 小 野 實 9

素晴らしい経験ができたのはOBのご尽力の賜物

豊中高校アメリカンフットボール部顧問 荒 木 雄 造 10

お祝いのメッセージ

前パス攻撃の伝統は今も関西学生界の誇り

日本アメリカンフットボール協会理事長 古 川 明 11

フットボール求める生徒に夢をいつまでも

関西学院大学ファイターズ監督 鳥 内 秀 晃 11

豊高の歴史にぜひとも「日本一」を

京都大学ギャングスターズ監督 水 野 強 一 12

高校フットボールのリーダーとして活躍を期待

甲南大学レッドギャング監督 阿 倉 智 明 13

誠実なプレイをこれからも

神戸大学レイバンズ監督 木 村 泰 雄 14

高校フットボールの原点から頂点を目指して

同志社大学ワイルドローバー監督 川 口 隆 弘 14

これからも有為な人材の輩出を期待

立命館大学パンサーズ監督 平 井 英 飼 15

50年のあゆみ

1946年10月1日	ピーター岡田氏の手ほどきで始まった	16
1946年12月28日	本邦初試合で勝利	16
1947年4月13日	第1回甲子園バウルでも快勝	18
1947年11月2日	金沢国体に出場、試合は引き分け	18
1947年12月28日	雨天の試合で初めての敗戦	20
1948年1月1日	第2回甲子園バウルで奈良中に敗れる	20
1948年2月7日	アメフトを初体験	20
1948年4月1日	豊中中学から豊中高校へ	20
	甲子園“バウル”	21
	豊中高校併設中学校	21
1948年5月	近畿大会始まる	22
1948年12月	浪速高にアメフトで勝つ	22
	男女共学校で試合をしたい…	23
1949年5月27日	出来たばかりの関学高チームに惜敗	24
1951年10月7日	第4回秋季近畿大会決勝で関学高に敗れる	24
	米蹴・アメリカン・タッチフット・アメフト…	25
1952年秋	少ない部員に悩む	26
1954年8月9・10日	ボールひとつの差で判定勝ち	26
	第7回秋季近畿大会でブロック優勝	
1954年12月27日	第1回全国大会に出場	28
	部の予算は年額29,500円	28
1957年5月3日	大阪大会で優勝	28
1958年1月5日	雪で足がすべり初対戦の関東チームに敗れる	28
	—第4回全国大会—	
1960年4月～	2年生だけで頑張った—高14期生	30
1962年4月	女子マネージャーが登場	32
	第9回全国大会(1962年12月)のメンバー表	33

	人気ナンバーワンの女生徒にマネージャーを頼む	33
1963年12月26日	第10回全国大会で5位	34
1967年6月17日	北摂リーグ、大阪大会で優勝 第20回春季近畿大会では3位	34
1969年6月22日	斬新なコーチによる自信とチームワークで 大阪大学チームとタッチフットの練習試合 関学高に快勝し優勝—第22回春季近畿大会 画期的なインサイドワークとコーチング	38 37 39
1970年12月26日	東京に遠征して敗れる—第17回全国大会	40
1971年4月	アメフトに変身 タッチの時代の泊りがけの遠征は1勝2敗1引き分け	40 41
1971年9月12日	アメフト大阪大会初優勝 第1回関西大会では関学に大敗、準優勝	42
1972年	部員11名で苦戦した	42
1977年5月	大阪大会で優勝 第7回関西大会では準決勝で敗退	44
1977年5月28日	大阪チームの初勝利に貢献 豊高ユニット西宮ボウルで健闘 ニックネームは「ROADRUNNERS」	44 46
1978年5月5日	大阪大会で優勝 第8回関西大会では関学に敗れて準優勝	46
1978年6月3日	豊高選手西宮ボウルで大活躍、大阪チーム連勝	46
1980年6月22日	大阪大会で優勝、関西大会(第10回)では準優勝	48
1980年8月23日	豊高ユニットがT D、対イオラニ高(ハワイ)親善試合	48
1981年秋	選手に骨折や脱臼が続出し苦悩	50
1982年5月22日	西宮ボウルで豊高選手が活躍	50
1983年6月19日	大阪大会で優勝 第13回関西大会では決勝戦で関学に惜敗	52
1986年5月	上村杯・小宮杯を新設	54

上村杯・小宮杯受賞者	55	
1987年5月17日	創部40周年記念、池田高との定期戦	56
1988年6月19日	関学を破り第18回関西大会で優勝 アメフトでは初V、糸井選手がMVPに	56
1990年8月31日	初TDは豊高選手、訪米チーム善戦 アシュランド高と親善試合	60
1991年7月28日	創部45周年記念のゴールポスト完成	60
1992年6月	ピーター岡田氏が来日	64
1994年6月14日	大阪大会で優勝 第24回関西大会では崇徳高に敗れる	66
1994年8月 21~29日	レークワシントン高校で親善合同練習 豊中・池田両校選手5名ずつ参加	68
1995年夏	訪米チーム、アシュランド高に初勝利 豊高から参加の5選手が活躍	68
1996年2月	プロフットボール選手が誕生	70
	NFLと提携のワールドリーグ(WL)	71
1996年3月17日	創部50周年記念、池田高との定期戦	70
1996年7月 18~28日	レークワシントン高チーム来日 長居球技場で親善試合	70
1996年9月29日	創部50周年記念パーティ開催	72
写真・資料集	73	
寄稿文	～50年を支えた方々の思い～	104
顧問だった先生方から		
50年を振り返って	齐藤 良二	104
アメフトとの出会いで充実した豊高教員時代	今安 達也	105
思い出の数々—教員人生の中でかけがえのないもの	長瀬 尚	106
怪我には気をつかった	森 真一	107

OBの皆さんから

フットボールの怖さを知った関学高戦での大敗	池内和彦(高25期) ···· 131
初試合でリッターのタックルに成功	松田純一(高26期) ···· 132
小宮を通して繋がる同期の輪	原田淳(高29期) ···· 132
ダフ屋のチケットを購入し、スーパーボウル観戦	郡秀介(高30期) ···· 133
フットボール生活19年目	有吉明(高33期) ···· 134
コーチの練習プランに感動、死にものぐるいの走り込みも楽しい思い出	武笠直人(高35期) ···· 135
第4Qで力尽きて逆転された関学戦だったが満足感で一杯	岩澤宏哲(高36期) ···· 136
厳しい練習の成果と素晴らしい仲間との巡り合わせ	幸田浩明(高37期) ···· 136
自主性あるメンバーが結集し最高の舞台で関学を倒して初優勝	糸井真一郎(高41期) ···· 137
関学高を破った優勝の味はいつまでも忘れない	中川英樹(〃) ···· 138
不純な動機で入部した私と「期待を裏切った学年」	八木健太(高42期) ···· 139
訪米チームに選ばれ大学でもやりたい気持ちが固まった	伊藤重将(高43期) ···· 140
万全の態勢で臨んだ新人戦に勝ちアメフトの虜に	松田宗門(高45期) ···· 141
ボカの反省を繰り返し、D Bの奥の深さを少しづつ体得	石村健司(高47期) ···· 141
 マネージャーだった皆さんから	
何も分からぬまま、どれ程お役にたったのか	安居堯子(高16期) ···· 142 (旧姓: 安部)
アメフトから貰った高校時代の楽しい思い出	小城香織(高33期) ···· 142 (旧姓: 江見)
マネージャーみんなで泣いた大阪大会の優勝	工藤和子(高48期) ···· 143
豊高アメフト部のマネージャーになるのが受験目標の一つだった	蒟油美貴子(〃) ···· 144
1988~1989年のマネージャー日誌から	··· 145
在校生メンバー	··· 146
記念碑の除幕、記念式典・祝宴 (1996年9月29日)	··· 151

あ い さ つ

国際社会に貢献できる 人物を育成

大阪府立豊中高等学校校長

田 中 紘 人



私たちの豊中高校には、他の府県にもないと言ってもよいアメフト部があります。この部が、いまを去ること50年前の1946年に創設されました。この創設の歴史には、筆舌を越えるロマンと困難があつたことは、容易に想像できることです。

このことは、単に不幸な戦後に近い出来事であつただけではなかった筈です。豊中高校にいち早くアメフトの普及を想い立った外国人には、その当時の日本の若者たちに、何とか将来への生きる夢と何事にも立ち向かう勇気をもたせねば…という氣概に満々ちていたに相違ありません。

このロマンの持ち主は、豊中高校にアメフト部を創設し指導に当たられたピーター・オカダその人に外ありません。ですが、この当時を想い起こしても、その社会的背景は、生活の基本である衣・食・住はいうに及ばず、全く悲惨な状況下であり、いずれを取っても充分なものがあり得た筈はありません。

こんな世相に、豊中中学、池田中学にアメフト競技の種子が播かれたのです。それは創設者

と創設を望んだ若人に、いかに進取の気が満ちていたかを推し測るに難くありません。またアメフトという音感からしても、そのものがどんな競技でいかに競うものかも全く判らなかつたことでしょう。今日のように諸スポーツ熱に満ちた時代でも、アメフト競技をよく理解できている日本人は多くないのですから…。

この競技に関しては、闘争競技であることを思わせる大げさな防具を身に着け、独特の形状のボールを蹴ったり投げたり手にして走りながら相手陣にボールを持ち込む、そんな競技に見えたのではないかなどと、小生のような門外漢には映ります。しかし、今日立派にアメフト競技の種子が豊中高校のグラウンドに発芽し、花を咲かせています。

今後も皆さまの後輩たちは、この歴史に残る伝統あるアメフト部を通して国際社会に貢献できる人物となるべく磨き続けて参るつもりです。そのためにも、豊中高校アメフト部の先人としてのご支援をお願いし、この創部50周年のお慶びの詞といたします。

.....

「チームのために…」が 感動を呼ぶ

豊中高校豊陵会会长

小 西 淳 次



全国高校アメリカンフットボールの発祥校である我が母校豊中高校が創部50周年を迎えられ、母校の中庭にその記念碑を建立され、記念式典を

挙行されたことに心から祝意と敬意を表します。

ピーター・岡田氏の指導から生まれたタッチフットボールの歴史は、まさに「戦後50年の歩み」

そのものと思います。

創部以来継続し、発展していくためには、先輩をはじめ多くの方々の並々ならぬご苦労があったであろうと推察いたしますとともに、関係者の皆さまのご苦労に改めて敬意を表し、お礼を申し上げます。

今でこそ、ブレイの面白さを理解できますが、昭和28年当時、私はこれがスポーツかと疑つたりしていました。

この誇るべき歴史を、さらに価値あるものにするための主役は、何といっても現役のプレー

ヤーである生徒の皆さんです。

攻守の陣形・一瞬の間隙を狙ってのバス・突進・一人のためにチームがあるのではなく、チームのために一人があり、観戦する人々に感動を与えます。

感動を与えるような「敢闘精神」と「鍛えぬいた技」で他の高校を凌駕していただきたく思いますとともに、その努力こそ先輩諸兄への応えであり、また母校の誇りです。

最後にアメリカンフットボール部の発展と皆さまのご活躍をお願いしてご祝辞とさせていただきます。

.....

特筆すべき「日本初」が3つ

豊中高校アメリカンフットボール部OB会会長

小野 實

大阪府立豊中高等学校アメリカンフットボール部が創部50周年を迎えるにあたり、一言ございさつを申し上げます。

よく10年一節と申しますが、当フットボール部も5つの節を数えることができ、池田高校とともに日本の高校アメリカンフットボール発祥校として、立派な伝統ある部に成長いたしました。

顧みますと、その歴史過程におきましては、皆さまもご存じのとおり、昭和21年10月1日、当時の米軍大阪軍政部の若き将校、ピーターK・オカダさまが当校にフットボールをご指導に来られ、斯く申す私も当時中学(旧制)1年生として参加し、創部OBの末っ子でいるわけでございます。

この50年の歩みは、決して平坦な道程ではありませんでした。部が廃止される寸前にまでなったことも聞いております。そのような中で素晴らしい戦績を残しました。すなわち大阪大会で優勝10回、関西大会では優勝5回、準優勝5回とこの50年の間に20回に及ぶ栄誉を受けています。

そして過去幾多の卒業生が大学フットボールへ、また社会人フットボールへと活躍されてお



られるのを拝見し、誠にご同慶のいたりであり、永年にわたってフットボールの発展に尽力された歴代のOB諸先輩の方々、歴代の顧問の先生方に心から感謝の意と敬意を表する次第であります。

さらに特筆すべきことは、日本の高校フットボール界でわが豊中高校には「日本初」が3つあることです。一つは発祥の地であること、二つ目は45周年記念で初の移動式ゴールポストを持ったこと、三つ目は京都大学に進学した伊藤選手がわが国初のプロフットボーラーになったことです。

さて50周年は節目とはいえ、ひとつの通過点であります。これから21世紀の未来を担う後輩たちがこの伝統を重んじ、新たなるチャレンジ精神で健やかに成長していくことを期待し、われわれはその支援に邁進する所存でございます。そして豊中高校アメリカンフットボール部はもちろんのこと、近隣の高校フットボール部、そして日本の高校フットボールが、ますます活力をもって発展してゆくことを祈願いたしまして、お祝いのあいさつといたします。

素晴らしい経験ができたのは OBのご尽力の賜物

豊中高校アメリカンフットボール部顧問
荒木 雄造



豊中高校アメリカンフットボール部が創部50周年を迎えたことを心からお喜び申し上げます。50年の伝統は、多くの先輩の方々の努力の賜物であります。ここに深く感謝申し上げます。

豊高アメフト部は1946年10月にピーター・岡田氏の指導を受けて創設されました。その年の12月の日本初の試合(西宮球技場)と翌1947年4月の第1回毎日甲子園バウルに勝利されて以来、輝かしい戦績を維持し、歴史に残る名プレーヤーを輩出してきた「高校アメリカンフットボール発祥の地」であります。このことは私や現役の部員たちにとっても、大いに榮誉とするところであります。

私は豊中高校にお世話になって11年目となります。この間、多くの出来ごとがありました。1988年には、常勝の関西学院高等部を破るという、高校でフットボールをしている者の夢を実現して関西大会で優勝しました。また日本代表チームのメンバーに選ばれて、米国本土から初めて日本に遠征して来たアシュランド高校との試合にも出場しました。

豊中高校には長い間ゴールポストがありませんでしたので、部員たちはいつもゴールポストがあればという思いを持っておりましたところ、OB会から日本で初めての移動式ゴールポストを寄贈

されて部員一同大喜びでした。

米国本土へ遠征してTDを挙げるという夢を伊藤君(43期)が実現してくれました。この時のTDは彼のRBとしての最後のものとなりました。米国本土でアメリカのチームと一緒に練習したいという夢が、OB会の援助によってレークワシントン高校との間で実現しました。この経験は、現役の選手たちにとっては非常に貴重なものとなりました。また昨年の夏には来日したレークワシントン高校と合同練習と親善試合を行なって、日米の友好を暖めました。

このような素晴らしい経験ができましたのは、多くのOBの方々のご尽力の賜物であります。また校歌に歌われております質実剛健で協同進取の気概に富む部員のお陰であると感謝しております。

OBの皆様には、日ごろから何かと力強いご支援を頂いておりますことに対して感謝の意を表しますとともに、今後とも暖かいご指導ご援助を賜わりますよう伏してお願い申し上げます。

最後に豊高アメリカンフットボール部の更なる飛躍を願い、微力ながら最大の努力をいたしますことをお誓い申し上げて、お祝いの言葉といたします。



お祝いのメッセージ

前パス攻撃の伝統は 今も関西学生界の誇り

日本アメリカンフットボール協会理事長
古川 明



50周年おめでとうございます。日本アメリカンフットボール協会を代表いたしまして、大阪府立豊中中学校、大阪府立豊中高等学校のアメリカンフットボールの創部50周年をお祝い申し上げます。

人生で、本当にこんなに嬉しい夢があるのかな、という甲子園ボウルでの優勝、それは豊中中学、奈良中学あるいは池田中学から来た仲間とともに、第4回毎日甲子園ボウルでお陰さまで優勝という栄誉を得ることができました。今ではいささか恥ずかしい思いもしますが、徳永のパスで勝てたということです。本当にあれから47年経ち、私自身65歳を越えましたが、今でもあれは人生で一番いい夢だったな、と噛みしめています。お

陰さまで50年間、豊中の仲間と一緒にいい夢を見させていただいております。

それはまた、豊中中学、奈良中学、池田中学のタッチフットボール出身者の洗練された前パス攻撃が、昭和23年以降の関西の大学フットボール界に新風を送り込み、ある意味では近代フットボールの幕開けとして、日本のフットボール界に最初の革命をもたらしたと云えると思います。そしてその「前パス」の伝統は、今も脈々として関西のフットボール界に生き続けていることを、共に誇りたいと思います。

これからも、これから先の50年間も豊中のフットボールがそれぞれの各大学で花を咲かせ、繁栄されることを期待いたします。

フットボールを求める生徒に 夢をいつまでも

関西学院大学ファイターズ監督
鳥内秀晃



大阪府立豊中高校アメリカンフットボール部が、その輝かしい戦績とともに、創部50年を迎えた事を心よりお祝い申し上げます。50年前といえば終戦時、それまでアメリカンフットボールも敵性スポーツとして活動停止をよぎなくされたと伺っておりますが、その当時には今日のような活況を誰も予測できなかったと思われます。敗戦直後にフットボールも復活した訳ですが、そのきっかけとなったのが甲子園ボウルの誕生であり、旧制中学におけるフットボール部の設立であると聞いております。その一校が豊中中学で、創部当時に尽力された方々のご苦労

は、計り知れないものであります。また、高校フットボールが日本国内で広まる糸口となる基礎をお作りになったのも、豊中アメリカンフットボール部の草創期における輝かしい実績の一つであります。

そして50年を経た現在においても、その熱き血は受け継がれ、大阪府の雄として高校フットボール界に確固たる地位を築いて来られました。また関西学院との関わりも古く、終戦後大学生が中央芝生で練習しているときなど、よく練習を見学に来られて「時には一緒に練習もし、関西学院でフットボールをやろうと誘ったりもした」と私の父、

鳥内昭人(昭和25年関学大卒)も申しておりました。

それからは、御校の卒業生も10数名も数え、我が部において常に第一線で活躍し、昔も今も中心選手としてファイターズを牽引しております。また関西学院に留まらず、多くの大学でも素晴らしい活躍をされており、その伝統は今後も受け継がれていくことを願ってやみません。

近年は、高校フットボール界でも生徒数の減少が顕著であり、御校におかれましてもそういった

面でご苦労が絶えないとお察しいたします。しかし、フットボールに魅了される、あるいはそこに何かを求めている生徒もおります。そういう生徒たちに、これまでどおり夢を与え続けていただきたいと切にお願いします。我々も、微力ながらお力添えをいたしたい所存でございます。

豊中高校アメリカンフットボール部の益々のご発展と、ご活躍を心よりお祈り申し上げて、お祝いの言葉とさせていただきます。

豊高の歴史にぜひとも 「日本一」を !!

京都大学ギャングスターズ監督

水野彌一

ご創部50周年おめでとうございます。京都大学アメリカンフットボール部も、今年50周年を迎えます。御校チームの方が1歳お兄さんということになります。

私が京都大学へ入学したのは1961年です。当時は私たちの先輩藤村重美氏が率いられる市立西宮高校が関西学院高等部と鍔競り合いを演じており、やがて打倒関学を果たしています。

私たちは、市立西宮高校の勝利を藤村先輩個人の神通力によるもののように思っておりましたし、藤村先輩が市西高を去られてからは、又関学高の王座独占に戻りました。

そのような中で1969年豊中高校が関西学院高等部を破るというニュースを聴きました。それまで関学を倒すのは大学では日大の篠竹監督、高校では藤村先輩のような、我々から見ると超人のような方しかいないと思っていましたが、この時の豊中高校の勝利は、そうではないことを示す新しい時代の幕開けを予感させるものでした。

その後、私たちにとって豊中高校は、公立校でありながら関西の強豪というイメージが定着しました。当然私たち京大チームも豊中高校卒業生の入部を心待ちにしているのですが、あまり多くの人が来てくれるのは残念ですし、入部しても続けてくれる人の少ないので実です。

これは入学試験があるためでしょうが、私が



思うのは、スポーツでチャンピオンになるよりも、勉強して京大へ入学するほうが百倍楽だということです。勉強は答えがあるから、誰でもある一定のことをマスターすれば皆大体同じ点数が取れます。すなわち同じ結果が出ます。ところがスポーツは同じことをマスターしても同じ結果は出ません。最後は自分を活かす術を自ら創る、これは正解のある勉強よりも、はるかに難しいことです。よほど才能ある人を別にすれば、要するに勉強はだれでもやれば出来ます。多少頭が鈍くても人よりたくさん努力すればよいのです。これはやるかやらないかの問題です。よく自分は京大へは行けないという人がいますが、これは間違いです。行けないのでないのです。行こうとしているのです。さらにスポーツでチャンピオンは1つしかありませんが、京大へは毎年3,000人も合格します。どう考えても京大へ入学することなど、それほど難しいことではありません。重ねて云いますが、やるかやらないかの問題です。

またせっかく豊高でフットボールをして京大へ来ても、続けてくれる人が少ないのも残念です。スポーツの意義について申し上げるのは別の機会にして、私たちのチームは勝つことのみを目標とし、そのためには時間効率を高めるため、コーチ主導でチーム造りが行なわれ、妥協は許されません。そのため豊高的経験者の中には、選手に主体

性が無いとか、楽しくないと喜んで辞める人も少なくありません。それは個人の好みでしょうが、我々はやると決めたらやる、樂しかろうが苦しかろうが関係ない、ベストを尽くすということも大変大切なことと考えます。

さらにはチームプレーでは一日やると決めたら、自らの行動にチームの運命がかかっていることも忘れてはならないことです。中には私たちに大いに期待を抱かせながら、突然、それも大切な

試合の前に居なくなってしまう者も居ました。

豊中高校フットボールの輝かしい50年の中で、無いのは日本一だけではないでしょうか。No.1になるチームともう一步でなれないチーム、努力には物理的には差はないと思います。しかし何かが違います。その何かのために、失礼とは知りつつ敢えてこのようなことを申し上げました。一日も早くそれを身に付けて、豊中高校フットボールが日本一の栄冠を手にされんことを祈っております。

.....

高校フットボールの リーダーとして活躍を期待

甲南大学レッドギャング監督
阿倉智明

創部50周年おめでとうございます。その長い歴史の中で高校フットボール界だけでなく、大学から社会人までの広範囲にフットボールの発展に貢献され、我々もその恩恵のもとでフットボールを出来る事に感謝しております。

特に我々甲南大学アメリカンフットボール部も1昨年(1995年)創部40周年をむかえ、その40年間のチーム運営の中にも翁宣之氏を始めとして、多くの豊中高校卒業生の活躍があってこそ、現在の我々のチームがあると思っております。

さて、私は1995年度から監督に就任し、現在のフットボールの置かれている環境、またフットボール自体に対して、今更ながらではあるかも知れませんが、いくつか感じるところがあります。

私は、本来スポーツは楽しむものであり、事あるごとに学生達にも「楽しめてこそ成長がある」と話をし、その理解の上でフットボールの戦いには勝つ事を優先するものと教えております。そして、彼らに日々の過ごし方が充実したものであるかを問うております。

加えて、学生スポーツの本分は学業とスポーツの両立にあり、与えられている1日24時間をいかに有効的に活用し、文武両道を身につけるかであると思います。

現代の10代の青年の多感にて多忙なる毎日の



姿を見るに、彼らにとって様々な選択肢の存在の中で、学業とスポーツの両立の難しさもよく理解できます。

現状のフットボールほどスポーツを科学し、分析する事に重きを置く事でチームを強くし、人をまた育てるという手法をとるスポーツはないと思えるし、非常に手間、時間のかかるスポーツであると思います。

またフットボール自体の学習においても、フィールド上の学習と机上・ホワイトボード上の学習が存在し、学習の習慣とその学習自体の成果なり、成功を身につけている者ほど、著しく成長を遂げる場合があり、くじける事も少なく、また年齢を重ねるにしたがって指導力も発揮するように思われます。知恵と勇気がフットボールに不可欠な要素でもあり、個人としての自主性が重要となり、いかなる環境でも、自らの力を存分に発揮できる能力を求められる一方、役割、責任の遂行・徹底を求められるように思います。

だからこそ、現在の高校生において、厳しい受験戦争と複雑で苛酷なフットボールを両立している豊中高校が、若者の憧れになることは当然であろうし、我々指導者からすれば、素晴らしい人材の集団である事への憧れもあります。

これからも高校フットボールのリーダーとし

て、活躍される事と、卒業生の方々が多方面においても一層のご活躍を期待しております。

最後に、昨年の阪神大震災により、大阪方面の中でも最も大きな被害に会われたにもかかわらず

荒木先生をはじめ選手全員が真摯にフットボールに取り組む姿に感銘をうけ、我々にとっても励みになった事にお礼を申し上げます。

.....

誠実なプレイをこれからも…

神戸大学レイバンズ監督

木村泰雄

大阪府立豊中高校アメリカンフットボール部の創部50周年にあたり、心よりお祝い申し上げます。50年といえば、ほぼ日本のアメリカンフットボールの発展とともに活動されたことであり、とくに関西のフットボールの普及、発展に寄与された実績は、その間活躍されたOB諸氏の計り知れないご苦労と熱意の成果ではなかったかと思われます。

我々も間もなく創部25周年を迎えるわけですが、豊中高校OBの方々の我がレイバンズに与えた成果は多大なものがありました。OBの名簿をみましても総勢約40名、歴代の主将21名のうち7名を数える程の大所帯であり、豊中高校の熱きフットボール魂がひしひしと感じられる顔が目に浮かんできます。特にレイバンズ創部の際に活躍された松田純一、児玉 稔両氏は、フットボール好きの全くの素人のメンバーが、右も左もわからないチームの状況の中で、基本から正しいフットボールに対する取り組み方、練習の方法などについて熱心に指導をいただき、創部



5年で当時の関西リーグに昇格できたことも、その結果といって過言ではありません。私もフットボールの華やかさに憧れて入部したわけですが、入部当時練習と共に、その基本に忠実でしっかりととした考え方によって指導いただいたことが、今の私の指導理念の中心になっております。以後もその豊高魂は、代々後輩に受け継がれ、我々の基盤となって、レイバンズを支えてきました。

また豊中高校のフットボールの特徴を一言でいえば、各大学でご活躍のOBのプレイをみても、誠実で奇をてらったことがなく、リーダーシップに優れ、我々が学生を指導して行く上で目標となるものです。

今後もこうしたチームの取り組む姿勢が長く引き継がれ、関西高校フットボールの雄として、チームの更なる発展とOB、現役の方が各方面でご活躍されることを心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

.....

高校フットボールの原点から 頂点を目指して

同志社大学ワイルドローバー監督

川口 隆弘

豊中高校アメリカンフットボール部が創部50年を迎えられまして衷心よりお祝い申し上げます。現在、アメリカンフットボールが隆盛を見、特



に関西リーグのレベルが高いのは、豊中高校そしてその良きライバルの池田高校の存在があるからに相違ありません。関西リーグの各大学の

草創期には、両校のOBの方々の熱い情熱が土台となって各大学の基礎を築き上げられ、現在の各大学の伝統となっているのは既成の事実であります。

同志社大学にも、私の先輩諸兄から現チームの選手に至るまで、多くの豊中高校OBの方々が入部されております。同志社大学も数年後には、創部60年を迎えますが、それぞれの時期において、豊中高校OBの方々によってチームが支えられて

きたことは、歴然たる事実であります。また選手としての4年間だけでなく、OBになってからも、幅広くチームを支援していただき感謝に堪えません。おわりに50周年という大きな節目を迎える、また高校を取り巻く環境の変化の中、全国に拡がった高校アメリカンフットボールの原点としての誇りだけでなく、頂点をめざして今後大いなる躍進と発展を遂げられますように、心から願っております。

これからも有為な人材の輩出を期待

立命館大学パンサーズ監督

平井英嗣

豊中高等学校アメリカンフットボール部創部50周年をお迎えになりましたことを、衷心よりお祝い申し上げます。また、半世紀に亘り多くの名選手や指導者を輩出され、日本のアメリカンフットボールの歴史に大きな足跡を残され、その発展に多大な貢献をされたことに感謝と敬意を表わす次第です。

戦後の混乱の中から産声をあげた貴部が、物資も乏しく日本全体が貧しかった時代、先輩諸氏のご苦労はいかばかりであったかと推察されます。夢と希望に満ち溢れた若者の情熱とエネルギーが、その困難を克服し、現在の繁栄の基礎を築かれたものと拝察いたします。この情熱と努力は、現在多少ともアメリカンフットボールに携わる者として、見習うべき忘れてはならないものと思います。

さて、多様化・情報化・国際化が進む現代社会において、アメリカンフットボールの若者に対する教育的意義は増していると考えます。一見荒々しく乱暴にみえる競技の中に細かなルールが存在し、数名の審判団によって機能的に管理されています。

また、一つ一つのプレーには1人の各選手にそれぞれ異なる役割が与えられ、緻密な計算



のもとに組み立てられています。勝利を得るためにには、激しいプレーの中での感情の抑制と制御が迫られ、個人の責任の明確化とそれを組織化する力量の形成を必要とします。

そして、作戦を考えて実行するにあたっての情報の収集・選択・分析・企画・実行・調整といった一連の組織活動は、実社会で必要とされる質の高いコミュニケーション能力を育て、様々な個性を認めながら組織の目標を達成させるといった、困難であっても貴重な経験を与えてくれます。

このようにアメリカンフットボールはその中から学べきことは多く、高い教育的価値を持った競技であると言えます。

アメリカンフットボールというすばらしい競技を発芽させ・育て・発展させてこられた豊中高等学校アメリカンフットボール部の先見性はすばらしいものがあったと存じます。

今後も高等学校の範囲に留まらず、日本のアメリカンフットボールの発展のために益々ご活躍いただき、多くの有為な人材が輩出され続けられることを期待しまして、お祝いの挨拶とさせていただきます。

..... 50年のあゆみ

ピーター岡田氏の手ほどきで始まった

1946年10月1日の午後、ピーター岡田氏は予定の時刻より少し遅れて、豊中中学にやつてきた。

そしてこれまでにわれわれが見たこともない先端の尖ったボールを手にして、フットボールの手ほどきを始めた。

10月1日——

本日放課後米式蹴球の講習があった。始め1時という約束であったのが、とうとう2時前にまでなってやっと来た。馬場先生に聞くと二世であるから“にせ”の米国人であらう、だから時間をたがえるのであらうとのこと…。控室で色々なルールを通訳を通じて聞いたが、通訳が実に下手真な為に遂にとておきの日本語をしゃべり出すなど随分傑作がとんで出た。自分はバスがよく出来たと言うので「ベリー・ナイス」と褒められた。……

10月3日——

今日の放課後直ぐ米式蹴球の講習があった。コーチもなし、ボールも一つしかないので不自由な練習である。然し休み時間に木原先生に「日本全国で始めての米式蹴球のチームである。しかもかう云ふゲームは精神及び身体に非常に好影響を及ぼす。然しそれだけに苦しい運動であるから心をしっかりと持ってやってほしい」と激励されて急に元気が出て来た……。

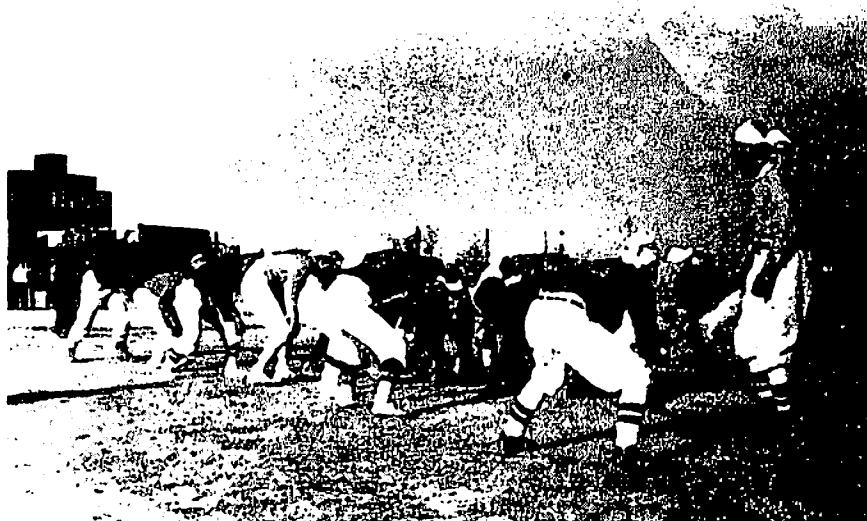
(中23期・徳永義男さんの日記から——当時の仮名遣いのまま)

本邦初試合で勝利

お隣の池田中学(現池田高校)でもわれわれより数日遅れてピーター岡田氏の指導のもとに練習をはじめていたが、その年の暮の12月28日に現在の西宮球技場の東側にあった第二球技場で豊中中学と池田中学の間で初めての試合が行なわれた。

この試合は、わが国の中学校(旧制)では初めてのもので、“進駐軍の指導で練習をしてきた”こともあって当時のマスコミの話題にもなっていた。

試合の結果は6-0で豊中中学が勝利を収めた。



創部第1回の
対池田中学戦
(1946年12月28日、西宮
第二球技場)
6-0で豊中中学の勝ち

創部当時のメンバー

1947年2月3日。3月に卒業する5年生の送別試合を行なった。(5・3・2・1年生連合チーム vs. 4年生チーム)

この日ピーター岡田氏は所用で来校しなかったが、岡田氏の代わりに同僚の将校2名が来てレフリーをしてくれた。

(前から3列目中央は元津校長、1人おいて右が木原教頭、なお一番後ろの「1」の字が見えているのは板を張り合わせて作ったサイコロ型のダウンインジケーター)



第1回甲子園バウル
(1947年4月13日)
14-0で豊中中学の

12月28日は池田中学との試合。日本で初めてということでラジオのスポーツショーの時にも紹介され（当時テレビはまだない）又、朝刊にも「全国初の中等米式蹴球の模範公開」と書かれ、部員一同緊張感がみなぎっていった。場所は西宮の第二球技場、今の駐車場の辺りである。

池田中学は5年生ばかり、体格の面では圧倒されそうだった。第1クォーターで我が校キャプテン酒井さんが倒れた。この事が刺激になったか豊中中学が攻勢に転じた。私はFB、右隅に走り込んで初得点。この6点が勝敗のすべてを決した。当時の日記は冒頭に「晴れの勝利を得た！実にうれしい。誰が何と云つてもうれしい」と書かれている。ピーター岡田氏はボールを一つ失った。…

（中23期・徳永義雄さん「豊陵・創立70周年記念誌」“豊陵を彩る61人”から）

第1回甲子園パウルでも快勝

1947年4月13日、甲子園球場で毎日新聞社と日本フットボール聯盟の主催で第1回甲子園パウルが開催された。

この日、大学対抗戦（慶應大vs.同志社大）の前座試合として行なわれた豊中中学と池田中学の対戦は、米軍軍楽隊の演奏と両校応援団の声援で盛り上がるなかで、豊中中学が好調にゲームを展開し14-0で前年12月の初戦に続いて快勝した。

【主な記録】 [] 内は会場

1947.5.10. 大阪府民体育祭 [中百舌鳥球技場] 豊中中 20 - 0 池田中

5.17. [豊中中] 豊中中 20 - 0 奈良中

金沢国体に出場、試合は引き分け

1947年11月、金沢で開かれた第2回国民体育大会に出場し、11月2日に金沢高等師範学校で池田中学とエキジビション・マッチを行ない、18-18で引き分けた。

なおこの前年の11月に京阪神地区で開催された第1回国民体育大会では、アメリカンフットボールがオープン競技として参加、全関東対全関西の対抗戦が西宮球技場で行なわれているが、フットボールが国体に登場したのは第2回国体のわれわれまでで、それ以後は途絶えている。

当時のメンバー（敬称略）

[顧問：上田 健夫（1946～1949年）]

[顧問：齊藤 良二（1949～1963年）]

1947年卒（中21・22期）（1946年10月 豊中中学5年生）

湯浅一也、亀島廣、重本弘、田中敏夫、中田澄夫、古川武、門田研造、
酒井昭雄（物故）

1948年卒（中23期）・1949年卒（高1期）（1946年10月 豊中中学4年生）

池永輝三、板橋一利、稻井栄晴、今井信吉、大西吳、川崎八郎、黒田隆、
近藤潤二、田中唯雄、徳永義雄、東島文雄、本田菊治、牧野浩、
浅野隆（物故）、中尾泰（物故）

1949年卒（中24期）・1950年卒（高2期）（1946年10月 豊中中学3年生）

安松克治、折田重治、勝豊、高橋正、津田隆治、寺町東之、中西寛治、
中村栄一、長谷川照夫、平田秀晴、政木武、松崎定見、山村純雄、
豊田敬司（物故）

1951年卒（高3期）（1946年10月 豊中中学2年生）

磯村恒治、春田佳男、吉崎哲博、
岸上宗剛（物故）

1952年卒（高4期）（1946年10月 豊中中学1年生）

翁宣之、小倉秀雄（旧姓：金谷）、小野實、景山謙一郎、上領宏一、
鮫島充男（旧姓：古屋）、鈴木昭男、鈴木淳二郎、竹下完、谷岡昇、
中西和弘、古川博市、前田利昭、水田忠伸、道之前由志一、
阿澄一敏（物故）、岩月央雄（物故）、上村登（物故）、尾島純三（物故）、
油林恒夫（物故）



【主な記録】 [] 内は会場

1947.11.6. [茨木中] 豊中中 27-0 茨木中
11.30. [豊中中] 豊中中 43-6 彦根中

雨天の試合で初めての敗戦

1947年12月28日、初試合からちょうど1年目のこの日、西京極球技場で池田中学との第1回定期戦を行なった。雨の降りしきるなか、泥沼のようなグラウンドでのゲームだったが、結果は 0 - 18、初めての敗戦となった。

第2回甲子園バウルで奈良中に敗れる

初めての敗戦から4日目の1948年1月1日に第2回甲子園バウルが開催された。豊中中学は前年に統いて出場した。対戦相手は前年の秋に練習試合で勝ったことのある奈良中学(旧制)だったが、接戦の末 0 - 6 で敗れた。

アメフトを初体験

ピーター岡田氏から手ほどきを受けたのは防具を付けない「タッチフットボール」だった。それはそれなりに面白かったが、防具を付けた「アメフト」はやはり格好よかった。

先輩のいた大学のチームの好意で防具を借りることが出来、1948年2月7日、豊中中学のグラウンドで先輩のいた同志社大学予科(旧制)のチームとアメフトの試合をした。体格がひとり回り大きいメンバーを相手にして結果は幸運にも 6 - 0 で勝った。

豊中中学から豊中高校に

学制改革(6・3・3制の発足)により1948年4月1日、豊中中学(旧制)は「豊中高校」になった。この結果、池田高校やお隣の桜塚高校をはじめ北野高校、茨木高校など旧制中学・旧制高女から高校(新制)に切り換わった高校では、1949年3月の卒業生が第1期生となっている。

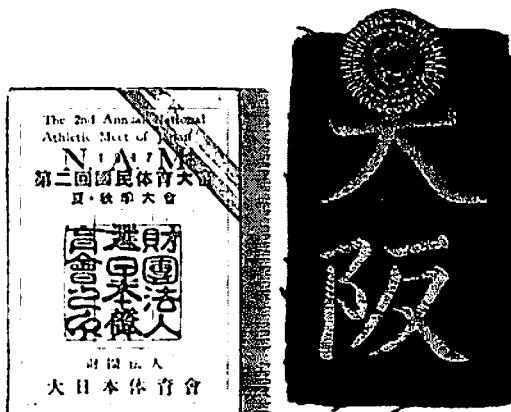
【主な記録】 [] 内は会場

1948.5. 大阪府民総合体育大会 [中百舌鳥球技場] 豊中高 0 - 6 池田高

甲子園 “パウル”

甲子園“ボウル”か、甲子園“バウル”か。すり鉢の形をした“BOWL”をアメリカ流に発音すると甲子園“バウル”となり、第1回から第5回までの正式名称は“甲子園バウル”だった。その後1948年1月17日に開始された“ライス・ボウル”的呼称にあわせて第6回から甲子園“ボウル”に統一されている。（[TOUCHDOWN]誌1977年12月VOL.42から）

金沢で開催された第2回国体に豊中中学が出場したときの選手證(1947年11月)



豐中高校併設中学校

1948年4月1日に新制・豊中高校が発足したが、5学年だった旧制中学から3学年の高等学校になったので、3月31日現在の豊中中学の2年生のために新しく発足した高校に「併設中学校（新制中学）」が出来た。

これによつて3月31日現在の豊中中学校の生徒は

5年生は卒業（豊中中学卒-23期-）または豊中高校の3年生（高1期）に

4年生は豊中高校の2年生（高2期）に

3年生は豊中高校の1年生（高3期）に

2年生は豊中高校併設中学校の3年生に

(旧制中学は1947年から入学試験を実施していないので、1年生はない)

なお新しい2年生（高2期）のなかには2年生終了時に卒業した者（豊中中学卒—24期一）もいた。また「併設中学校」は、この時の併設中学3年生が高校に進学した時（1949年3月31日）まで存続した。

近畿大会始まる

豊中高校、池田高校のほかにも滋賀、京都、奈良の各府県でもタッチフットボールを始める高校が出来て1948年5月第1回の近畿大会が開催された。この大会で、豊中高校は決勝戦で池田高校と対戦し12-6で勝った。

これから後、近畿大会は毎年春と秋に開かれるようになった。

1950.5.1.	第3回春季近畿大会	豊中高 47 - 0 星陵高
5.	"	豊中高 7 - 0 浪速高
5.	"	豊中高 0 - 35 池田高
5.14.	" 決勝戦	豊中高 18 - 6 愛知高

浪速高にアメフトで勝つ

タッチフットボールではアメフトのような防具を着けないし、また相手をタックルで倒すこともないが、それ以外はアメフトと変わらず防具なしでブロッキングもやる。もちろんそれなりに骨折やねんざなどの怪我もあり、後から考えてみれば、よくやったなあという思いがすることもある。当時はとても防具を揃えるといった環境ではなかったが、アメフトをやってみたいという気持ちはみんなが持っていたようだった。

同じ思いの浪速高校チームと話しがまとまり、1948年12月に豊中高校でアメフトの練習試合を行なった。それぞれ先輩のつてで浪速高校は関西大学から、豊中高校は前にもお世話になった同志社大学から防具を借りてきた。

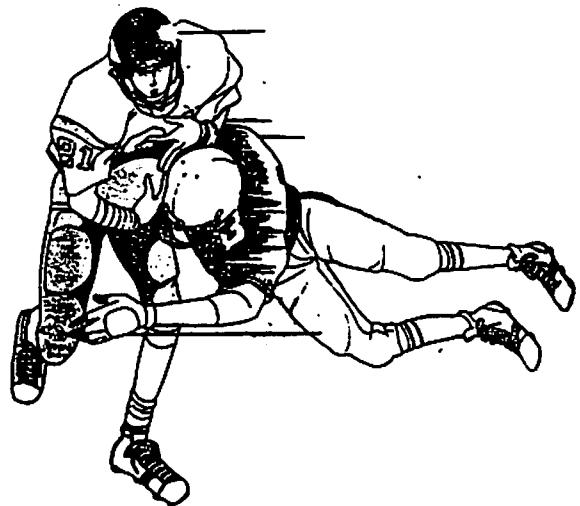
試合当日は朝から雨が降り続くなかで正に泥まみれのゲーム展開になったが、6-0で豊中高校が勝った。

【主な記録】 [] 内は会場

1949.2.	[豊中高]	シニアチーム 豊中高 12 - 0 三島野高(現・茨木高)
		ジュニアチーム 豊中高 14 - 6 三島野高

5.3. 大阪府民総合体育大会1回戦 [中百舌鳥球技場]

決勝	[]	豊中高 19 - 6 三島野高
		豊中高 6 - 25 池田高



男女共学校で試合をしたい…

練習試合の会場については、お互いに話し合って決めることになる。浪速高校との試合についてももちろん、両校で協議して豊中高校に決めたのは、男子校だった浪速高校が、学制改革で男女共学になっていた豊中高校での試合を強く希望したことにもよるものだったが、この試合が行なわれたのは冬休みだったので、女生徒は登校していなかった。

出来たばかりの関学高チームに惜敗

1949年、関西学院大学チームのバックアップで関西学院高等部に新しくタッチフットボールのチームが結成された。当時関西学院大学生だった徳永さん(中23期)の世話で、同校チーム結成後初めての練習試合の対戦相手に豊中高校が選ばれ、5月27日豊中高校で対戦した。結果は0-6で豊中高校が敗れた。

【主な記録】 [] 内は会場

1949.11.	[花園ラグビー場第2球技場]	豊中高 0 - 0 池田高
1950.10.21.	第3回秋季近畿大会 [西宮球技場]	豊中高 0 - 13 関西学院高
11.17.	池田高との定期戦 [池田高]	豊中高 0 - 36 池田高
1951.1.15.	[豊中高]	豊中高 0 - 0 池田高
4.29.	第4回春季近畿大会 [大阪学芸大池田分校]	豊中高 0 - 13 関西学院高
5.4.	" [豊中高]	豊中高 0 - 13 池田高

第4回秋季近畿大会決勝で関学高に敗れる

1951年秋の近畿大会では大阪府予選で池田高校と浪速高校を連破、9月16日から行なわれた大会では1回戦で日吉ヶ丘高校を32-0で圧勝して決勝に進出し、決勝戦で関西学院高等部と対戦の結果0-25で敗れ2位になった。

1951.9.16.	近畿大会大阪府予選1回戦 [池田高校]	豊中高 13 - 6 池田高
22.	" 2回戦 [豊中高校]	豊中高 12 - 0 浪速高
29.	第4回秋季近畿大会1回戦 [中百舌鳥球技場]	豊中高 32 - 0 日吉ヶ丘高
10.7.	" 決勝 ["]	豊中高 0 - 25 関西学院高

【主な記録】 [] 内は会場

1951.10.14.	甲子園バウル予選1回戦 [大阪学芸大池田分校]	豊中高 9 - 6 池田高
11.6.	" 2回戦 [関西学院高]	豊中高 0 - 38 関西学院高

米蹴・アメリカン・タッチフット・アメフト

「米蹴・米式蹴球」「タッチフットボール」「アメリカンフットボール・アメフト」…… 1946年10月にスタートした当初、われわれは「アメリカンフットボール」ということで、手ほどきをうけた。その中身は防具とタックルのない「アメフト」であった。数少ないラジオや新聞など当時のマスコミでは大学生がやっていたアメフトと全く同じように呼んでいてくれていた。時々「米式蹴球」や「米蹴」と書いてあるものも見受けられた。第二次大戦の前には、「鎧球」とも呼ばれていた。(早稲田大学では今でも「米式蹴球部」である)

豊中・池田のほかにも中学(旧制)・高校のチームがぼちぼち結成されるようになってくると、防具もつけずタックルをやらないわれわれの方は、いつの間にか「タッチフットボール」と呼ばれるようになり、タッチフットボール協会が設立され、またタッチフットボールの解説書も出版された。

やがて「アメフト」に対する人気が高まり、タッチフットボール部のある高校でも本来のアメフトを…という機運がひろがってゆくなかで、豊中高校でも関係者の多大の尽力の結果1971年4月からアメリカンフットボールに変身することができた。

(現在、女子大学生を中心に行なわれている6人制のタッチフットボールは、われわれが経験してきたものとは異なる。)



1951年秋季近畿大会（中百舌鳥球技場）

少ない部員に悩む

創部当時のメンバーが次々に卒業し、1952年春に20名いた4期生が卒業した後、やや息切れしたかたちになって新しい部員がなかなか集まらず、チーム編成に苦労した。

(豊陵新聞 1952.9.8.号によると当時の部員は3年生7名、2年生4名、1年生数名となっている)。

【主な記録】 [] 内は会場

1952.4.26.	第5回春季近畿大会 [豊中高]	豊中高 0 - 25 関西学院高
9.20.	近畿大会大阪府予選1回戦 [大阪学芸大池田分校]	豊中高 20 - 0 浪速高
9.	第5回秋季近畿大会 []	豊中高 0 - 33 愛知高
12.21.	池田高との定期戦 [豊中高]	豊中高 39 - 6 池田高
1953.3.	大阪府民体育大会1回戦	豊中高 0 - 12 池田高
1954.5.5.	近畿大会大阪府予選 [豊中高]	豊中高 0 - 0 池田高
5.16.	第7回春季近畿大会 [西宮球技場]	豊中高 0 - 0 星陵高

ボールひとつの差で判定勝ち 第7回秋季近畿大会でブロック優勝

近畿大会は「優勝の感激を多くの学校に…」ということで1953年には2ブロック制に、54・55年には3ブロック制となり、1954年8月9・10日に開かれた第7回秋季近畿大会では、第一部で豊中高校が優勝した。(第二部優勝関西学院高等部、第三部優勝浪速高校)

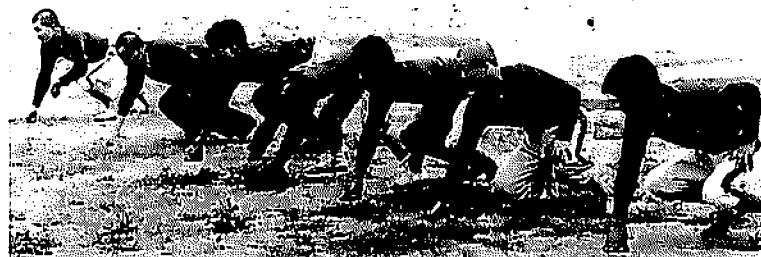
この大会で豊中高校は1回戦で彦根東高と対戦、攻守相譲らず 0 - 0 の双方無得点となったので、大会ルールにより距離による判定ということになった。このため両チームが4回ずつ攻撃を行なったところ、僅かにボール1個の差で豊中高校が勝利をものにした。

つづく2回戦では愛知高と対戦したが、この試合も両チームが無得点となり、又もや距離による判定に持ち込まれた。今度は双方ともディフェンスが頑張って両チームともロス。前の試合で僅差だったこともあって審判が目を凝らして慎重に見守るなかで、ロスの少ない豊中高校が判定勝ちで翌日の決勝戦に進出した。

翌日(8月10日)に行なわれた決勝戦では星陵高校と対戦して 13 - 0 で快勝、ブロック優勝を遂げた。この試合に勝ったメンバーは、優勝もさることながら、久しぶりの得点に大喜びをしたという。なおこの後11月6日に西宮球技場で行なわれた決勝リーグでは、関西学院高等部に 0 - 67 で敗れている。

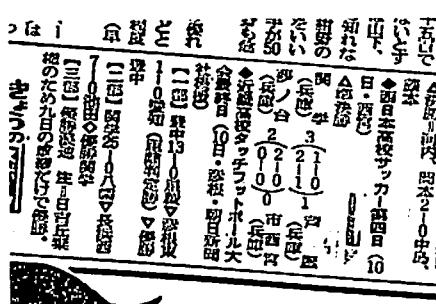
1953年卒（高5期）

井出春中、碓井正一郎、江村高志、
柏原幾松、加藤隆三、神内重明、
田原重雄、能丸省三、森永好洋、
安松丞治



1954年卒（高6期）

後久栄一、住原廣、
津田裕三、政木清



1954年8月10日
近畿大会でブロック優勝
(1954.8.11.朝日新聞)



1955年卒（高7期）

大西章貞、西本俊一、山本泰男

1956年卒（高8期）

上林和夫、北村周一、炭田孝明、
曾我乙彦、辰田善観、中村修

第1回全国大会に出場

1954年1月27・28日に藤井寺球技場で関東からの遠征チームも参加して第1回全日本高校タッチフットボール選手権大会が行なわれた。豊中高校もこの大会に出場したが1回戦で長浜西高と対戦、0－32で敗退した。

部の予算は年額 29,500円

1955年度のタッチフットボール・クラブの予算 29,500円

(豊陵新聞 1955.5.17.No.88号から)

ちなみに運動クラブの予算総額 580,000円

文化クラブの　〃 351,500円

1956年2月現在の部員 11名 (豊陵新聞 1956.2.25.No.95・96合併号から)

【主な記録】 [] 内は会場

1955.5.3. 大阪府民体育大会 [豊中高] 1回戦 豊中高 18－0 浪速高

決勝 豊中高 0－7 池田高

8.1. 第8回秋季近畿大会 [藤井寺球技場] 豊中高 0－27 日吉ヶ丘高

11.18. 池田高との定期戦 [池田高] 豊中高 0－36 池田高

1956.9.22. 大阪府民体育大会 [豊中高] 豊中高 0－31 池田高

大阪大会で優勝

1954年秋の近畿大会でブロック優勝して以来、「優勝」の文字から遠ざかっていたが、1957年春の大阪大会では好調に試合を進め、5月3日に池田高校で行なわれた決勝戦で7－0で浪速高を破って優勝した。

雪で足がすべり初対戦の関東チームに敗れる—第4回全国大会

1958年1月5・6日に藤井寺球技場で行なわれた第4回全日本高校タッチフットボール選手権大会に出場、1回戦で東京から来た聖学院高校と対戦し0－25で敗れた。この試合は前日の雪が残るグラウンドでスパイクシューズが揃っていないかった豊中高の選手が、運動ぐつが滑って日ごろのパワーを充分に發揮できなかつたのが「敗因」ということになっている。



1957年卒（高9期）

小澤悠一、加納巖、木田利一、
小西康夫、高屋勝明、廣岡輝一、
細原泰男
井上嘉徳（物故）



1958年卒（高10期）

伊藤晴彦、岩田蕃、小田泰義、
小原孝彦、木村陽吉、小島侃、
佐藤宏、多賀文彦、武田嘉造、
中西芳弘、西畑長文、湊正、
恵恒雄。



1959年卒（高11期）

大濱光弘、岡崎隆司、岡本重伸、
小畠節三、櫻原英千世、
中原芳洋（旧姓：金山）、
家門正、木村肇、谷浩輔、
古川泰久、
近藤一郎（物故）

【主な記録】 [] 内は会場

1958.5.4.	大阪府民体育大会	[池田高]	豊中高 7 - 9 関大一高
6.9.	近畿大会大阪予選		豊中高 8 - 12 池田高
9.6.	大阪府民体育大会	[池田高]	豊中高 0 - 25 池田高
9.20.	第11回秋季近畿大会	[]	豊中高 0 - 0 伊香高
11.15.	池田高との定期戦	[]	豊中高 0 - 6 池田高
1959.1.6.	第5回全日本高校タッチフットボール大会	[藤井寺球場]	豊中高 0 - 32 長浜西高
5.	大阪府民体育大会		豊中高 6 - 16 池田高
6.17.	池田高との定期戦	[池田高]	豊中高 0 - 6 池田高
秋	大阪府民体育大会		豊中高 8 - 0 泉尾工高
	"		豊中高 0 - 18 関大一高
	"		豊中高 0 - 13 池田高
12.26.	第6回全日本高校タッチフットボール大会	[藤井寺球場]	豊中高 0 - 12 都立西高

2年生だけで頑張った—高14期生

メンバーの獲得にはいつの時代でも頭を痛めており、とりわけ毎年4月に新入生が入ってくるときには積極的に勧誘し、またそれ以外のときでも絶えず努力を続けているものの、ときにはなかなか揃わないこともあった。1958年に入学した13期生と1960年入学の15期生にはとうとうメンバーがいなかった。このため14期生が2年生のとき(1960年4月～)には上級生も下級生もおらず、翌年4月に3年生になって新しい1年生が入ってくるまで、12名の2年生だけで頑張った彼らは、「われわれは中興の祖だ」と自負していた。

【主な記録】 [] 内は会場

1960.5.3.	大阪府民体育大会準決勝	[豊中高]	豊中高 6 - 0 池田高
"	" 決勝戦	[]	豊中高 0 - 26 浪速高
6.4.	第13回春季近畿大会1回戦	[長浜小]	豊中高 0 - 34 関西学院高
9.10.	大阪府民体育大会1回戦	[池田高]	豊中高 0 - 18 浪速高
9.11.	" 3位決定戦	[]	豊中高 6 - 0 泉尾工高
9.24.	第13回秋季近畿大会1回戦	[]	豊中高 0 - 40 市立西宮高
12.26.	第7回全日本高校タッチフットボール大会	[藤井寺球場]	豊中高 0 - 62 関西学院高

1960年卒（高12期）

今門陽太郎、川田文郎、北村一男、
小早川強、小林幹雄、澤輝次、
深田至孝、福田俊二



[顧問：糸井 通浩（1961～1964年）]

(高13期は部員ゼロ)



1962年卒（高14期）

青山 誠、市川健二、稲田哲郎、
植田 隆、奥 昭雄、小室博義、
島 詔雄、塙田正城、山森康宏、
吉田浩治、渡辺宏紀
有馬俊輔（物故）

(高15期は部員ゼロ)

[顧問：今安 達也（1962～1973年）]

[顧問：山形 泰正（1963～1975年）]

1964年卒（高16期）

市橋栄二、大西 宜、金子正明、小早川哲、佐藤寿春、竹内訓夫、
中島健夫、森里光生、八木孝明、八木葵一、谷津友則
(マネージャー) 安居堯子 (旧姓: 安部)

1961.1.7.		[関西学院高] 豊中高 0 - 48 関西学院高
6.10.		[池田高] 豊中高 0 - 28 池田高
11.27.		[関西学院高] 豊中高 0 - 74 関西学院高
1962.6.	第15回春季近畿大会1回戦	[関西学院高] 豊中高 0 - 34 八幡高
9.22.	第15回秋季近畿大会1回戦	[池田高] 豊中高 2 - 50 市立西宮高
11.17.	全国大会大阪・兵庫予選1回戦	[市立西宮高] 豊中高 50 - 0 星陵高
11.18.	〃 準決勝	[〃] 豊中高 0 - 20 市立西宮高
11.23.	〃 3位決定戦	[豊中高] 豊中高 6 - 6 関大一高
11.25.	〃 3位決定戦	[関大一高] 豊中高 0 - 0 関大一高
	(引き分けによる再試合)	抽選の結果、関大一高が3位に
12.25.	第9回全日本高校タッチフットボール大会 [藤井寺球場]	
		豊中高 6 - 8 都立西高
1963.5.3.	大阪府体育祭 [池田高]	豊中高 0 - 6 泉尾工高
5.4.	大阪府体育祭 [〃]	豊中高 16 - 0 関大一高
6.15.	第16回春季近畿大会 [関西学院高]	豊中高 6 - 26 関西学院高
9.	大阪府高校総合体育大会1回戦	豊中高 16 - 16 関大一高
		抽選の結果、豊中高が2回戦に進出
	2回戦	豊中高 26 - 6 池田高
	決勝	豊中高 6 - 14 泉尾工高
9.	第16回秋季近畿大会 [池田高]	豊中高 6 - 0 長浜商工高
	〃	豊中高 0 - 52 関西学院高

女子マネージャー登場

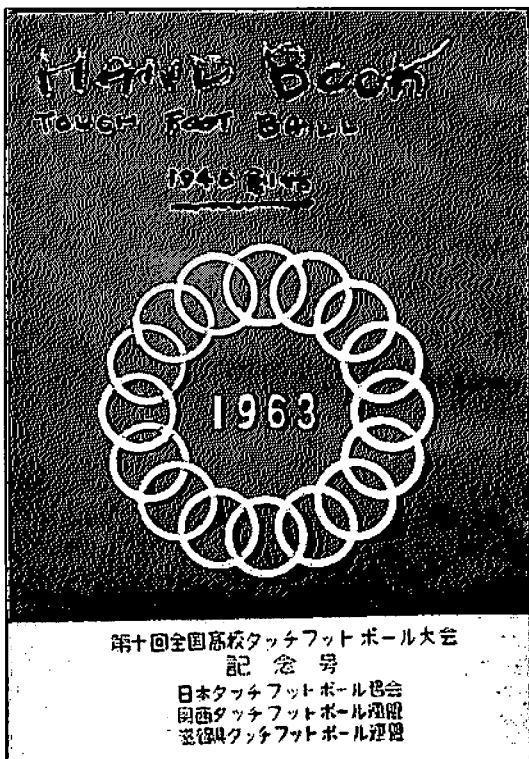
1948年4月全国一斉に新制高校になった豊中高校では男女共学だったが、タッチフットボールは野球やサッカーなどと同様に男性のスポーツだったので、顧問も部員もずっと男性ばかりだった。

1960年ごろから、他のチームではぼちぼち女子のマネージャーが見受けられるところが現れた。程なく豊中高校のタッチフットボール部でも1962年4月から女子生徒にマネージャーを依頼するようになった。

第9回全国大会（1962年12月）のメンバー表

（「TOUCH FOOTBALL HANDBOOK」誌 1963年第10回
全国高校タッチフットボール大会記念号から）

～「顧問」「主将」「コーチ」とともに「主務」の名前も見える



選手名	学年	位置	中高等学校		大阪	豊島	主将	顧問	主務	コーチ	ユニホーム	(上)赤 (中)白 (下)白	春子	達也	春子	強	(下)白
			糸井通商	今西													
中島 雄一	2	E												83			
岸田 健人	1	"												80			
本口 宏生	1	"												81			
里原 夫三	2	T												82			
林田 赴哲	1	"												72			
川内 光良	1	G												70			
木下 二三	2	"												73			
橋本 勉	1	C												60			
岸川 駿介	2	QB												61			
大森 二二	1	"												62			
小林 则生	2	HB												63			
柳澤 明	1	"												50			
井上 則郎	2	"												51			
井上 春一	2	QB												10			
井上 駿太	1	"												12			
井上 淳	2	HB												20			
井上 弘	1	"												40			
井上 栄	2	"												21			
井上 敏友	1	"												41			
井上 邦太	2	FB												11			
井上 義彦	1	"												31			
井上 伸	2	"												30			
井上 伸	1	"															

ル大会

人気ナンバーワンの女生徒にマネージャーを頼む

2年生のときに女子のマネージャーを頼もうという話になった。頼みにゆくのはキャプテンの役目だということになって、当時の人気ナンバーワンだった安部さん（現、安居寛子さん）にはじめてのマネージャーになってもらった。結果的に人気の高い女生徒がマネージャーになったことで、その次の年からマネージャーの希望者が次々に出て来るようになったということである。

（高16期・佐藤寿春さんの話）

全国大会（第10回）で5位

全日本高校タッチフットボール選手権大会には第1回(1954年12月)以来、第4回(1958年1月)、第5回(1959年1月)、第6回(1959年12月)、第7回(1960年12月)、第9回(1962年12月)に出場しているが、いずれも1~2回戦で敗退している。1963年12月の第10回大会でも2回戦で市立西宮高校に敗れて5位となった。

1963.11.10. 全日本高校タッチフットボール選手権大会大阪府予選 [関大第一高校]

豊中高 14 - 0 関大一高

1963.12.26. 全日本高校タッチフットボール選手権大会1回戦 [河南高校]

豊中高 12 - 6 長浜北高

〃 2回戦 [藤井寺球場] 豊中高 0 - 64 市立西宮高

【主な記録】 [] 内は会場

1964.6.6. 大阪府高校総合体育大会 [豊中高] 豊中高 6 - 6 池田高

6.7. 〃 [〃] 豊中高 14 - 6 箕面高

6.20. 〃 [池田高] 豊中高 6 - 28 箕面高

1965.6.11. 第18回近畿大会 [豊中高] 豊中高 0 - 8 箕面高

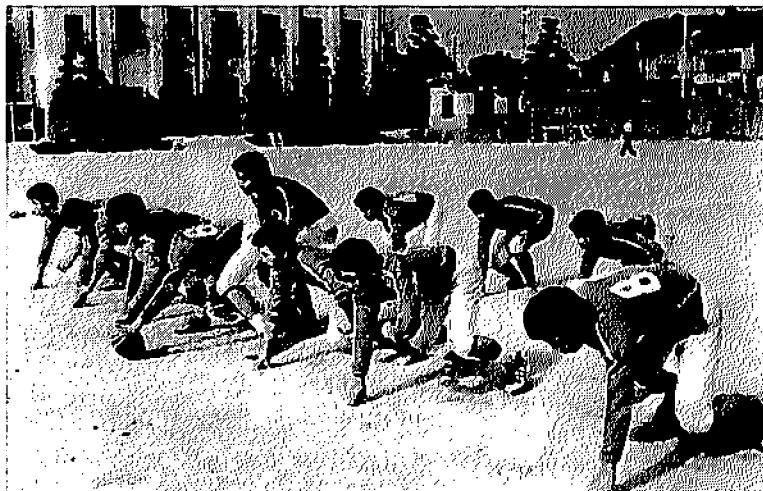
9.11. 大阪大会 [浪速高] 豊中高 6 - 0 浪速高

9.12. 〃 [豊中高] 豊中高 0 - 58 関大一高

北摂リーグ、大阪大会で優勝、第20回春季近畿大会では3位

1963年に箕面高校が新設され、豊中高校から転任された齊藤良二教諭によってタッチフットボール部ができるが、1960年代の後半になって豊中高校、池田高校、箕面高校のほかにもチームを結成した箕面学園高校を含めた4校で「北摂リーグ」が行なわれるようになつた。

豊中高校は1966年、1967年の北摂リーグで連続優勝した。とくに1967年には当時3年生だった20期生とラインが強かった21期生がよくチームを支え、北摂リーグ連続優勝の余勢をかけて大阪大会でも優勝した。その後に出場した春の近畿大会(第20回)では準決勝で関西学院高等部に敗れて3位となつた。



1965年卒（高17期）

荒木弘二、伊敷健二郎、大原貞男、
加藤佳彦、岸田正俊、岸本寅人、
喜多 浩、小林良三、杉浦芳弘、
竹崎太康、津田勇信、広野敏生、
藤田 純、若林 毅
(マネージャー)
末廣久美（旧姓：井澤）



1966年卒（高18期）

岡本 力、藤巻光雄、吉野隆夫
(マネージャー)
溝畠 操（旧姓：小田垣）

1967年卒（高19期）

井上康二、島本健次、高橋 進、寺尾栄一、遠木昭宣、中武昭方、
深見純生、福井久夫、丸山 裕、村田清治、鷲田 清、
(マネージャー) 天野和子（旧姓：篠瀬）

【主な記録】 [] 内は会場

1966. 2. 20.	北摂リーグ決勝戦	豊中高 60 – 6 箕面高 北摂リーグで優勝
4. 23.	[関西学院高]	豊中高 6 – 26 関西学院高
4. 29.	[豊中高]	豊中高 24 – 0 関大一高
春	第19回春季近畿大会	豊中高 20 – 40 市立西宮高
6. 5.		豊中高 20 – 26 関大一高
8. 29.	近畿大会大阪府予選	豊中高 15 – 0 池田高
8. 31.	"	豊中高 20 – 0 泉尾工高
9. 3.	"	豊中高 62 – 0 箕面学園高
9. 11.	"	豊中高 14 – 12 箕面高
9. 17.	第19回秋季近畿大会 1回戦 [箕面高]	豊中高 6 – 14 浪速高
11. 5.		豊中高 6 – 8 愛知高
11.13.	全国大会予選	豊中高 0 – 32 池田高
11.20.	"	豊中高 6 – 20 池田高
11.27.	"	豊中高 8 – 14 関大一高
1967. 1. 21.		豊中高 0 – 12 箕面高
2. 11.	北摂リーグ第1戦	豊中高 0 – 14 箕面高
2. 18.	" 第2戦	豊中高 20 – 6 箕面高
2. 19.	" 決勝戦兼池田高との定期戦	豊中高 46 – 0 箕面学園高
		豊中高 14 – 8 池田高 北摂リーグで優勝
4. 22.	[関西学院高]	豊中高 0 – 6 関西学院高
5. 5.	大阪府民体育祭 [池田高]	豊中高 50 – 0 箕面学園高
5. 6.	" ["]	豊中高 22 – 6 池田高
5. 7.	" ["]	豊中高 6 – 0 箕面高 大阪府民体育祭で優勝
6. 8.	近畿大会大阪府予選 [豊中高]	豊中高 50 – 0 消風高
6. 10.	" [箕面高]	豊中高 6 – 0 関大一高
6. 11.	" [池田高]	豊中高 20 – 6 池田高
6. 17.	第20回春季近畿大会 1回戦 [関西学院高]	豊中高 8 – 0 彦根工高
6. 18.	" 準決勝 ["]	豊中高 0 – 28 関西学院高 近畿大会で第3位
6. 26.	[豊中高]	豊中高 18 – 0 大阪大学
8. 25.	近畿大会大阪府予選	豊中高 18 – 6 浪速高
8. 27.	"	豊中高 不戦勝 消風高
8. 29.	"	豊中高 0 – 6 箕面高 予選で敗退
9. 21.	[池田高]	豊中高 0 – 6 池田高
11.11.		豊中高 14 – 0 池田高
11.19.	全国大会大阪府予選 [箕面高]	豊中高 22 – 6 関大一高 全国大会出場権獲得
11.23.	"	豊中高 0 – 20 泉尾工高



1968年卒（高20期）

岩橋 修、梶山 剛、衣笠正道、
志村安男、田村雅史、永田哲男、
西川 健、山田 実

大阪大学チームとタッチフットの練習試合

1967年6月26日豊中高校でこの年出来たばかりの大坂大学のチームとタッチフットの練習試合を行なった。結果は豊中高 18 - 0 大阪大学。

このころから大学のフットボール・チームが増えて來たが、おかげで豊中高校を卒業して大学でもフットボールを続ける選手が、毎年のように続くようになっていった。



1969年卒（高21期）

栗田 豊、高橋昌徳、玉田誠二、
西村 隆、東元春夫、向田 博、
米村長大（物故）
(マネージャー)
黒井真知子（旧姓：古莊）

1967.12.25. 第14回全国高校タッチフットボール大会1回戦

豊中高 不戦勝 法政二高

(流感による全校閉鎖のため法政二高棄権)

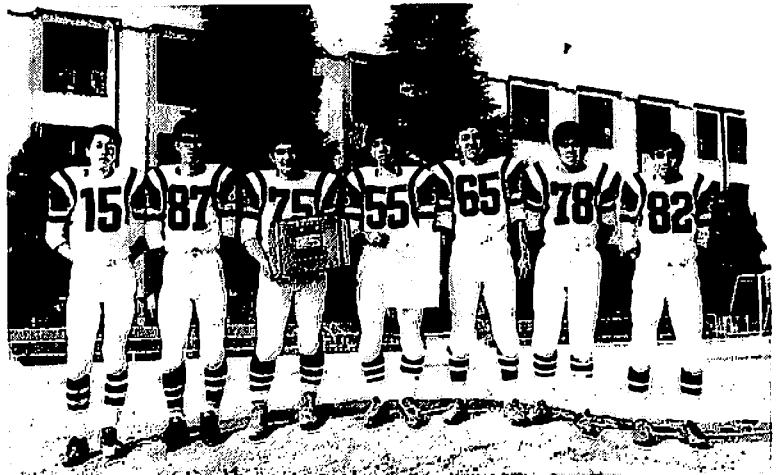
12.26	"	2回戦 [関西学院高]	豊中高 0 - 68 関西学院高
1968. 3.		[池田高]	豊中高 8 - 20 池田高
4.5.			豊中高 20 - 0 池田高
4.20.	池田高との定期戦		豊中高 12 - 0 池田高
4.28.	大阪府民体育祭 [箕面高]		豊中高 18 - 0 関大一高 けが人が続出したためその後の試合は棄権した
6.8.	近畿大会大阪府予選		豊中高 34 - 0 清風高
6.9.	"		豊中高 8 - 14 池田高
6.16.	"		豊中高 26 - 0 泉尾工高 大阪府3位、近畿大会出場権獲得
6.22.	第21回春季近畿大会1回戦 [長浜西中]	豊中高 6 - 22 八日市高	
12.27.	第15回全国高校タッチフットボール大会1回戦 [関西学院高]		豊中高 0 - 44 日大桜丘高

斬新なコーチによる自信とチームワークで関学高に快勝し優勝
—第22回春季近畿大会—

1969年の春に3年生になった22期生を中心のチームは、2年生のころからコーチ陣が取り組んでいた斬新な指導が徐々に効を奏し、バスを中心とした力強いチームに育っていった。上級生が開けたラインの穴を下級生のバックスが駆け抜けるというチームワークと、これをやれば勝てるという自信に裏付けられて、好調にゲームを進めていった。

5月の大阪府民体育祭では決勝戦で池田高校を破って優勝し、その勢いに乗って出場した近畿大会(第22回)では1回戦で広島から遠征してきた崇徳高校に快勝して準決勝に進出、2日日の午前中に行なわれた準決勝でも彦根東高校に勝って午後からの決勝に臨んだ。決勝戦の相手は強豪関西学院高等部だった。同校は1949年に同校チーム結成後の初試合で負けて以来なかなか勝てなかったが、この年の豊中高校のバスには試合前から相手のコーチも感心するだけの威力があり、攻守によく健闘して遂に関学高に初勝利を挙げ、関西大会で優勝した。

1969. 5	大阪府民体育祭 [池田高]	豊中高 8 - 0 池田高
6.21.	第22回春季近畿大会1回戦 []	豊中高 32 - 0 崇徳高



1970年卒（高22期）

井上丈久、岸田明義、北村博彦、
粉川正博、斎藤和弘、坂口昇、
西崎文博、松瀬裕、三木茂生、

（マネージャー）

巽 美知子（旧姓：真島）

画期的なインサイドワークとコーチング

コーチ術について先輩たちから「やる気持ちのある者だけ集めろ」「背が高い者をQBに」などのアドバイスをうけた森里光生さん（高16期）や伊敷健二郎さん（高17期）らが中心になって、コーチに精を出していた。放課後の練習は完璧に分業化されたコーチングのもとに、この練習を繰り返せば強くなるという信念が浸透していった。チームを構成する部員の方も、昼休みに、当時あったコンクリートのスタンドに集まって、前の日の練習のことや事務連絡の話をするというような、フットボールの「虫」になっていた。

上下級生のチームワークがよくなるとともに、強力な上級生のラインと文字どおり長身のQBを中心に、パスを主体とするチームに仕上がっていった。

これらの要素がうまく重なった結果が、アメフトへの切り替えを目前にして近畿高校タッチフットボール大会が終盤を迎えるという時期に、関西学院高等部を破って優勝をもたらしたのであった。

「それはまさにインサイドワークとコーチングにおいて、近代フットボールの概念をとりいれた画期的な年だった。」

（高22期・岸田明義さんの話）

1969. 6. 22. 第22回春季近畿大会準決勝 [箕面高] 豊中高 22 – 6 彦根東高
" " 決勝 ["] 豊中高 30 – 14 関西学院高

【主な記録】 [] 内は会場

1969.12.26. 第16回全国高校タッチフットボール大会1回戦 [関西学院]

豊中高 0 – 12 日大一高

この試合は前日の練習で負傷者が発生、ぎりぎりのメンバーに欠員ができたため、急きょ引退していた3年生に助っ人を依頼し、どうにか棄権を免れた。

1970. 春 大阪府大会で準優勝

9.5. [豊中高] 豊中高 0 – 0 池田高

9.12. 第23回秋季近畿大会 [虎姫高] 豊中高 0 – 52 関西学院高

東京に遠征して敗れる—第17回全国大会

1970年12月26日の第17回全国高校タッチフットボール大会は、この年からアメフトに切り換えた高校を除いて、豊中、八日市、東海大付属および崇徳の4高校が参加して、東京の駒沢球技場で開催された。大会では初戦で八日市高校と対戦、健闘したが6 – 18で敗退した。

豊中高校は翌年(1971年)からアメフトに切り換えたので、タッチフットボールの全国大会に参加したのは、これが最後となった。なおタッチフットボールの全国大会は、この後1972年(第19回)まで行なわれた。

また同時に、この年からアメフトに切り替えた高校が参加して第1回全国高校アメリカンフットボール選手権大会も始まっている。

アメフトに変身

1946年の創部以来、豊中中学～豊中高校がやってきたのは「タッチフットボール」だった。防具を付けないでタックルなしのゲームには、何か物足りないものを感じていた。ときどき先輩の防具を借りてきて身につけてみたり、練習試合をやることがあったが、本格的にぶつかって行くのはやはり楽しかった。そんな思いは豊中高校だけでなく、ほかの高校のタッチフットボール・チームでも同じだった。1960年代になるとそんな思いがだんだん積み重なっていった。

糾余曲折を経て、関係者の尽力があって、連盟では1970年からアメフトに切り換えることになった。もちろん1～2年の間はタッチフットも残されていたが、このことが大きな



1971年卒（高23期）

井上 享、大久保仁、河本幸雄、
北山栄一、柴田 尚、中井孝男、
中谷政和、水口龍次、
(マネージャー)
中山恵子（旧姓：堀）、
桶垣明子（旧姓：小泉）

タッチの時代の泊りがけの遠征は1勝2敗1引き分け

創部50年、その前半はタッチフットだった。この時代前後4回泊りがけで遠征をした。

最初は1947年11月の第2回国体。当時の最上級生のメンバーだった5年生全員（中23期・高1期）が顧問の上田（健夫）先生の引率のもと、2日前の夜大阪駅から夜行列車で会場の金沢へ乗り込んだ。まだ寝台車などではなく、SLの吐く煙と煤に薄汚れた顔で翌朝現地に着いた一行は、当てがわれた山合い（大聖寺）の宿舎で小憩。翌日の試合に備えて英気を養った。11月2日に金沢高等師範学校グラウンドで行なわれた試合は、池田中学のバス、ランともに好調で前半は0-18とリードされたが、第3Qになって豊中中学はバスを主体にした攻撃でTDを重ねて挽回、結果は18-18の引き分けとなった。

1954年の第7回秋季近畿大会は8月9・10日の両日彦根市で開催された。試合日程が2日ということで、泊りがけということになったが、国鉄（JR）に乗って一泊することは選手たちにとってはもちろん初めての遠征試合だった。第1日目の2試合はいずれも得点ゼロで距離による判定勝ち、その夜は、まるで友達のようだった顧問の齊藤（良二）先生と一緒に、修学旅行のような楽しい一夜を過ごした。翌日の決勝戦では久々の得点で星陵高校を13-0で破って第1部でブロック優勝を遂げた。

1960年6月4日に長浜小学校で開催された第13回春季近畿大会にも、前日から泊りがけで参加した。2年生だけの11人ギリギリのメンバーだった14期生チームは、1回戦で関西学院高等部と対戦した結果は0-34。当時無敵だった同校のハワーに挑戦することの空しさを見せつけられたゲームだった。

第17回全国高校タッチフットボール大会は1970年12月26日東京の駒沢球技場で行なわれた。この大会は豊高がタッチフットとして参加した最後の大会だった。初めての東京遠征でしかもメンバーのほとんどが東京は初めてとあって、顧問の山形（泰正）先生に率いられた新幹線のなかでは修学旅行気分で盛り上っていた。それでも代々木の宿舎に到着した一行は、新幹線のムードとは打って変わってすぐにトレーニングを始めるなど、翌日の試合を前にみんなが張り切っていた。だが、大会では初戦で八日市高に6-18で惜敗した。

刺激になった。

その前の年(1969年)の春の近畿大会で宿敵関学高を大差で破って優勝した豊高タッチフットボール部のメンバーは、やり遂げたという達成感とともに、周りの高校チームが次々とかっこ良いアメフトに切り換えて行くなかで、何かやり残したことがあるような思いを抱く者も少なくなかった。切り換えについては、高校生が体力的に大丈夫か、危険ではないかなど、疑問の声もあったが、顧問の先生やOBのバックアップなど、関係者と部員が一緒になって、切り換えに取り組んでいった。とりわけ限られた期限のなかで、学校や家族など関係者の理解を得てこられた顧問の先生たちの気遣いは、大変だったようだ。

その結果取りあえずクラブの名称だけは1970年からアメリカンフットボール部となつたが、肝心の防具はなかなか揃わず、1971年4月から参加したアメフトの大会では、はじめのうちはそれまで使っていたタッチフットの装備も併用していたこともあった。

【主な記録】 [] 内は会場

1971.5.2. 大阪府民体育祭 2回戦 [池田高] 豊中高 0 - 6 池田高

大阪府大会で3位

アメフト大阪大会で初優勝 第1回関西大会では関学高に大敗、準優勝

アメフトになってから初年度の1971年の春は大阪大会で3位だったが、その年の秋には大阪大会で優勝、9月11・12日に池田高校グラウンドで開催された第1回関西選手権大会では1回戦で市立西宮高校を破ったが決勝戦で関西学院高等部に大敗し2位となった。

1971.9.11. 第1回関西選手権大会 1回戦 豊中高 42 - 0 市立西宮高

9.12. " 決 勝 豊中高 0 - 92 関西学院高

【主な記録】 [] 内は会場

1972.1.29. [豊中高] 豊中高 14 - 0 池田高

1973.9. 豊中高 0 - 54 箕面高

11. 豊中高 6 - 0 高槻高

部員11名で苦戦した

いつの時代でもメンバーの獲得には苦心のあとが絶えず、勧誘の成果が実らないことも少なくなかった。アメフトに切り換わってからも1972年の春に3年生が卒業した後、負傷者もあって出場できる選手はぎりぎりの11名、それでも春の大阪府大会では優勝した関大



1972年卒（高24期）

梶谷嘉一、田中雅巳、
前谷尚男、山本 韶



1973年卒（高25期）

池内和彦、黒田能弘、斎藤信弘、
作野雅昭、清水潤三、
卓 良泰（旧姓：光山）、
西崎久能、橋野裕文、原 康弘、
薬師寺史治
(マネージャー)
奥田 緑（旧姓：松井）



1974年卒（高26期）

井上雅弘、西山寛章、松田純一、
(マネージャー)
下高原千秋（旧姓：上原）、
北岡圭子（旧姓：福島）

一高、2位の泉尾工高につづいて3位となった。

その後も負傷者が出るので、一時は学校関係者の中でも試合をすることに対して憂慮する声も出るなど、選手たちは練習時間の確保にも気遣うムードもあったが、コーチにきていた若手のOBたちは「体力づくりに欠かせない」といって頑張っていた。

しかしどうしてもメンバーが揃わず、ときどき公式戦を棄権することもあった。

【主な記録】 [] 内は会場

1974.4.		豊中高 7 - 21 泉尾高
9.		豊中高 0 - 52 関大一高
11.30.	[池田高]	豊中高 16 - 0 池田高
1975.3.5.	大阪府大会 1回戦	豊中高 36 - 0 高槻高
4.19.	" 2回戦	豊中高 14 - 20 追手門学院高
8.31.	大阪府大会 1回戦	豊中高 28 - 0 箕面自由学園高
9.	" 2回戦	豊中高 0 - 62 関大一高
1976.4.3.	[豊中高]	豊中高 8 - 16 池田高
4.	大阪府大会 1回戦	箕面学園高に勝つ
4.	" 2回戦	関西大倉高に負け
9.	大阪府大会 1回戦	池田高に負け

大阪大会で優勝、第7回関西大会では準決勝で敗退

1977年の春にはメンバーもかなり増え、チームの力も次第に充実してきた。大阪府大会では準決勝で関西大倉高校を破り、決勝戦では引き分け再試合の後、箕面高校に勝って久しぶりに優勝。その後の第7回関西大会では1回戦で日吉ヶ丘高校に勝ったが、続く準決勝で虎姫高校に敗れて敗退した。

1977.6.11.	第7回関西選手権大会 1回戦 [関西学院高]	豊中高 32 - 6 日吉ヶ丘高
6.18.	" 準決勝 [希望ヶ丘グラウンド]	豊中高 6 - 20 虎姫高

大阪チームの初勝利に貢献、豊高ユニット西宮ボウルで健闘

1977年春季大阪大会で優勝した豊中高校チームは、この年の5月28日西宮スタジアムで開催された第23回西宮ボウルに15名の選手が大阪府高校選抜チームに選ばれた。この試合ではオフェンスチームに出場した豊高ユニットが挙げた得点によって、齊藤良二総監督

[顧問：山本 周一（1974～1984年）]



1975年卒（高27期）

雨宮 伸、片岡幹夫、児玉 穏、
田尻純一、千東圭央、名村 孝、
(マネージャー)

小島美和子（旧姓：大高）

小野理英子（旧姓：島本）

三坂博子（旧姓：清水）

[顧問：長瀬 尚（1975～1985年）]

[顧問：工藤 健二（1975～1975年）]

[顧問：桑原 勝良（1975～1975年）]

[顧問：藤木 敏雄（1975～1987年）]



1976年卒（高28期）

金山敏清、鎌田英嗣、塙崎芳久、
大丸悦充、中島正歲、藤井義久、
森本寿夫、鷺尾 毅

(マネージャー)

木下裕子（旧姓：三津田）

吉田晴子（旧姓：西野）

(もと豊中高校顧問)が率いる大阪チームが初勝利を得た。

1977.5.28. 第23回西宮ボウル [西宮スタジアム] 大阪府高校選抜 16 - 14 兵庫県高校選抜

ニックネームは「ROADRUNNERS」

このころ大学のチームはもちろん、高校チームの間にもニックネームをつけるところが増えてきた。1977年ごろになって豊中高校のアメリカンフットボール部でもそんなムードが強まってきて、当時2年生だった西山(キャプテン)、森(副主将)、尾崎(QB)それに田中(守備ヘッド、以上いずれも31期生)の各選手が中心になって「ロードランナーズ」というニックネームを決めた。

「ロードランナー」は、地上を疾走するカッコウ科の鳥で、アメリカ西部に棲息し和名は「ミチバシリ」という。当時の尾崎選手が1フォーメーションからトリプルオプションが得意だったこと、豊中高校のチームカラーが“走るチーム”だったので「ロードランナーズ」になったとも、またこのチームはパスでは勝てず、ランでしか進めないチームだったので「ロードランナーズ」になったともいわれている。

デザインについては当時フットボールショップを経営していた玉野氏(関西学院大学OB)のお世話になった。豊高生の出したアイデアを図案化したり、ヘルメット用のシールを作る相談など、いろいろ親切に面倒をみていただいた。予算がないということで出血サービスだったようだ。

大阪大会で優勝、第8回関西大会では関学に敗れ準優勝

1978年も好調に試合を進め、春の大阪府大会では前年に引き続いで優勝、関西大会は名古屋・東邦高校で行なわれた1回戦で静岡の東海高校に圧勝、西宮球技場の準決勝でも虎姫高校を破って決勝に進出したが、決勝戦で関西学院高等部に敗れて準優勝となった。

1978. 春	大阪府大会 1回戦	豊中高 20 - 0 清風高
"	準決勝	豊中高 22 - 16 追手門学院高
5.5.	" 決勝 [箕面高校]	豊中高 16 - 14 池田高
6.17.	第8回関西選手権大会 1回戦 [東邦高校]	豊中高 94 - 0 東海高
6.24.	" 準決勝 [西宮球技場]	豊中高 14 - 6 虎姫高
6.25.	" 決勝 []	豊中高 0 - 26 関西学院高

豊高選手西宮ボウルで大活躍、大阪チーム連勝

前年に続き、この年も豊中高校から15名の選手が大阪府高校選抜チームに選ばれて西宮ボウルに出場し、オフェンスチームで大活躍、兵庫県選抜チームを破って連勝した。

1978.6.3. 第24回西宮ボウル[西宮スタジアム] 大阪府高校選抜 20 - 13 兵庫県高校選抜

[顧問：津田 治子（——物故——）]

[顧問：細川 英美（1976～1993年）]

1977年卒（高29期）

與 博之、上田博之、大倉由嗣、

滝沢 衛、多田知幸、田中隆司、

田村英士、原田 淳、南 宏一、

矢野正仁

小宮敏幸（物故）

（マネージャー）

福井京子（旧姓：浅田）、

亘 貴子（旧姓：山田）



1978年卒（高30期）

岡 省一郎、川上義広、郡 秀介、

寺西信彦、中内龍治、平山俊達、

藤島嗣行、八木茂政

（マネージャー）

関 裕子、森山ひとみ

1979年卒（高31期）

天野充猛、井上喜弘、尾崎健二、

川俣 均、田中 清、玉城祥啓、

辻中達也、中西正明、西山一也、

長谷川公三、森 裕展、門田勇人、

山本雅洋

（マネージャー）

井上靖子（旧姓：青木）

小池覚子（旧姓：河合）



【主な記録】 | 内は会場

1978.3.31.	[豊中高]	豊中高 14 - 28 池田高
秋	大阪府高校総合体育大会 2回戦(1回戦はシード)	豊中高 16 - 64 関西大倉高 2回戦で敗退
冬	新人大会	豊中高 42 - 0 箕面自由学園高
1979.春	大阪府大会 2回戦(1回戦はシード)	豊中高 12 - 14 池田高 2回戦で敗退
秋	第34回大阪府高校総合体育大会 1回戦	豊中高 6 - 12 箕面高 1回戦で敗退
冬	新人大会	豊中高 42 - 8 箕面自由学園高 豊中高 0 - 8 関西大倉高

大阪大会で優勝、関西大会(第10回)では準優勝

1979年は春、秋とも大阪大会の初戦で敗退したが、1980年は2年前と同様、滑り出しから快調に試合を進め、春の大阪府大会では箕面自由学園高校、池田高校、清風高校を次々に破り、決勝戦では関大第一高校の棄権によって不戦勝で優勝、関西大会でも市立西宮高校、虎姫高校を連破したが、決勝戦では又もや関西学院高等部に敗れて準優勝となった。

1980.3.27.	池田高との定期戦(33回)[池田高校]	豊中高 28 - 14 池田高
春	大阪府大会 1回戦	豊中高 32 - 12 箕面自由学園高
"	2回戦	豊中高 34 - 0 池田高
"	準決勝	豊中高 38 - 0 清風高
"	決勝戦	豊中高 捨権 関大一高
6.15.	第10回関西選手権大会 1回戦[関西学院]	豊中高 50 - 6 市立西宮高
6.21.	" 準決勝[彦根陸上競技場]	豊中高 36 - 0 虎姫高
6.22.	" 決勝戦[]	豊中高 0 - 20 関西学院高

豊高ユニットがTD、対イオラニ高(ハワイ)親善試合

1980年8月23日神戸中央球技場にハワイからイオラニ高校を迎えて、全関西高校選抜チームと親善試合を行なった。試合は21 - 6でイオラニ高校が勝ったが、この試合で関西チームが挙げた得点は、オフェンスに出場した豊高ユニットによるものだった。

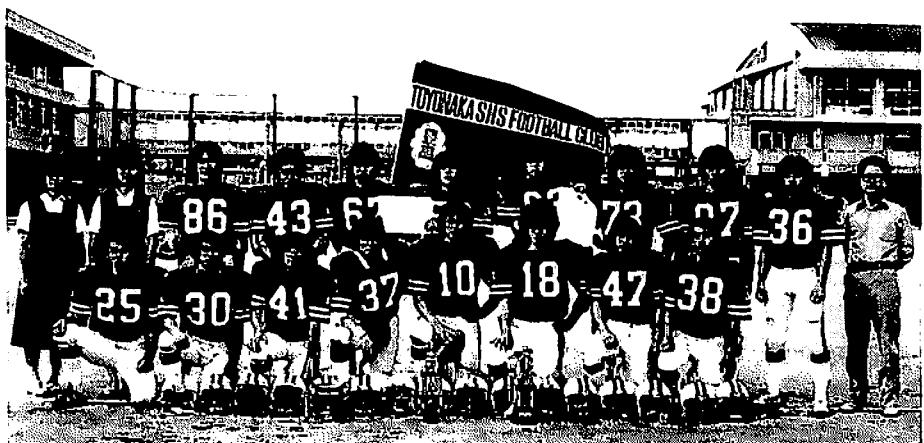


1980年卒（高32期）

安積武彦、大澤孝男、桂 啓之、小寺 隆、佐藤圭一、武田一郎、

田中照久、富井 淳、中谷安男、新村忠寛、肥後直樹

（マネージャー）田嶋素子



1981年卒（高33期）

有吉 明、池内拓夫、伊藤元晴、岡田美範、岡田營雄、沖原正彦、戎田哲也、

金子 詔、藏田一郎、坂口直人、新海雅之、谷東利昭、卜藏 隆、細見研介、

溝口吉彦、山本良樹

（マネージャー）小城香織（旧姓：江見）、野曾原佐都美（旧姓：仲尾）

【主な記録】 [] 内は会場

1980. 秋	第35回大阪府高校総合体育大会 1回戦	豊中高 30 – 8 箕面学園高
	2回戦	豊中高 6 – 24 池田高
		2回戦で敗退
冬	新人大会	豊中高 0 – 12 守口北高
1981. 3.28.	池田高との定期戦(34回)[池田高]	豊中高 16 – 0 池田高
春	大阪府大会 1回戦 [豊中高]	豊中高 0 – 0 箕面高

選手に骨折や脱臼が続出し苦悩

タッチフットからアメフトになってからは、小さな怪我は減ったものの、絶えず怪我との戦いでもあった。このシーズン、稲葉・武笠・山本・村岸・渋谷の各選手に骨折や脱臼など負傷者が続出したが、何とか頑張った。なかには外見上はわからない「ねんざ」などは、たいしたことはない…などといわれて痛みを我慢して出場していた選手もいた。

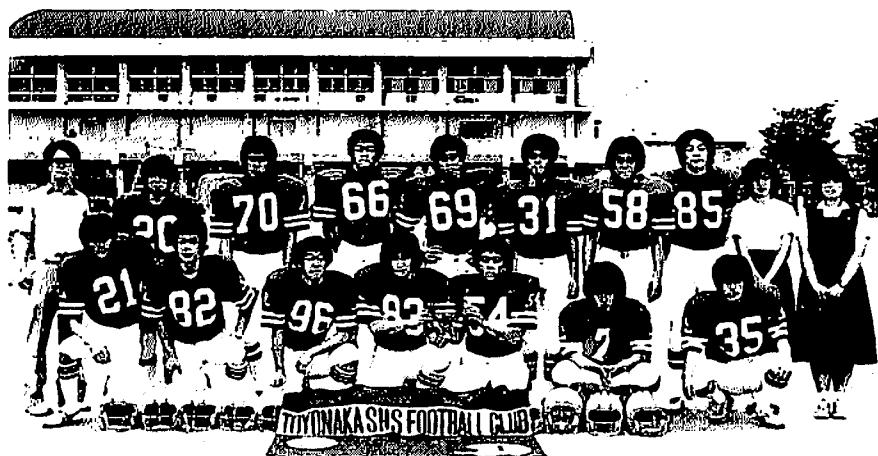
【主な記録】 [] 内は会場

1981. 秋	第36回大阪府高校総合体育大会 2回戦	豊中高 8 – 20 守口北高
		2回戦で敗退
		(1回戦は高槻高に不戦勝)
1982. 1.24.	新人大会	豊中高 18 – 6 守口北高
	"	豊中高 36 – 0 箕面自由学園高
3.28.	池田高との定期戦(35回)[豊中高]	豊中高 8 – 28 池田高
春	大阪府大会 1回戦 [服部緑地]	豊中高 20 – 2 守口北高
	" 2回戦 [東淀川高]	豊中高 6 – 20 関大一高
		2回戦で敗退

西宮ボウルで豊高選手が活躍

1982年春の大阪府大会は2回戦で敗れたが、この年の西宮ボウルでは大阪高校選抜チームに選ばれた武笠・渋谷選手が活躍した。

1982. 5.22.	西宮ボウル [西宮スタジアム]	大阪府高校選抜 35 – 14 兵庫県高校選抜
1982. 秋	第37回大阪府高校総合体育大会 2回戦	豊中高 24 – 0 東淀川高 (1回戦は高槻高に不戦勝)



1982年卒（高34期）

安達太郎、伊村耕一、上原美基、大畠一裕、兼子哲幸、川内一徳、
川岸正嗣、川畑幸次郎、庄司睦浩、田浦 浩、田中康裕、富田純次、
藤岡政行、古澤公志、堀内久也
(マネージャー) 小林柚香里、米田直子（旧姓：前中）



1983年卒（高35期）

栗村浩明、稲葉西剛、麻植和男、太田 徹、川畑 宏、崎浜 健、
佐藤賢志、渋谷達英、武元吉隆、田中淳弘、田守浩平、藤井大介、
松岡郁夫、武笠直人、村岸照久、山本隆弘
(マネージャー) 久保田玲子、橋本真奈美

1982. 秋	第37回大阪府高校総合体育大会準決勝	豊中高 0 – 82 関西大倉高
"	3位決定戦	豊中高 26 – 0 池田高
大阪府大会で3位		

大阪大会で優勝、 第13回関西大会では決勝戦で関学に惜敗

1983年の春は大阪大会では優勝したものの、 関西大会では決勝戦で関西学院高等部に逆転されて惜敗した。

1983. 4. 17. 大阪府大会 2回戦(1回戦はシード)[東淀川高校]

4.24.	"	準決勝 [豊中高校]	豊中高 74 – 0 守口北高
5.1.	"	決勝 [箕面高校]	豊中高 8 – 7 箕面自由学園高
6.12.	第13回関西選手権大会 1回戦 [関西学院]	豊中高 46 – 6 紫野高	
6.18.	"	準決勝 [彦根陸上競技場]	豊中高 43 – 0 崇徳高
6.19.	"	決勝 []	豊中高 20 – 28 関西学院高

【主な記録】 [] 内は会場

1983. 8. 20.	池田高との定期戦(36回)[池田高]	豊中高 8 – 8 池田高
9.5.	大阪府高校総合体育大会 1回戦	豊中高 8 – 20 東淀川高 1回戦で敗退
11.12.		豊中高 16 – 20 池田高
11.19.		豊中高 8 – 14 箕面高
1984. 1. 28.	新人大会 [豊中高]	豊中高 8 – 0 関西大倉高
2.11.	" [東淀川高]	豊中高 6 – 0 池田高
3.20.	池田高との定期戦(37回)[豊中高]	豊中高 22 – 6 池田高
4.15.	大阪府大会 1回戦 []	豊中高 82 – 0 浪速高
4.29.	" 2回戦 [守口北高]	豊中高 13 – 19 関西大倉高 2回戦で敗退
秋	大阪府高校総合体育大会 1回戦	豊中高 20 – 25 関西大倉高 1回戦で敗退
1985.	池田高との定期戦(38回)[豊中高]	豊中高 14 – 0 池田高
春	大阪府大会 1回戦	豊中高 66 – 6 箕面自由学園高 豊中高 58 – 0 東淀川高



1984年卒（高36期）

岩澤宏哲、大村 洋、北山 忍、
住田 光、辻本克也、豊田健一、
中尾安志、中川重雄、永瀬敏克、
新美泰明、卜歲 保

(マネージャー)

北村直美（旧姓：片山）、

浜田亞樹子（旧姓：野瀬）

[顧問：森 真一（1984～1992年）]

[顧問：齊藤 正俊（1984～1986年）]



1985年卒（高37期）

石川統康、岩田基宏、尾上陽一、片岡睦国、鶴志田宗治、菅 敬介、幸田浩明、

小森 要、藤井清人、船木 修、細見秀介、丸茂俊彦、矢野博久、山本貴之

(マネージャー) 白井美保（旧姓：野沢）、湯浅寿美

1986年卒（高38期）

在里政宣、伊藤 融、大野裕一、
加藤貴行、小武卓見、清水圭二、
長村 博、西村洋之、日永武彦、
日野徹郎、溝淵直樹、南 征司、
八木秀樹、矢口寿之、山田二朗
(マネージャー)

藤原桂子（旧姓：生田）、

橋本直美、吉田美樹



1985. 4. 21.	大阪府大会準決勝	豊中高 6 — 12 箕面高
		準決勝で敗退
11.17.	大阪府高校総合体育大会 1回戦 []	豊中高 14 — 42 箕面自由学園高
		1回戦で敗退
1986. 春	大阪府大会 1回戦	豊中高 46 — 6 追手門学院高
"	2回戦	豊中高 0 — 15 箕面高
		2回戦で敗退

上村杯・小宮杯を新設

1985年8月の日航機事故で亡くなられた上村登さん(高4期)、小宮敏幸さん(高29期)のご遺族から寄せられた寄付を基にして、1986年5月18日開催のOB会総会で上村杯、小宮杯を新設し、その年の最優秀のバックスとラインズマンにそれぞれ贈呈することになった。第1回の上村杯は外池俊彦選手に、また小宮杯は小倉健二選手(いずれも高40期)に贈られた。

【主な記録】 [] 内は会場

1986. 8. 16.	[東淀川高]	豊中高 12 — 34 東淀川高
8.26.	[箕面自由学園高]	豊中高 6 — 40 箕面自由学園高
8.30.	[豊中高]	豊中高 0 — 26 関大一高
9.14.	第41回大阪府高校総合体育大会 1回戦 [豊中高]	豊中高 32 — 0 清風高
9.21.	" 2回戦 [大産大高]	豊中高 24 — 13 大産大高
9.28.	" 準決勝 [守口北高]	豊中高 0 — 13 関大一高
		準決勝で敗退
11.22.	[豊中高]	豊中高 6 — 6 池田高
11.29.	["]	豊中高 6 — 34 箕面高
12.23.	["]	豊中高 8 — 12 箕面高
1987. 1. 25.	新人大会	豊中高 0 — 14 追手門学院高
4. 5.	[豊中高]	豊中高 40 — 0 平安高
4.11.	大阪府大会 1回戦 [守口北高]	豊中高 86 — 0 近畿大付属高
4.29.	大阪府大会 2回戦 [大産大高]	豊中高 26 — 8 追手門学院高
5. 4.	" 準決勝 [箕面高]	豊中高 20 — 6 守口北高
5.10.	" 決勝[長居球技場]	豊中高 0 — 7 箕面高
		大阪府大会で準優勝

上村杯・小宮杯贈呈先～敬称略～

上村杯（最優秀バックス） 小宮杯（最優秀ライズマン）

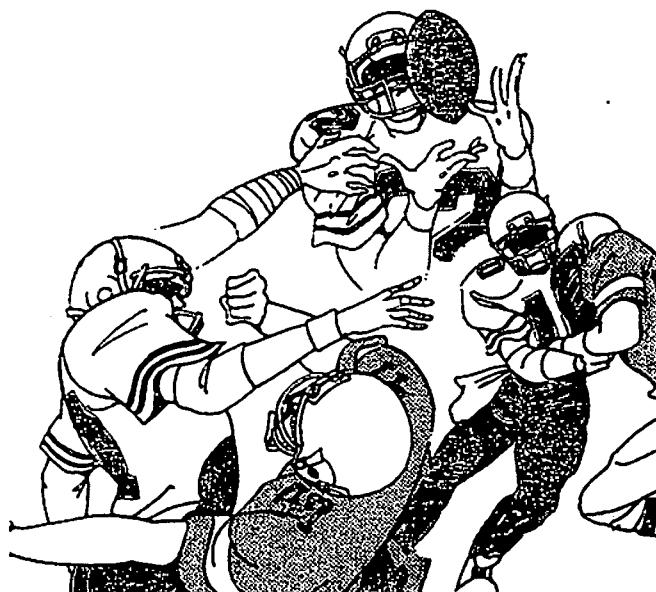
1987年度（第1回）	外池 俊彦	小倉 健二	(いずれも高40期)
1988年度	岡本 彰彦	糸井真一郎	(〃 高41期)
1989年度	岩井 元宏・佐藤 剛	なし	(〃 高42期)
1990年度	伊藤 重将	重田 知也	(〃 高43期)
1991年度	小串 卓	藤井 秀哲	(〃 高44期)
1992年度	松田 考	原 大介	(〃 高45期)
1993年度	川島 潤也	白石 史広	(〃 高46期)
1994年度	石村 健司	小西 剛	(〃 高47期)
	特別賞：谷村 幹也（高47期）		
1995年度	富田 真平	滝口 幸三	(〃 高48期)
1996年度	紀 孝夫	森井 太朗	(〃 高49期)

[顧問：荒木雄造（1986～ ）]

1987年卒（高39期）

岡本滋樹、金山直博、川上耕史郎、淨住徹朗、銀屋 創、久保純一、小林芳輝、竹村茂実、
竹内 智、田中啓介、玉置浩平、野々上仁、早川晋司、平井 勇、榎皮一郎、深谷忠宏、
藻井泰茂、八幡健志、山本芳史、吉田龍太郎

(マネージャー) 田井美江、寺井祐美



創部40周年記念、池田高との定期戦

1946年10月に池田高校と一緒に始めたフットボール（当時はタッチフットボール）は、1986年で40周年を迎えた。同校との最初の対戦は1946年12月28日だったが、40周年を記念して翌1987年5月17日初試合に縁の深い西宮球技場で池田高校との定期戦を行なった。試合は雨の中の泥寧戦となり、0-7で豊中高校が敗れた。

【主な記録】 [] 内は会場

1987.5.31. 第17回関西選手権大会予選 [ユニバー記念競技場]

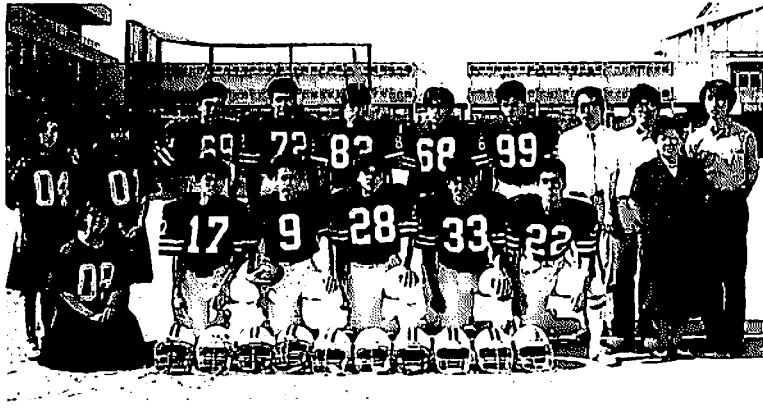
			豊中高 27 - 0 星陵高
6.7.	"	1回戦 [東邦高]	豊中高 33 - 22 三島高
6.14.	"	準決勝 [西宮球技場]	豊中高 13 - 49 関西学院高
8.15.			豊中高 26 - 0 箕面高
8.25.	[豊中高]		豊中高 32 - 6 東淀川高
8.28.	["]		豊中高 34 - 6 東邦高
9.27.	大阪府総合体育大会兼第18回全国大会大阪府予選	2回戦 [大産大高] (1回戦は高槻高に不戦勝)	豊中高 33 - 0 浪速高
10.4.	"	準決勝 [箕面高]	豊中高 6 - 34 大産大高 準決勝で敗退
11.8.	[豊中高]		豊中高 40 - 8 清風高
11.14.	["]		豊中高 58 - 0 追手門学院高

関学高を破り第18回関西大会で優勝、アメフトでは初V、糸井選手がMVPに

1988年の春は、新人大会で箕面自由学園高校に敗れたものの、大阪府大会では守口北高校、東淀川高校を連破、準決勝では新人戦で苦杯をなめた箕面自由学園高校に圧勝し、決勝戦でも清風高校を破って久しぶりに優勝した。

その後6月5日から始まった第18回関西大会では紫野高校、岐阜第一高校をいずれも大差で退け、6月19日に西宮球技場で行なわれた決勝戦では、14-0で宿敵関西学院高等部をシャットアウトで破り、1971年にアメフトに変身して以来、初の関西選手権を獲得した。この試合の後、糸井選手がMVPに選ばれた。

1988.1.10. 招待試合 [長居球技場]	豊中高 25 - 14 関西学院高
2.7. 新人大会	豊中高 9 - 14 箕面自由学園高

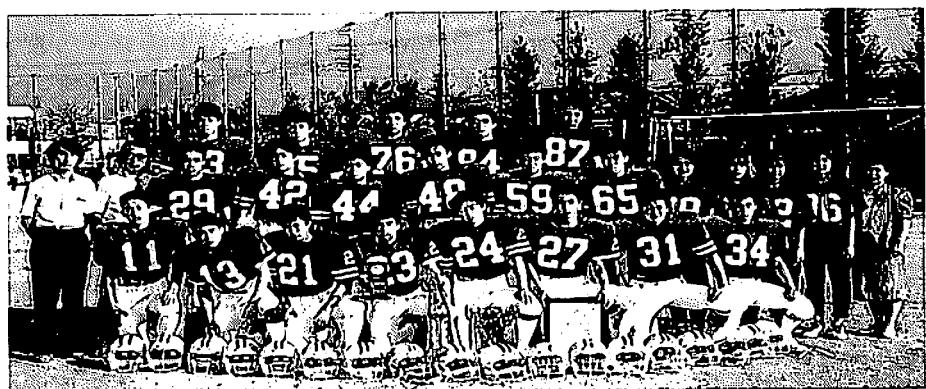


1988年卒（高40期）

小倉健二、小島 晃、角森博史、
外池俊彦、新宮一樹、長谷川資郎、
藤田剛史、藤平政伯、村尾幸信、
山中重雄、
(マネージャー) 松本薰子、
田中真実(旧姓: 萩下)、
中井佳子(旧姓: 渡辺)、



関西大会で優勝 (1988年6月9日 西宮球技場で)



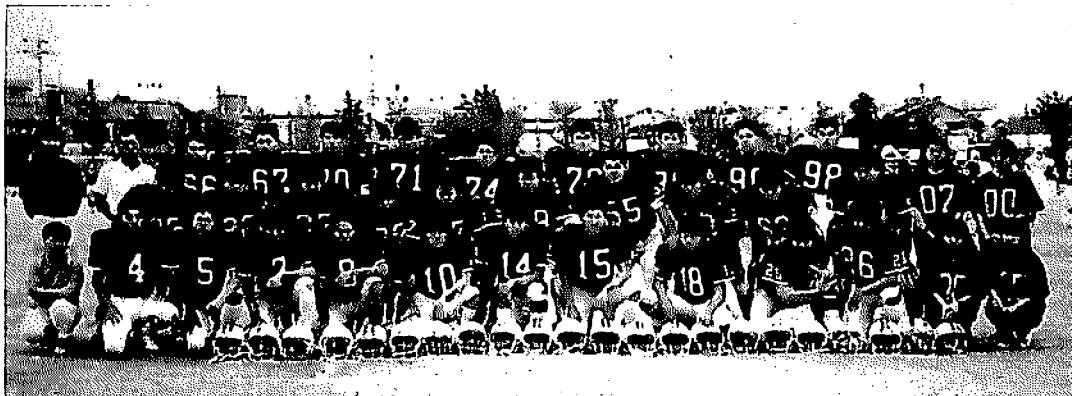
1989年卒（高41期）

浅田知恒、庵谷祐二、石井隆史、糸井真一郎、榎元 勇、岡本彰彦、小田公一
(旧姓: 中野)、木下雄介、曾我武司、武部隆宏、田中繁樹、中川耕市、中川英樹、
中島清訓、中村好孝、西井直之、信國武士、元山杉哉、山田雅樹、
(マネージャー) 伸田恵理子(旧姓: 近藤)、平井美穂(旧姓: 岩田)、
寺井八重子(旧姓: 中村)、畠中美砂

1988.4.10.	大阪府大会1回戦 [豊中高校]	豊中高 74 - 6 守口北高
4.17.	" 2回戦 [箕面高校]	豊中高 43 - 6 東淀川高
5.1.	大阪府大会準決勝 ["]	豊中高 43 - 7 箕面自由学園高
5.8.	" 決勝 [長居球技場]	豊中高 28 - 20 清風高
6.5.	第18回関西大会1回戦 [宝が池球技場]	豊中高 42 - 0 紫野高
6.12.	第18回関西大会準決勝 [万博記念競技場]	豊中高 62 - 7 岐阜一高
6.19.	" 決勝 [西宮球技場]	豊中高 14 - 0 関西学院高

【主な記録】 [] 内は会場

1988.6.26.	池田高との定期戦(41回) [西宮球技場]	豊中高 14 - 23 池田高
7.24.		豊中高 12 - 32 関大一高
9.15.	大阪府高校総合体育大会1回戦 [池田高]	豊中高 22 - 18 大産大高
9.23.	" 2回戦 [東淀川高]	豊中高 6 - 6 池田高 抽選の結果池田高が準決勝に進出
11.12.		豊中高 34 - 0 関大一高
11.19.		豊中高 34 - 14 大産大高
1989.1.29.	新人戦	豊中高 0 - 13 清風高
3.21.		豊中高 28 - 12 平安高
3.28.	[八日市高]	豊中高 24 - 8 八日市高
4.1.	池田高との定期戦(42回) [池田高]	豊中高 46 - 8 池田高
4.9.	大阪府大会2回戦 [豊中高]	豊中高 34 - 3 関大一高
4.16.	" 3回戦 [東淀川高]	豊中高 0 - 7 箕面自由学園高
7.23.	[豊中高]	豊中高 6 - 25 箕面高
8.2.	[宝塚東高]	豊中高 22 - 48 宝塚東高
9.10.	大阪府高校総合体育大会1回戦 [豊中高]	豊中高 54 - 0 池田高
9.23.	" 準決勝 [東淀川高]	豊中高 14 - 30 関大一高 準決勝で敗退
11.19.	[大産大高]	豊中高 21 - 21 大産大高
11.25.	[池田高]	豊中高 40 - 0 池田高
1990.1.21.	[箕面自由学園高]	豊中高 26 - 14 箕面自由学園高
1.28.	新人大会 [池田高]	豊中高 41 - 12 追手門学院高
3.23.	[宝塚東高]	豊中高 42 - 20 宝塚東高



1990年卒（高42期）

岩井元宏、大久保善晴、大西健太郎、小田朋弘、上川貴之、木村英生、小坂篤嗣、小早川章、佐藤大介、
佐藤 剛、佐藤朋彦、塙原 伸、島木雅也、高山 昇、田中健一、土居史典、中谷智志、中橋昌幸、
二川英俊、西野順一、藤井思樹、細見泰介、堀野大祐、前川英彦、前原義久、馬久地弘孝、八木健太、
山崎照之、吉田東介、渡邊 晃、

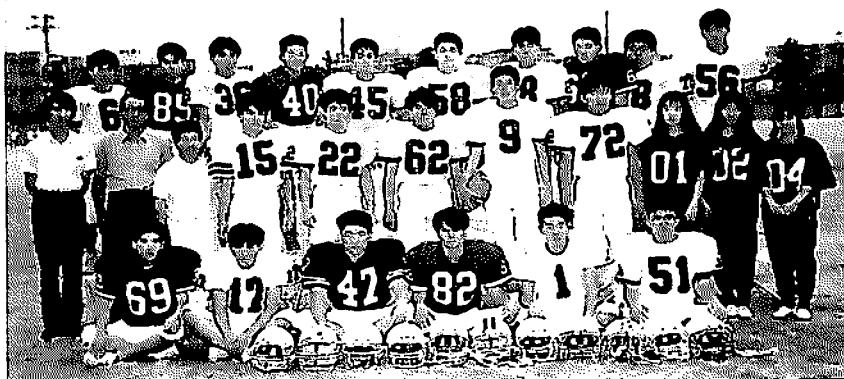
(マネージャー)岩橋直子、

ブラウン亜貴(旧姓:木村)、

佐藤尚子、多田典子



関西大会優勝により、青少年育成大阪府民会議
(議長=大阪府知事)から「YOUTH AWARD」を
受賞(1988年11月26日)



1991年卒（高43期）

赤松基次、赤穂裕信、後山哲志、伊藤重将、今西哲也、桂田太郎、川崎大佑、
黒田憲寛、重田友也、繁中頼宣、島野元伸、新川正知、竹内茂樹、西浦 徹、
柱本幸樹、筈谷真士、羽下満規、原田康隆、松田健治、松田貴志、森川友貴
(マネージャー)片山 歩、合田奈津子、中木原由佳

1990.4.7.	大阪府大会 1回戦 [豊中高]	豊中高 34 - 0 守口北高
4.15.	" 2回戦 [東淀川高]	豊中高 13 - 7 箕面自由学園高
4.29.	大阪府大会準決勝 [箕面高]	豊中高 0 - 21 箕面高

準決勝で敗退

7.1.	池田高との定期戦(43回) [西宮球技場]	豊中高 35 - 0 池田高
7.28.	[豊中高]	豊中高 12 - 21 関大一高
8.15.	["]	豊中高 0 - 31 箕面自由学園高
8.18.	["]	豊中高 0 - 33 箕面高
8.23.	["]	豊中高 24 - 12 東淀川高

初TDは豊高選手、訪米チーム善戦 アシュランド高と親善試合

1990年の夏休みに日米高校アメリカンフットボールの親善試合がアメリカ・オレゴン州アシュランドで行なわれ、日本代表チームは地元のアシュランド高校と対戦し、健闘むなし7-21で敗れた。日米高校親善試合はこれより2年前にも長居球技場で初めて行なわれ、13-0で同じアシュランド高校に負けている。

この年の訪米チームは関西の高校から選ばれた45名で編成されており、このなかには豊中高校から後山・伊藤・柱田の3選手が参加、このうち伊藤選手は12回のキャリーで77ヤードのランを稼いで第4Qには唯一のTDを挙げた。

【主な記録】 [] 内は会場

1990.9.9.	大阪府大会 2回戦 [東淀川高]	豊中高 14 - 7 守口北高
9.22.	" 準決勝 [豊中高]	豊中高 2 - 14 近畿大付属高
11.11.	[成器高]	豊中高 6 - 14 成器高
11.18.	[豊中高]	豊中高 21 - 16 清風高
12.20.	["]	豊中高 6 - 7 箕面自由学園高

創部45周年記念のゴールポスト完成

1991年はタッチフットボール部ができてからちょうど45年になり、その記念にと7月28日OB会から移動式のゴールポストを寄贈した。



1992年卒（高44期）

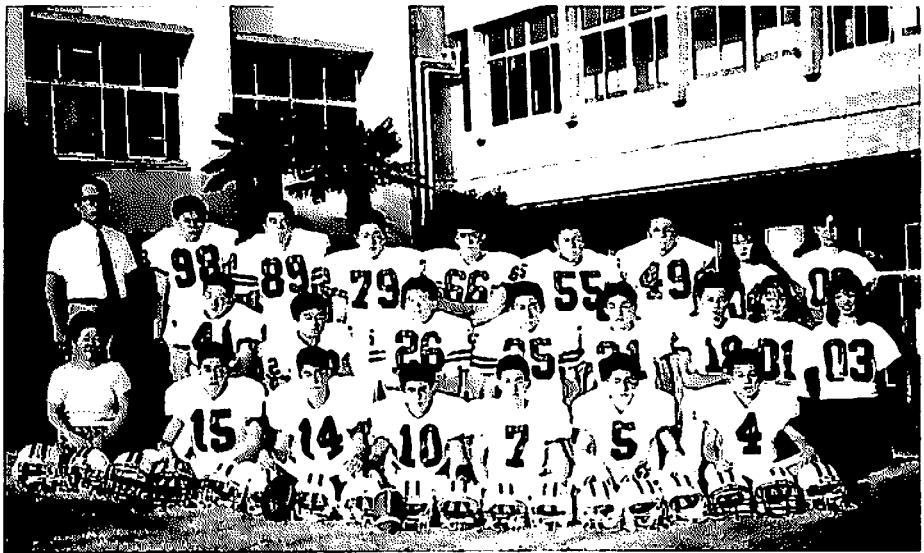
伊井隆春、石丸俊治、市坪 晋、大城信忠、大坪弘嗣、岡本英樹、小串 卓、小田宗俊、
金光良貴、喜多秀仁、小山智史、齊藤和道、佐藤勇次、鈴木剛太郎、中野健太郎、
中山雅嗣、野崎匡司、信國 誠、原 剛、藤井秀哲、命尾昌彦、八木伸歩、吉川順平
(マネージャー) 上田ゆかり、小武 舞、守田恭子



ゴールポスト完成

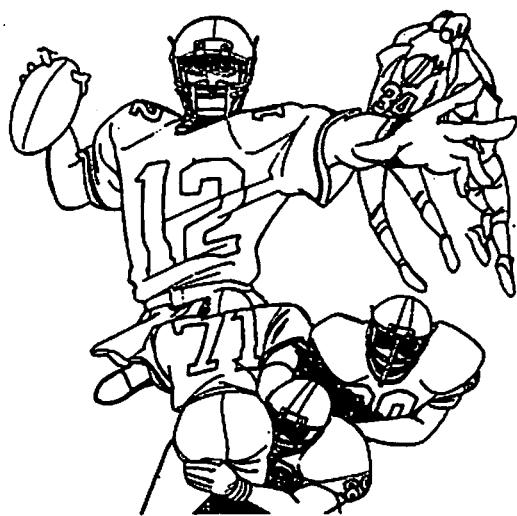
【主な記録】 [] 内は会場

1991.1.20.	[浪速高]	豊中高 41 – 16 浪速高
2.16.	池田高との定期戦(44回)[池田高]	豊中高 12 – 8 池田高
3.18.		豊中高 56 – 6 箕面自由学園高
3.21.		豊中高 16 – 0 宝塚東高
3.24.		豊中高 28 – 51 平安高
3.30.		豊中高 14 – 7 紫野高
4.14.	大阪府大会 1回戦 [東淀川高]	豊中高 0 – 33 大産大高
		1回戦で敗退
7.31.	[成器高]	豊中高 14 – 30 成器高
8.24.	[豊中高]	豊中高 7 – 35 紫野高
9.2.	[箕面自由学園高]	豊中高 6 – 46 箕面自由学園高
9.16.	大阪府大会 1回戦 [豊中高]	豊中高 7 – 41 東淀川高
		1回戦で敗退
11.3.	[宝塚東高]	豊中高 8 – 0 宝塚東高
11.10.	[関大一高]	豊中高 20 – 41 関大一高
1992.1.26.	[豊中高]	豊中高 39 – 27 箕面自由学園高
2.9.	新人大会 [大産大高]	豊中高 36 – 0 池田高
3.15.	[箕面自由学園高]	豊中高 20 – 18 箕面自由学園高
3.20.	[豊中高]	豊中高 27 – 13 平安高
3.22.	[近畿大付属高]	豊中高 28 – 6 近畿大付属高
4.2.	[豊中高]	豊中高 24 – 7 紫野高
4.17.	大阪府大会 3回戦 [万博サブグラウンド]	豊中高 53 – 7 追手門学院高
4.29.	池田高との定期戦(45回)[長居球技場]	豊中高 27 – 0 池田高
5.3.	大阪府大会準決勝 [万博球技場]	豊中高 14 – 48 大産大高
		準決勝で敗退
6.6.		豊中高 0 – 14 箕面自由学園高
6.13.		豊中高 0 – 22 関大一高
6.20.		豊中高 38 – 13 東淀川高
7.24.		豊中高 13 – 12 桃山学院高
7.30.		豊中高 28 – 16 宝塚東高
8.20.		豊中高 19 – 34 近畿大付属高
8.22.		豊中高 26 – 25 市立西宮高
8.25.		豊中高 0 – 0 箕面高
8.30.		豊中高 9 – 20 紫野高



1993年卒（高45期）

江幡 賢、乙部鉄太郎、金子宗央、小林俊則、小林亮介、紺井慶悟、神保恒祐、曾根達也、延藤 健、野間昭宏、原 大介、藤田直人、楳原 均、松田 考、松田宗門、村上充洋、矢野貴裕、山下裕司、吉井史明
(マネージャー) 相沢典子、尾崎有利子、篠原由佳、早川智子



ピーター岡田氏が来日

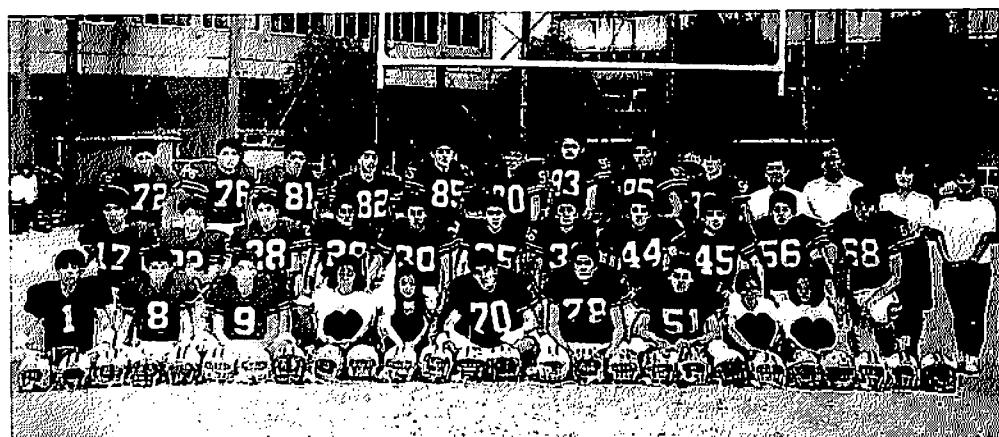
1946年10月に豊中中学と池田中学にフットボールの手ほどきをしたピーター岡田氏は、その後一時途絶えていた消息が判明し、関西学生連盟の古川専務理事(現理事長)の肝入りで1992年6月に来日、25日に来阪したピーター岡田氏夫妻は関西協会主催の歓迎会、26日には豊中・池田両高校を訪問の後、ホテル・アイボリーで開かれた豊中高校OB会主催の「歓迎の夕べ」に出席、さらに翌27日には西宮スタジアムで開催の「感謝式」に出席した後、1日おいて29日東京経由で帰国の途についた。

【主な記録】 [] 内は会場

1992. 9. 15.	大阪府大会 2回戦 [伊丹スポーツセンター]	豊中高 46 – 6 清風高
9.27.	〃 3回戦 [豊中高]	豊中高 0 – 6 桃山学院高 3回戦で敗退
11. 8.		豊中高 14 – 22 箕面自由学園高
11.28.		豊中高 14 – 12 守口北高
12.22.		豊中高 24 – 0 池田高
1993. 1. 24.	新人大会 1回戦 [大産大高]	豊中高 47 – 3 大阪学院高
1.31.	〃 2回戦 [豊中高]	豊中高 19 – 2 清風高
2.14.	新人大会 3回戦 [大産大高]	豊中高 27 – 0 大産大高
2.21.	池田高との定期戦(46回) [豊中高]	豊中高 12 – 20 池田高
3.25.	[宝塚東高]	豊中高 44 – 7 宝塚東高
4. 2.	[豊中高]	豊中高 34 – 14 追手門学院高
4.10.	大阪府大会 1回戦 [万博サブグラウンド]	豊中高 40 – 12 関西大倉高
4.18.	〃 2回戦 [豊中高]	豊中高 21 – 13 近畿大付属高
5. 2.	〃 準決勝 [箕面高]	豊中高 35 – 28 大産大高
5. 9.	〃 決勝 [西宮球技場]	豊中高 7 – 36 箕面自由学園高 大阪府大会で準優勝
6. 6.	関西大会 1回戦 [万博球技場]	豊中高 19 – 14 関西学院高
6.12.	〃 準決勝 [西宮球技場]	豊中高 15 – 21 平安高 準決勝で敗退
6.27.	[箕面自由学園高]	豊中高 0 – 37 箕面自由学園高
7.24.	[豊中高]	豊中高 13 – 12 桃山学院高
7.28.	[宝塚東高]	豊中高 0 – 20 宝塚東高
8.12.	[豊中高]	豊中高 6 – 20 近畿大付属高
8.23.	[箕面高]	豊中高 17 – 40 箕面高



ピーター岡田氏歓迎



1994年卒（高46期）

浅居達也、稲葉大介、岩崎俊彦、岡本 煙、小川敬史、奥山浩樹、乙黒貴元、角 康弘、
金田健一、鎌田昌彦、龜尾浩平、川島潤也、菊池元樹、芝 知志、白石史広、高杉健二郎、
高橋伸之介、高原宏典、土生達哉、中山 豪、林 章裕、堀 哲也、本田淳貴、松場慎介、
森川竜太、吉川元基、増本 崇

(マネージャー) 池森弘子、小西綾子、長門香織、村田千恵子

1993.8.28.	[豊中高]	豊中高 8 - 28 池田高
9.5.	大阪大会予選リーグ 1回戦 [大産大高]	豊中高 34 - 14 追手門学院高
9.26.	" 2回戦 [池田高]	豊中高 45 - 7 大阪学院高 予選リーグで1位
10.3.	大阪大会決勝リーグ 1回戦 [箕面高]	豊中高 0 - 41 大産大高
10.17.	" 2回戦 [豊中高]	豊中高 43 - 12 関西大倉高 決勝リーグでは3位
11.28.	["]	豊中高 14 - 37 箕面自由学園高

大阪大会で優勝、 第24回関西大会では崇徳高に敗れる

1994年は1月の新人大会で清風高校と消教高校を連破して好調な滑り出しを見せ、4月から始まった大阪府大会でも追手門学院高校、池田高校、関西大倉高校を次々に破って決勝に進出、決勝戦では大産大高校を下して優勝した。

しかし続く関西大会では1回戦で宝塚東高校には快勝したものの、準決勝で対戦した崇徳高校に後半になって逆転され、決勝に進出できなかった。

【主な記録】 [] 内は会場

1994.1.9.	[豊中高校]	豊中高 21 - 0 高槻高
1.23.	新人大会 1回戦 ["]	豊中高 20 - 0 清風高
2.6.	" 2回戦 [箕面高校]	豊中高 7 - 0 消教学園高
3.17.	[箕面自由学園高]	豊中高 28 - 20 箕面自由学園高
3.19.	池田高との定期戦(47回)[西宮球技場]	豊中高 6 - 0 池田高
3.21.	[豊中高校]	豊中高 27 - 12 浪速高
3.27.	[西京極球技場]	豊中高 6 - 6 平安高
4.10.	大阪大会 2回戦 [豊中高校]	豊中高 61 - 0 追手門学院高
4.24.	" 3回戦 [大産大高校]	豊中高 35 - 0 池田高
5.1.	" 準決勝 [箕面高校]	豊中高 41 - 7 関西大倉高
5.15.	" 決勝 [西宮球技場]	豊中高 26 - 12 大産大高
6.4.	関西大会 1回戦 [長居球技場]	豊中高 41 - 14 宝塚東高
6.14.	" 準決勝 [西宮球技場]	豊中高 7 - 16 崇徳高



1994.5.15 大阪産大高校を26-12で破り、大阪大会で優勝（西宮球技場）



1995年卒（高47期）

石野雅臣、石村健司、井上大輔、宇城康隆、小田川雅、幸田伸明、小西剛、城谷経介、
谷村幹也、谷山和宏、中井清貴、中下浦隆志、平野和彥、福田義信、古川智也、細川晴彦、
見方大佑、村西健嗣、森下匡、矢野健太郎、山崎進介、山田亨、和田隆生、
(マネージャー) 石井悦子、太田祥子、川村有加、五郎丸明子、島田真理、山本憲子

レークワシントン高で親善合同練習、豊中・池田両校選手 5 名ずつ参加

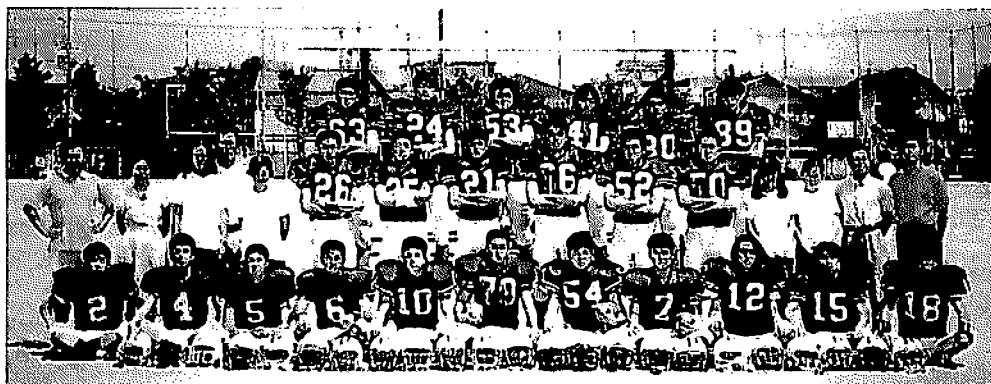
1994 年の夏休みを利用してアメリカ高校選手との親善合同練習をワシントン州カーランド市にあるレークワシントン高校で行なった。一行は豊中・池田両校の現役の選手 5 名ずつのほかに両校顧問や通訳などのスタッフなど総員 12 名で、8 月 21 日大阪を出発、選手たちは先方の家庭でホームステイし、29 日全員が帰国した。

【主な記録】 [] 内は会場

1994. 8. 19.	[豊中高]	豊中高 20 – 0 桃山学院高
9.11.	大阪大会予選リーグ 1 回戦 [豊中高]	豊中高 0 – 7 成器高
9.25.	" 2 回戦 [] 豊中高 10 – 15 東淀川高	決勝リーグに進めず
11.12.	[豊中高]	豊中高 14 – 0 池田高
11.20.	[箕面自由学園高]	豊中高 26 – 6 箕面自由学園高
11.27.	[関大一高]	豊中高 20 – 29 関大一高
12.25.	[豊中高]	豊中高 22 – 0 城北高
1995. 2. 5.	新人大会 1 回戦 [箕面高]	豊中高 24 – 12 箕面自由学園高 シード権獲得
3.26.	[西京極球技場]	豊中高 20 – 0 平安高
4.16.	大阪大会 1 回戦 [関大一高]	豊中高 34 – 0 清風高
4.29.	" 2 回戦 [箕面高]	豊中高 33 – 0 箕面自由学園高
5.3.	" 準決勝 [大産大高]	豊中高 6 – 42 大産大高
5.7.	" 3 位決定戦 [西宮球技場]	豊中高 27 – 0 浪速高 大阪府大会で 3 位
5.28.	関西大会 1 回戦 []	豊中高 20 – 0 八日市高
6.4.	" 2 回戦 [長浜ドーム]	豊中高 0 – 16 関西学院高 2 回戦で敗退
8.20.	池田高との定期戦 (48回) [池田高]	豊中高 14 – 0 池田高

訪米チーム、アシュランド高に初勝利 豊高から参加の 5 選手が活躍

1995 年の夏休みには、アシュランド高校との 4 度目の親善試合「パシフィックリム・ボウル」がアメリカ・オレゴン州アシュランドで行なわれ、訪米チームが待望の初勝利を挙げた。ゲームはアシュランド高校のペースで進み、一時は 9 – 21 とリードされたが、第 4



1996年卒（高48期）

今井大輔，井坂圭樹，梅名康史，大槻高史，大西貴之，大橋道成，加賀山 力，藏谷憲成，斎藤亮二，須賀康之，滝口幸三，田中和彥，富田真平，西川哲司，西田有紀夫，西谷直浩，沼澤敏治，堀 陽一，前川洋平，松田 大，松山伸児，命尾康輔，山下隆義，山本晃央，吉澤 治

(マネージャー) 工藤和子，蒟蒻美貴子，依本満裕子，中原順子，中元真基，三谷苗子

Qに2TDを挙げた訪米チームが逆転に成功し24-21で勝利を得た。

この訪米チームは大阪の高校から選抜された40名の選手によって編成されており、豊中高校から5名が選ばれている。

【主な記録】 [] 内は会場

1995.9.10.	大阪大会予選リーグ 1回戦 [池田高]	豊中高 14 - 7 成器高
10.1.	" 2回戦 [大正高]	豊中高 24 - 0 滝風高
決勝リーグへ進出		
10.8.	大阪大会決勝リーグ 1回戦 [西宮球技場]	豊中高 0 - 42 大産大高
10.15.	" 2回戦 [近畿大付属高]	豊中高 2 - 34 近畿大付属高
2回戦で敗退		
1996.1.21.	新人大会 1回戦 [豊中高]	豊中高 6 - 32 関西大倉高

プロフットボール選手が誕生

1996年2月26日、欧州にあるアメフトのプロリーグ「ワールドリーグ」(WL)に、伊藤重将選手(高43期・京都大)がほかの日本人2選手とともに入団テストに合格、アメリカ・アトランタでのキャンプを終えた後、4月13日から始まった「ワールドリーグ」に、一緒に合格した池之上貴裕選手(関学OB・リクルート)とともにデュッセルドルフ「レイファー」チームに所属し、プロ選手として活躍した。

創部50年記念、 池田高との定期戦

ほぼ毎年恒例の池田高校との定期戦、1996年は両校とも創部50年を迎え、その記念行事のひとつとして3月17日西宮球技場で行なわれ、6-0で豊中高校が勝ち3連勝となつた。

レークワシントン高チーム来日 長居球技場で親善試合

2年前に池田高校の選手と一緒に訪米し、合同練習を行なったレークワシントン高チームが、7月18日関西空港着で来日した。一行は選手32名のほかコーチや同校日本語教師のレスリーさん(ピーター岡田氏の娘さん)で、選手は豊中・池田両校選手の家庭に10日間ホームステイして京都、奈良などの観光のほか、豊中高校で合同練習を行なった後7月

NFLと提携のワールドリーグ(WL)

伊藤選手らが所属していたワールドリーグはアメリカのNFLと提携している欧州のプロフットボールリーグで1993年に発足したもの。現在アムステルダム、バルセロナ、フランクフルト、ondon、デュッセルドルフ、スコットランドの6チームがある。

なおアムステルダムでは伊藤選手と同時に合格した阿部卓朗選手（京都大）も活躍していた。

26日長居球技場で豊中・池田連合チームと親善試合を行なった。

先方のキックオフで始まった試合は、終始レークワシントン高が優勢のうちにゲームを展開し、連合チームは第3Qに吉田選手(豊中高)が挙げた1TDに留まり、7-21で敗れた。

創部50周年記念パーティ開催

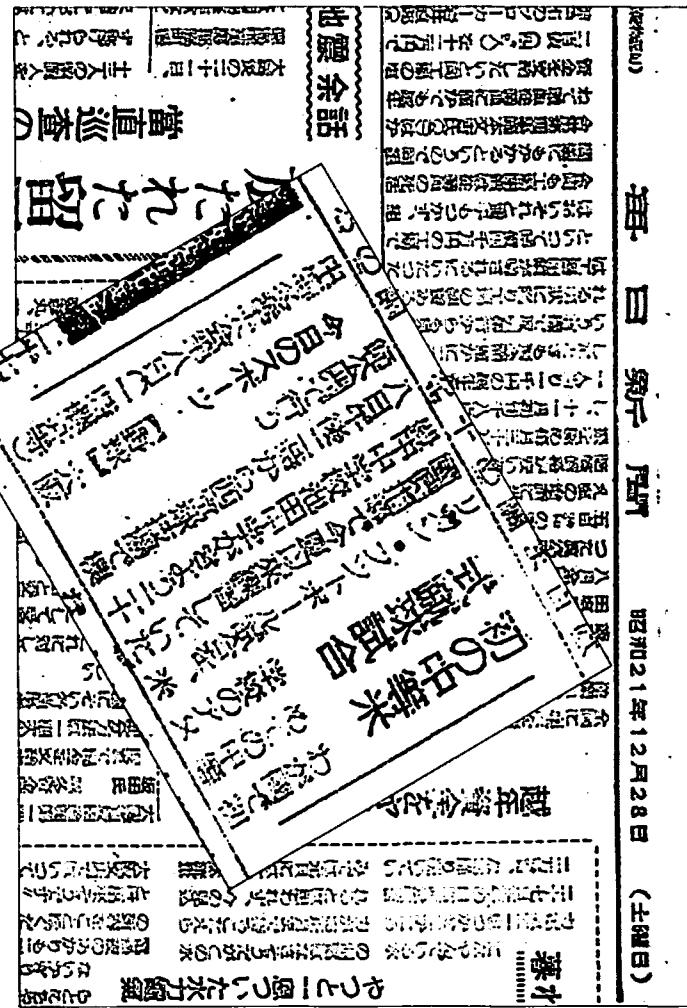
アメリカンフットボール部がその前身のタッチフットボール部として創部してから50年目を迎えた昨年、その記念式典と祝賀会が9月29日正午から豊中駅前のホテル・アイボリーで開催された。またこの日はこれに先立って午前10時から母校中庭で、同氏から寄せられたメッセージを彫り込んだ記念碑の除幕式が行なわれた。(詳細は151ページに)

【主な記録】 [] 内は会場

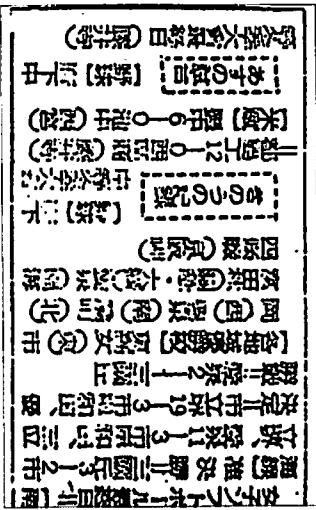
1996.3.23.	[万博球技場]	豊中高 27 - 7 平安高
4.14.	大阪大会1回戦 [豊中高]	豊中高 27 - 0 箕面高
4.21.	" 2回戦 [近畿大付属高]	豊中高 7 - 26 関西大倉高 2回戦で敗退
9.1.	大阪大会予選リーグ1回戦 [守口北高]	豊中高 18 - 0 守口北高
9.8.	" 2回戦 [東淀川高]	豊中高 21 - 22 近畿大付属高 決勝リーグ進出ならず

写真・資料集

「本邦初試合」を報じた記事



1946年12月28日 每日新聞



1946年12月29日 新聞

大阪府立豊中中学校
豊中市内田二八七〇五
電 話 豊中二一八一
郵便番号 豊山、文行
同上 手取宛社
三馬鹿木打頭制可

米氏中等

昨年秋、協定軍指揮の下で、
新しく誕生した我が部は、
部隊の頑固な相格と熟練
な駆除により其の進歩
は著しいものがある。
然後としては我が國最初の
駆除試験、對地空襲が昭和
二年秋に実現する。



「前田利照さん—写真—提供の「費賄学報」——1面のトップに初試合で勝ったことが掲載されている」

突然のお便りお許し下さい。手もとの古い書類を整理しておりました所、同封の「豊陵学報」がでてきました。一面トップ並びに二面の中央付近に、本邦初の米蹴中等試合の記事があります。50周年事業を計画されておられるやうかがっており、何かのお役に立てばと思ひ、急ぎお送り致します。

尚、私は豊高卒業後防衛大学に進み、アメリカンフットボール部を創立しました。その部に後年、水野弥一君という学生が入部してきました。この水野君が今をときめく京都大学の名監督です。その愛弟子の一人が、日本初のプロ選手の伊藤重将君です。

豊高でタッチフットボールをやっていて本当によかったとつくづく思っておりま

記念事業のご成功と母校アメリカンフットボール部の盛栄(いきさか)を、心からお祈り致します。

(前田利昭—高4期)

第1回毎日甲子園バウル

(1947年4月13日)

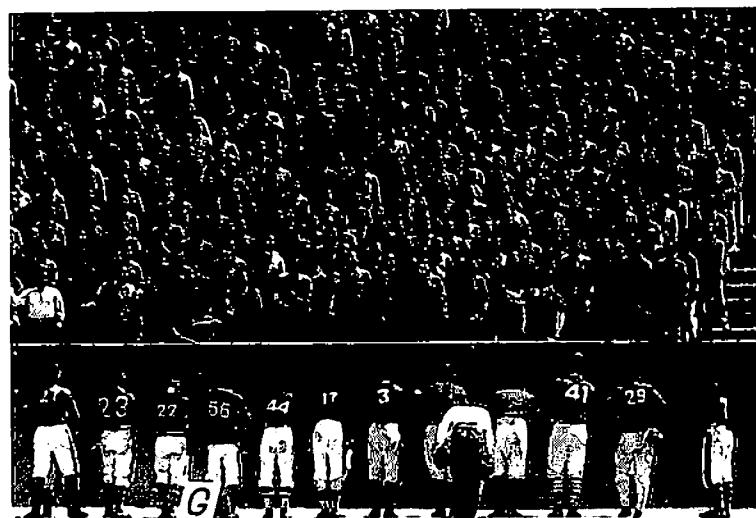


学生王座決定戦（慶應大vs.同志社大）
の前座試合として熱戦を展開。

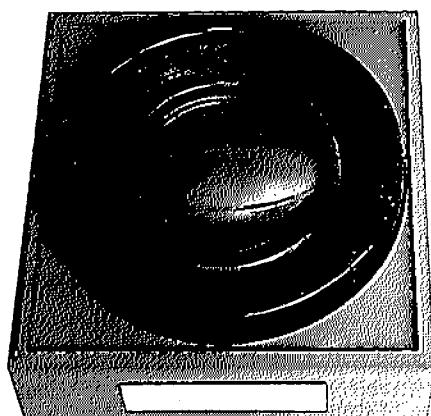
豊中14 $\begin{pmatrix} 6-0 \\ 0-0 \\ 2-0 \\ 6-0 \end{pmatrix}$ 0 池田



→ The 1st Annual Koshien Bowl.
Toyonaka H.S. vs Ikeda H.S.



試合が終わり、太鼓を持ち込んで声援した応援団に感謝



毎日新聞社から贈られた勝利の楯
(豊中高校所蔵)

大会パンフレットなど

大會頌序

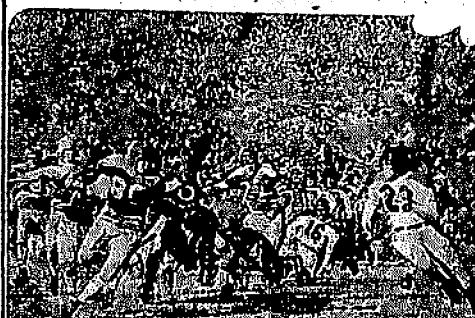
(1) 入 地 式	10.2
根茎、茎中、茎中、块大、茎大	
(2) 四 叶 式	10.3
(4) 四 叶 式	同前
(3) 瓜子形-瓜型	
瓜	10.2
瓜子	
瓜子	
瓜	10.2
瓜子形-瓜型	11.0
瓜	11.0
瓜子	
瓜子形-瓜型	11.0
瓜子	11.0
瓜子形-瓜型	11.0
瓜子	11.0
瓜子形-瓜型	11.0
瓜子	11.0

大會役

第一回

アメリカン・フットボール大會

毎日甲子園バウル



主 催 日本フット・ボール聯盟 毎日新聞社

於甲子圖珠機

出場選手に配られた阪神電車の無料乗車券

第一回米式蹴球大會
毎日・甲子園バウル
四月十三日 於甲子園球場
入 場 票
入場料 1.0円(税込)
主催 日本米式蹴球聯盟社 每日新聞社

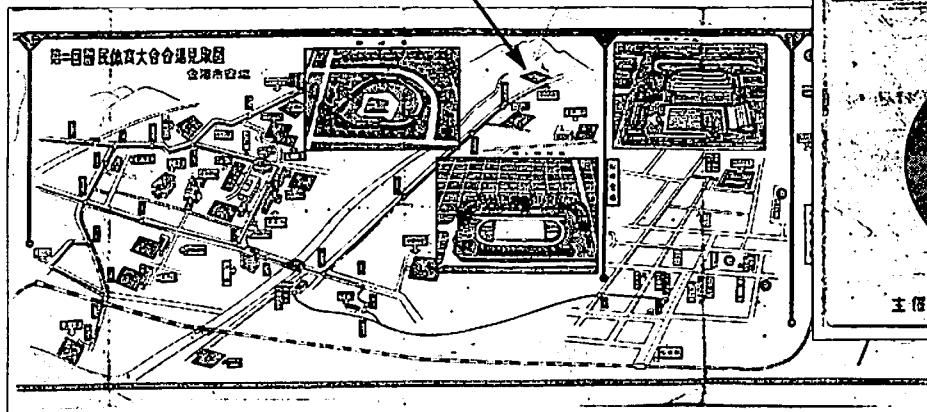
入場券（入場料は「10円」）

中華人民共和国選手		中華人民共和国選手		中華人民共和国選手	
姓 名	年齢	姓 名	年齢	姓 名	年齢
L E	44	L E	32	L E	32
L T	3	L T	22	L T	27
L G	41	L G	19	L G	18
C	17	C	15	C	14
R G	29	R G	20	R G	10
R T	23	R T	19	R T	19
R R	3	R R	18	R R	18
Q B	56	Q B	16	Q B	16
L H	1	L H	15	L H	15
R B	18	R B	14	R B	14
E B	7	E B	13	E B	13

中華人民共和国選手		中華人民共和国選手		中華人民共和国選手	
姓 名	年齢	姓 名	年齢	姓 名	年齢
L E	6	L E	9	L E	9
L T	17	L T	13	L T	16
L G	5	L G	14	L G	16
C	7	C	10	C	10
R G	11	R G	11	R G	11
R T	3	R T	10	R T	10
R R	10	R R	8	R R	8
Q B	6	Q B	1	Q B	1
L H	12	L H	12	L H	12
R B	1	R B	1	R B	1
E B	1	E B	1	E B	1

第2回国民体育大会のパンフレット

タッチフットボール会場
(金沢高等師範学校)
1947年11月2日
豊中中18-18池田中



1951年第4回秋季近畿大会

1回戦

(1951年9月29日 中百舌鳥球技場)
豊中高 32-0 日吉ヶ丘高



(レフリーは故・三隅珠一さん)

時にはこんな格好をしてみたかった…。(高4・5期生)



(大阪府警チームから
防具を借用)

盛況に地区別懇談会

地区別初の試み成功

近畿第一部で優勝
秋の甲子園バウルへ

タッチフットボール
練習で泣き試合で笑

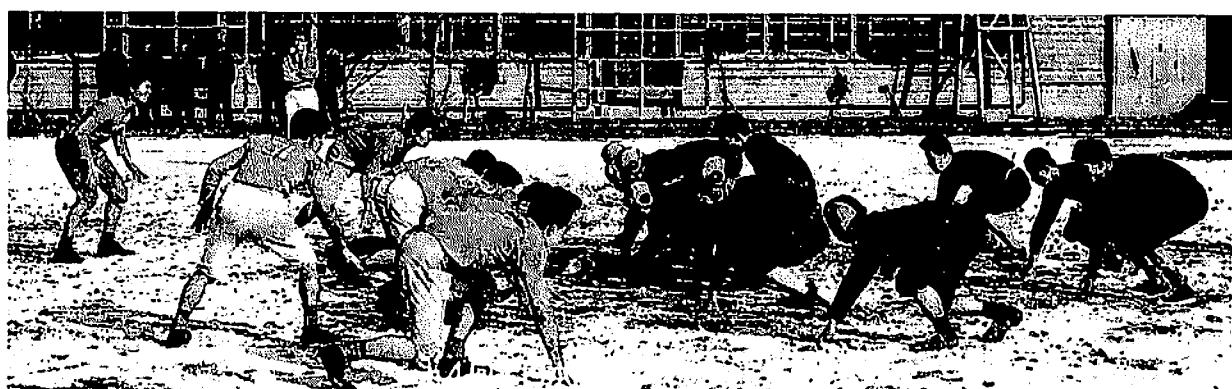
秋季近畿大会で
第1部優勝を報じた
「豊陵新聞」
(1954年9月1日付第79号)

1957年春 大阪府民大会

決勝戦 (1957年5月3日池田高校グラウンド)
7-0で池田高を破って優勝



第4回全日本高等学校タッチフットボール大会



(1958年1月5日 藤井寺球技場) 雪で足が滑って負けた…。 豊中高 0-25聖学院高

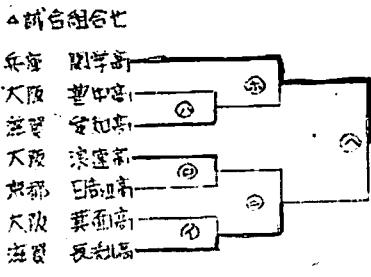
第19回秋季近畿大会パンフレット

(1966年9月17~18日)

第1回近畿高等学校総合体育大会
タッチアーツボーラー競技
昭和41年の月17日(土)18日(日)
於 大阪府立箕面高等学校 雨天不論
主催 近畿高等学校体育連盟
主管 大阪高等学校体育連盟
タッチアーツボーラー専門部
後援 畿西タッチアーツボーラー連盟
開催 新聞社
大 会 貸 品
会長 中川 登
副会長 保本 順治 石田一己代治 吉田
顧問 三岡 球一 鶴川 国助
審査委員 齋藤 良二
高橋 浩男 中村 幸悦 福島
河合 康雄 川原 乾
審判長 石川 明

豊中高は1回戦で愛知高に破れる

(6 - 8)



(5) ベオリヒの4-6.が倒れました。

月 日 9.1 キノコズツ 45インチ行口
9 17 木 13:00 築西町

1967年春 大阪府民大会で優勝 春季近畿大会では3位



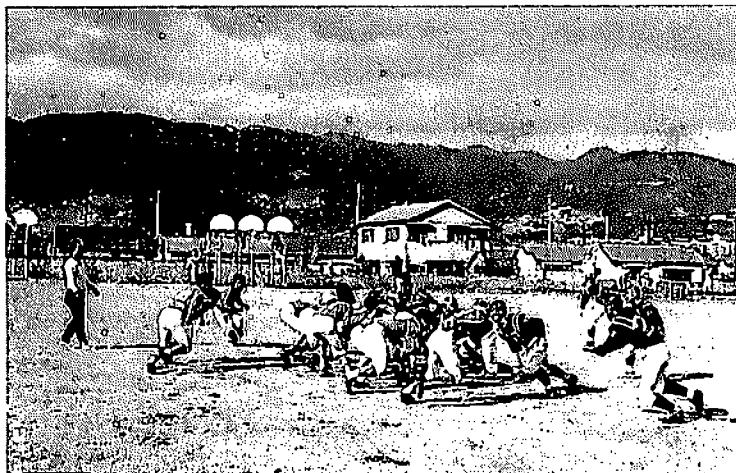
「タツチが貴様を監視する。おまえの命運だ。假想大空令一位、近畿大空令三位の決闘がはじめていたか？」
「うーん、その通りだ。頼む。これから、敵手は十四歳を越すから、腰の腰をインタビードーしてお嬢の命を守りたいんだ。」

1
かわの
三
はす

5月5日(池田)

「豐陵新聞」
(1967年6月30日付第159号)

1967年春季近畿大会大阪予選



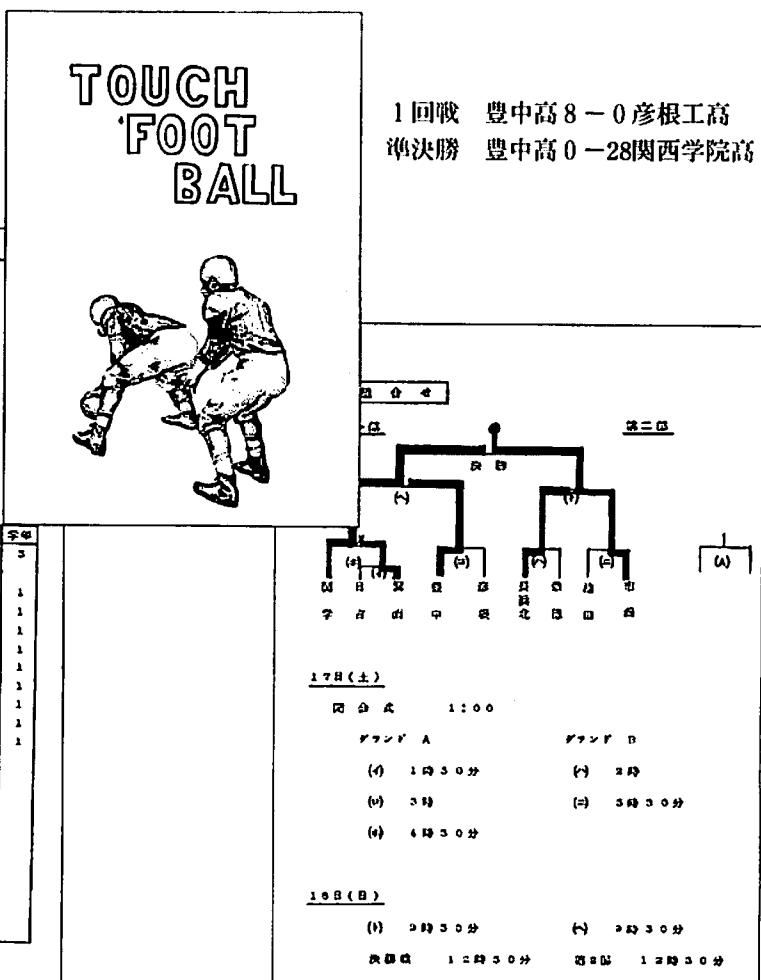
Reverse 99により志村選手（高20期）鮮やかにタッチダウン

豊中高 6 - 0 関大一高
(1967年6月10日 箕面高校
グラウンド)

第20回春季近畿大会パンフレット (1967年6月17~18日)

大阪府立豊中高等学校									
学級	登録番号	氏名	学年	性別	登録番号	氏名	学年	性別	登録番号
B	80	西行徳史	3	男	30	志村 実男	3	男	
B	82	西行徳	2	男					
T	74	永田 勝男	3	男					
T	76	草元 伸大	2	男					
T	71	五田 誠二	2	男					
O	50	衣笠 正透	3	男					
O	21	衣笠 雄輝	2	男					
C	12	木村 伸大	2	男					
Q.D	11	堀山 邦輔	3	男					
Q.B	10	高橋 信樹	2	男					
H.B	41	西川 伸	3	男					
H.B	40	山田 寛	3	男					
H.D	20	黒田 伸	2	男					

- 6 -

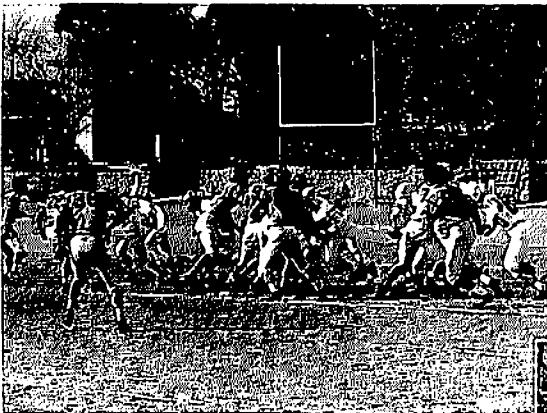
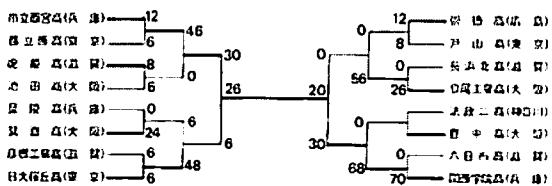


第14回全国大会

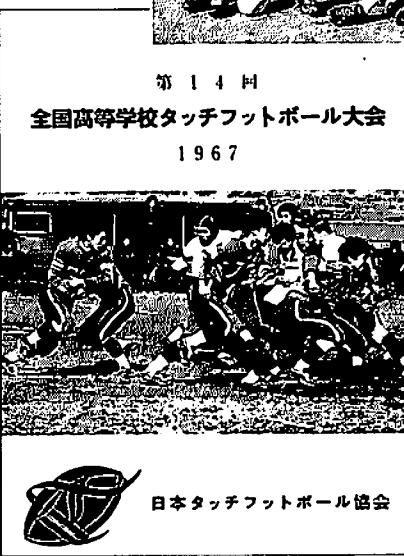
第14回 全国高校タッチフットボール大会

開会式 昭和42年12月25日午前8時 於 関西学院グラウンド

①島 市立西宮高(兵庫)
②地図 関西学院高(兵庫)



川	府立豊中高等学校(大阪)	県立八 頭 間 主 将
顧問	今安達也・山形泰正	木川山
主将	東元春夫	小村
主務	古在真知子・眞島美知子	井田
コーチ	森里光生・伊勢健二郎	木村
ユニ	上	下
ホーム	白	白
選手名	年	位置
82 井田 明美	1	LE
89 田村 雅史	3	LE
87 西村 康	2	RE
81 西崎 文博	1	RE
73 玉田 誠二	2	LT
75 坂口 升	1	LT
77 東元 春夫	2	RT
69 水田 肇	3	RT
66 向田 治	2	LG
61 岩崎 美信	1	LG
69 森藤 和以	1	RG
50 鈴木 仁	1	RG
15 米村 良大	2	C
12 三木 戊生	1	C
32 高橋 昌	2	QB
31 粉川 正博	1	QB
25 深山 拓	2	LH
44 近藤 信吾	1	LH
20 松原 裕裕	1	RH
49 北村 勝彦	1	RH
86 井上 文久	1	PB
29 志村 安男	3	PB
27 堺山 用	3	QB
39 山田 祥	3	RH
西川 錦	3	LH
农笠 正道	3	C
岩崎 修	3	QB



1回戦 不戦勝

2回戦 豊中高 0—68関西学院高
(1967年12月26日 関西学院高グラ
ウンド)

第21回春季近畿大会パンフレット

Touch football

四二一四

近畿高等学校タッチフットボール選手権大会

1988.

同日 朝和48年8月22日(土)
8月23日(日)
会場 長崎市役所西中学校
長崎小学校

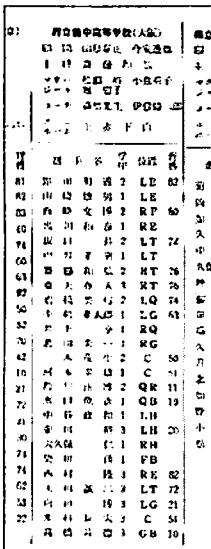
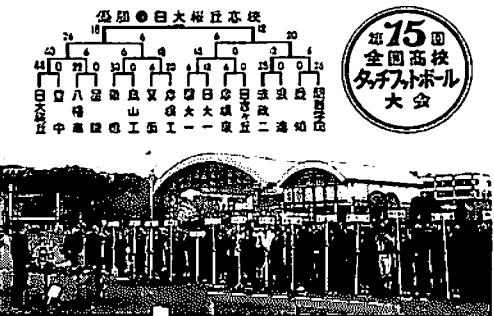
1 回戦

高日市八日22-6中高

(1967年6月22日 長浜西中学校グラウンド)

第15回全国大会

(1968年12月27~29日)



1回戦 豊中高 0 - 44日大桜丘高 (1968年12月27日 関西学院高グラウンド)

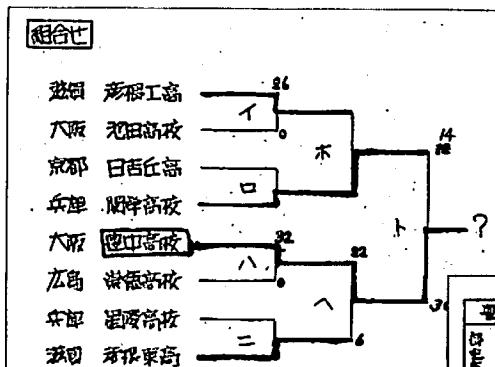
第22回春季近畿大会

(1969年6月21~22日)

関学高を破り念願の優勝!!



zz
бюдже



中華人民共和國地圖						
地圖名稱	編號	比例尺	面積	長度	寬度	說明
中國政區地圖	1:1000萬	1:1000萬	1000萬	1000萬	1000萬	全國政區地圖
中國地形地圖	1:1000萬	1:1000萬	1000萬	1000萬	1000萬	全國地形地圖
中國水系地圖	1:1000萬	1:1000萬	1000萬	1000萬	1000萬	全國水系地圖
中國植被地圖	1:1000萬	1:1000萬	1000萬	1000萬	1000萬	全國植被地圖
中國土壤地圖	1:1000萬	1:1000萬	1000萬	1000萬	1000萬	全國土壤地圖
中國氣候地圖	1:1000萬	1:1000萬	1000萬	1000萬	1000萬	全國氣候地圖
中國礦產地圖	1:1000萬	1:1000萬	1000萬	1000萬	1000萬	全國礦產地圖
中國森林地圖	1:1000萬	1:1000萬	1000萬	1000萬	1000萬	全國森林地圖
中國草原地圖	1:1000萬	1:1000萬	1000萬	1000萬	1000萬	全國草原地圖
中國濕地地圖	1:1000萬	1:1000萬	1000萬	1000萬	1000萬	全國濕地地圖
中國沙漠地圖	1:1000萬	1:1000萬	1000萬	1000萬	1000萬	全國沙漠地圖
中國石炭地圖	1:1000萬	1:1000萬	1000萬	1000萬	1000萬	全國石炭地圖
中國鐵路地圖	1:1000萬	1:1000萬	1000萬	1000萬	1000萬	全國鐵路地圖
中國公路地圖	1:1000萬	1:1000萬	1000萬	1000萬	1000萬	全國公路地圖
中國河流地圖	1:1000萬	1:1000萬	1000萬	1000萬	1000萬	全國河流地圖
中國海岸地圖	1:1000萬	1:1000萬	1000萬	1000萬	1000萬	全國海岸地圖
中國地圖	1:1000萬	1:1000萬	1000萬	1000萬	1000萬	全國地圖



準決勝 豊中高22-6彦根東高
(1969年6月22日 箕面高校グラウンド)

フットボールの「虫」だった選手と「画期的な」インサイドワークとコーチングにより、バスを主体にした強力なチームが出来上がった…。



決勝戦 豊中高34-14関西学院高 (1969年6月22日 箕面高校グラウンド)

第16回 全国大会

(1969年12月26~27日)

四 月 次		四 月 次	
12月28日(木)	8時30分-10時	12月28日(木)	10時00分-11時30分
1	大阪府立人間	1	大阪府立人間
2	大阪府立人間	2	大阪府立人間
3	大阪府立人間	3	大阪府立人間
4	大阪府立人間	4	大阪府立人間
5	大阪府立人間	5	大阪府立人間
6	大阪府立人間	6	大阪府立人間
7	大阪府立人間	7	大阪府立人間

全国高等学校タッチフットボール大会



日本タッチフ



1 回戦

豊中高 0-12日大一高
(1969年12月26日 関西
学院グラウンド)

第22回秋季近畿大会パンフレット (1970年9月12~13日)

タッチフットボール

第23回

近畿高等学校タッチフットボール選手権大会

1970

期日 昭和45年9月12日(土)
9月13日(日)

金蝶 虚拟高等学府

立中高等学校			
学年	科	次	月
四	山用	三	正
四	今安	一	也
五	行		
二二二二上 1955年1月			
月	日	年	月
四	四	7	12
四	四	1	11
四	四	1	10
四	四	2	9
山	本	2	8
山	内	1	7
山	田	1	6
山	本	1	5
山	内	1	4
山	田	1	3
山	本	1	2
山	内	1	1
山	田		
上	3	3	T
中	學	3	T
林	國	1	G
青	體	1	G
金	山	3	C
筑	道	1	C
木	工	3	C
四	口	1	QB
四	田	3	QB
行	行	1	HB
四	田	1	HD
四	田	1	HB
中	行	3	HB
大	學	3	HD
水	口	3	FB
固	本	1	HB

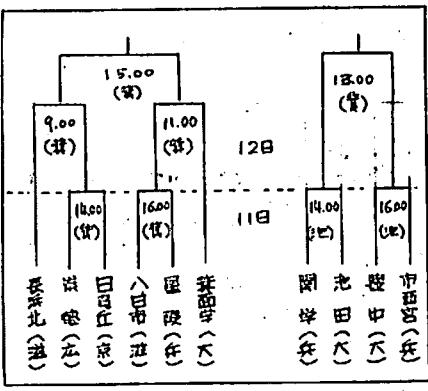
1回戦 豊中高 0 - 52 関西学院高 (1970年9月12日 虎姫高校グラウンド)

アメフトに転換後 初めての近畿大会パンフレット

(1971年9月11~12日)

第24回近畿高等学校タッサフットボール選手権大会 第1回近畿高等学校アメリカンフットボール選手権大会

主催 鹿児島県学校体育連盟
鹿児島市立小・中学校連盟
主観 大阪府立科学館体育連盟
期日 昭和46年9月11日(土)・12日(日)
会場 大阪府立工業高等専門学校
大阪府立淀川高等学校



1回戦
豊中高42-0市立西宮高
2回戦
豊中高0-92関西学院高



第8回春季関西大会パンフレット

(1978年6月)

大正府立盛中高等学校

学校員 山田 邦生
園 園 俊輔 吉、山幸 四一
コーチ 鳩井 慶久
監 督 西山 一也
主 動 画 関根 雄二

氏名	字年	位置	番号	年齢	体重
尾崎 俊二	三	QB	13	170	65
辻 中道	三	QB	19	165	57
西山 一也	三	RB	34	160	57
山本 雄志	三	E	36	170	60
長谷川 公三	三	RB	42	172	62
中西 正明	三	WR	24	169	56
大野 龍也	三	G	69	171	65
田中 勝	三	T	72	172	67
門田 猛人	三	G	78	180	71
五嶺 肇	三	E	82	171	65
森 信	三	E	86	177	68
中村 安男	二	C	55	171	65
武田 一郎	二	T	73	173	63
小室 伸	二	QB	11	165	56
食堂 治	二	DB	22	170	60
新井 伸	二	RB	44	168	63
佐藤 金一	二	DE	53	170	68
田中 四久	二	G	68	173	60
紀見 俊	二	G	71	172	58
桂 之	二	T	76	170	70
大曾 央	二	T	77	174	64
益井 伸	二	WR	84	172	58

1 回眸

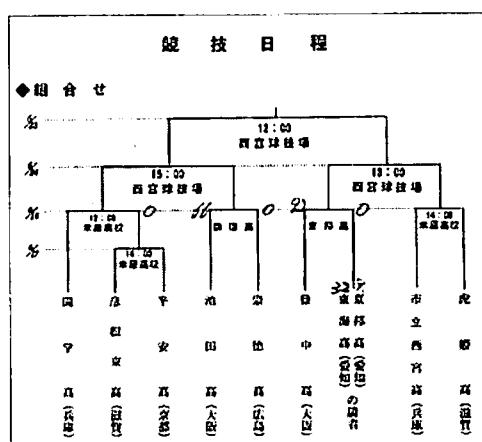
豐山高94-0 東海高

淮海勝

豐中高14-6 虎姬高

決勝

豐中高 0 - 26 関西学院高



1983年春季関西大会

関学高に逆転され、優勝を逃す

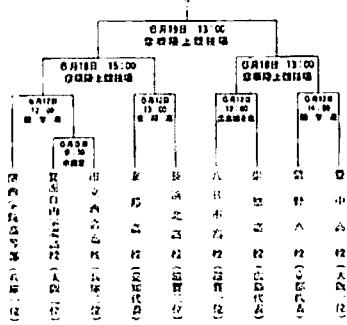


大阪府代表 府立豊中高等学校

学校長 石田千代之助
監督 高橋正道、鈴川英男
選手 岩田智也、伊藤義介
生徒会長 井上和也
主務 佐藤洋子、片山真希、鶴見裕貴
顧問 森田、鈴木、吉田、美田

氏名	番号	位置	身長	体重	学年
上 人	1	WR	174	58	2
藤 介	10	QB	160	55	2
骨 要	12	QB	165	50	2
永 要	13	QB	176	63	3
石 伸	25	WR	165	56	2
原 伸	26	WR	171	58	3
井 分	29	TE	175	65	2
永 伸	33	TE	170	60	2
石 伸	35	VB	161	57	2
原 伸	36	WR	171	58	3
井 伸	37	WR	170	58	3
永 伸	42	RB	171	63	3
石 伸	44	RB	173	60	3
原 伸	45	TB	165	58	2
井 伸	47	TB	174	60	2
永 伸	57	C	175	68	2
石 伸	65	T	167	68	2
原 伸	67	C	173	63	3
井 伸	68	T	177	67	2
永 伸	75	T	175	75	2
石 伸	78	G	177	69	3
原 伸	79	G	168	76	3
井 伸	83	TE	171	65	2
永 伸	83	TE	174	63	3
石 伸	83	TE	172	61	3
原 伸	171		171	65	1
井 伸	172		172	63	1
永 伸	100		100	75	1
石 伸	180		180	70	1
原 伸	172		172	57	1
井 伸	167		167	59	1
永 伸	180		180	68	1
石 伸	175		175	64	1
原 伸	172		172	55	1
井 伸	170		170	80	1
永 伸	166		166	61	1
石 伸	171		171	65	1
原 伸	172		172	61	1
井 伸	168		168	65	1
永 伸	168		168	59	1
石 伸	176		176	100	1

◆組合せ



1回戦

豊中高46-6紫野高

準決勝

豊中高43-0崇徳高

決勝

豊中高20-28関西学院高

本社校報

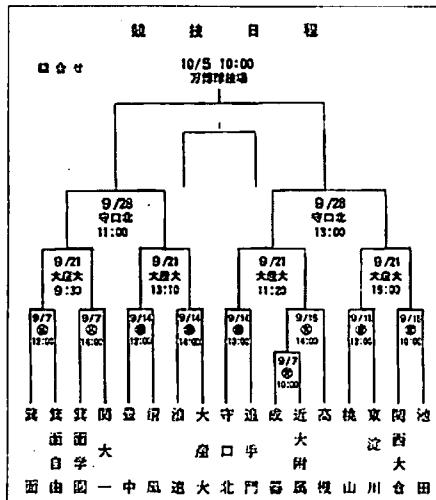
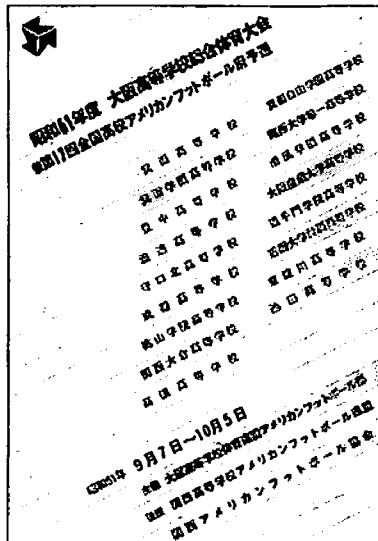
関学堂々の10連覇
関学第一回戦に冷や汗

ハーフボトル

関学第一回戦

1986年秋季大阪大会パンフレット

- 1回戦 豊中高32-0 消風高
 2回戦 豊中高24-13 大産大高
 準決勝 豊中高 0-13 関大一高
 大阪大会 準決勝で敗退



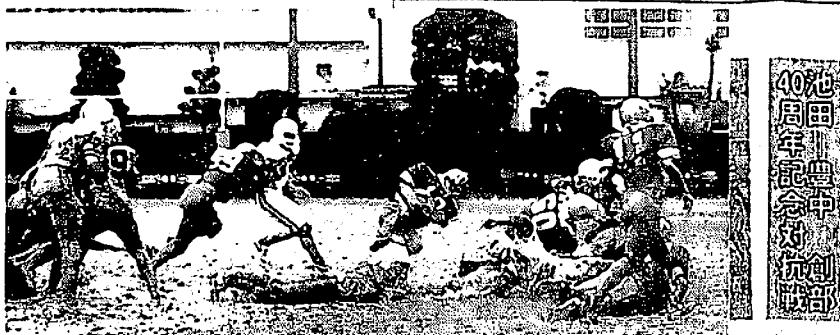
創部40周年記念 池田高との定期戦

(1987年5月17日 西宮球技場)

西宮

昭和62年5月20日 水曜日(1987年5月17日)

◇ <2>



雨の中で泥まみれの熱戦の結果は

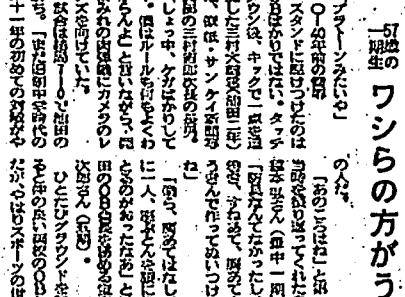
豊中高0-6池田高

アメフト界に轟く



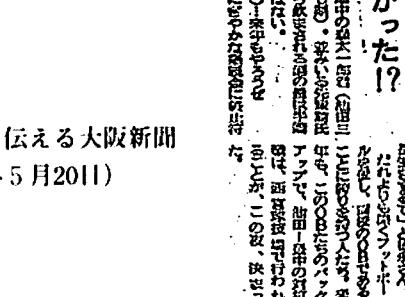
雨の中でも泥まみれの熱戦の結果は

豊中高0-6池田高



雨の中でも泥まみれの熱戦の結果は

豊中高0-6池田高



雨の中でも泥まみれの熱戦の結果は

豊中高0-6池田高

当日の様子を伝える大阪新聞

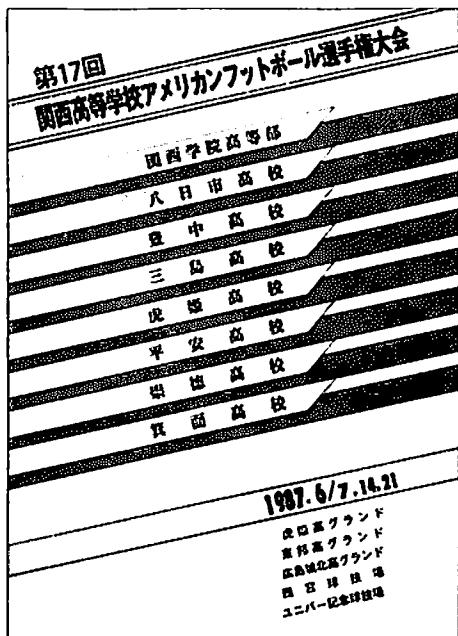
(1987年5月20日)

第17回関西大会

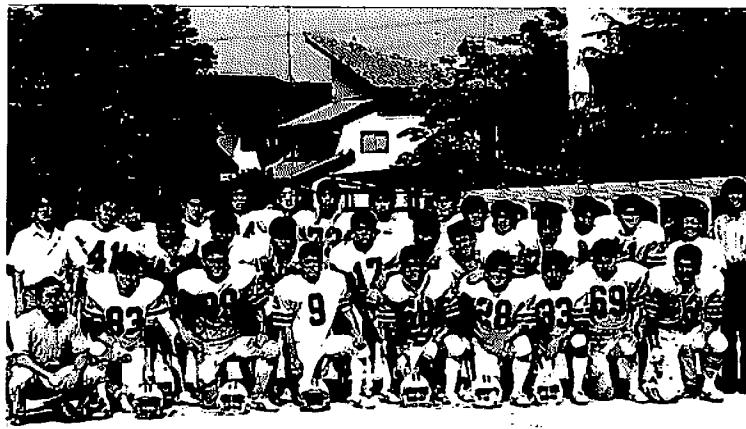
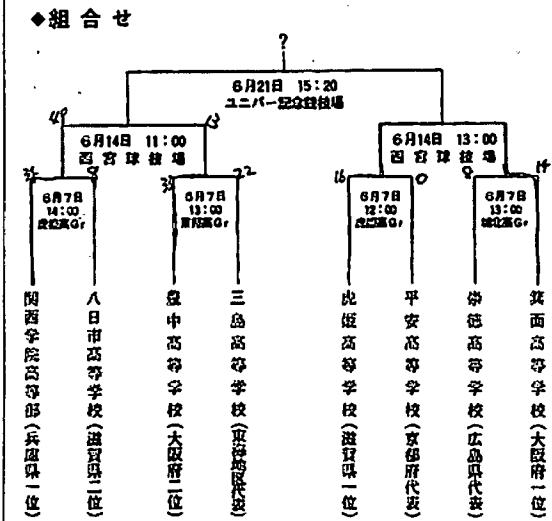
(1987年6月)

1回戦 豊中高33-32三島高(静岡)

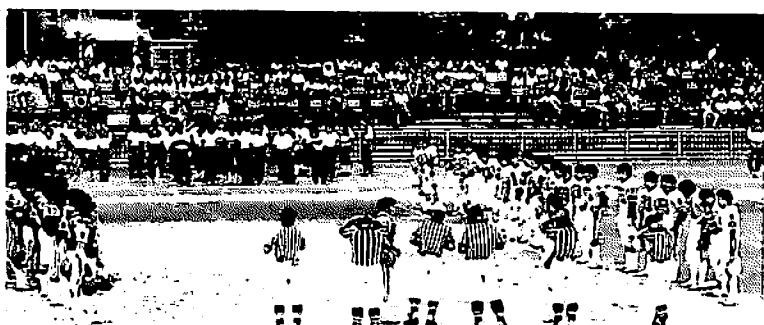
準決勝 豊中高13-49関西学院高



大 会 日 程



第17回関西大会 1回戦で三島高に快勝
(1987年6月7日 愛知県東邦高校グラウンド)



準決勝で関西学院高に敗れる。
(1987年6月14日 西宮球技場)

1987年秋季大阪大会パンフレット

(1987年9月13日～10月11日)

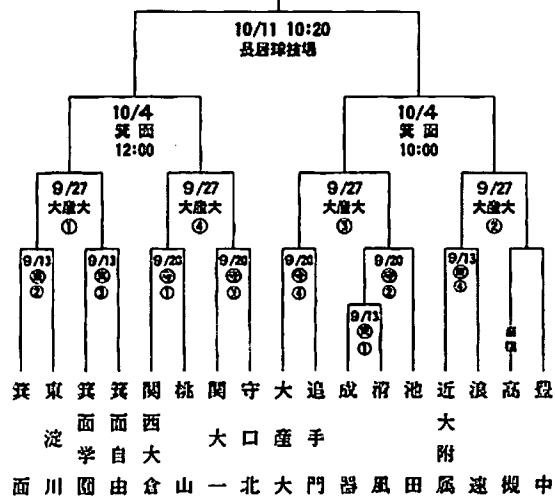
2回戦 豊中高33-0浪速高

準決勝 豊中高6-34大産大高



競技日程

組合せ



(会場) ①～東淀川、②～守口北、③～豊中

1988年春季大阪大会

—豊中高 優勝—

(1988年4月2日～5月8日)

1回戦 豊中高74-0守口北高

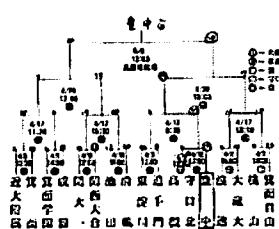
2回戦 豊中高43-6東淀川高

準決勝 豊中高43-7箕面自由学園高

決勝 豊中高28-20清風高

昭和63年度 大阪高等学校春季アメリカンフットボール大会

第18回関西大会府予選



- 大阪高等学校体育連盟
- 高体連アメリカンフットボール部
- 関西高等学校アメリカンフットボール連盟
- 関西アメリカンフットボール協会



清風高を破って大阪大会優勝

(1988年5月8日 長居球技場)

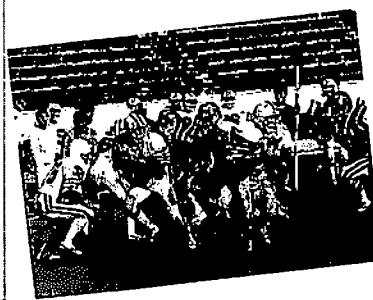
関西大会へ向けて今までに第一步をふみ出そうとしています。
(マネージャー記)

第18回関西大会

(1988年6月)

第18回

関西高等学校アメリカンフットボール選手権大会



大阪府立豊中高等学校 (大田高代表)

監督 岩木 伸也
副監督 久保田 伸一
監督 梶原 良一
監督 須川 貴史
コーチ 佐野和也
選手 小倉 伸二
内野 田中 伸史
内野 木村 伸一
マネージャー 田中義子
監督 大庭 兼子
監督 木村 伸子
木村 伸貴
監督 木村 伸子
木村 伸貴
監督 木村 伸子

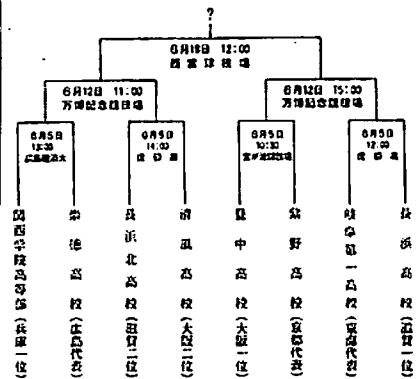
関西地区選手権
決勝戦
日時 6月5日
会場 万葉記念競技場

1988.6.5.11.19

決勝戦
日時 6月5日
会場 万葉記念競技場

大 会 日 程

◆組合せ



番号	姓	氏	学年	会員登録	番号	姓	氏	学年	会員登録				
4	CB	山崎	国之	2	176	63	70	DE	西野	敬一	2	180	70
5	CB	山崎	伸	2	182	70	71	T/DT	小畠	伸	2	179	73
2	WR/G	小早川	卓	2	182	56	72	T/NG	猪口	和也	3	177	70
8	WR/G	丸本	伸	2	183	75	73	T/DT	吉田	文介	2	170	73
10	V/R	大森	伸	2	170	60	75	C/DE	西脇	伸之	3	170	68
11	QB	中西	伸	3	177	63	76	C/DE	角井	伸一	3	177	60
13	WR/V	中西	伸	3	170	64	79	G/DE	大久保	伸	2	170	56
14	CB	木下	伸	2	166	57	80	WR/S	武田	伸	3	174	56
15	CB	鶴見	伸	2	170	62	87	TE/G	谷中	伸化	3	178	70
18	CD	三輪	伸	2	172	64	88	TE	中澤	伸也	2	170	57
21	WR/G	中島	伸	3	169	57	95	EV/G	西田	伸	2	178	67
23	WR/G	中山	伸	3	165	56	96	TE/LB	中川	伸	2	175	65
24	WR	中野	伸	3	172	65			川内	伸	1	175	52
25	WR	佐藤	伸	2	172	60			内田	伸	1	173	58
26	S	馬久雄	伸	2	170	60			山野	伸	1	172	57
27	WR/G	石井	伸	3	176	63			鈴木	伸	1	169	50
29	TB	白井	伸	2	171	67			鈴木	伸	1	173	70
31	WR/G	中山	伸	3	173	67			鈴木	伸	1	170	106
32	CD	中野	伸	2	170	61			鈴木	伸	1	170	51
34	WR/G	丸山	伸	3	169	60			鈴木	伸	1	177	52
37	LB	河原	伸	2	180	65			鈴木	伸	1	173	73
38	FB	河原	伸	2	165	65			鈴木	伸	1	163	60
41	WR/G	中山	伸	3	174	69			鈴木	伸	1	173	70
42	WR/G	北川	伸	3	173	65			鈴木	伸	1	175	69
44	WR/G	中山	伸	3	160	56			鈴木	伸	1	179	72
47	WR	豊中	伸	2	167	63			鈴木	伸	1	162	65
48	WR/G	豊中	伸	3	172	85			鈴木	伸	1	163	65
49	WR/G	豊中	伸	2	176	66			鈴木	伸	1	160	57
50	C	小林	伸	2	180	60			鈴木	伸	1	170	63
55	T/NG	豊中	伸	2	164	83			鈴木	伸	1	174	60
57	LD	鳥居	伸	2	179	50			鈴木	伸	1	172	60
59	G	鶴見	伸	3	170	70			鈴木	伸	1	170	60
63	T/DT	豊中	伸	2	174	69			鈴木	伸	1	168	60
64	T/DT	豊中	伸	2	173	79			鈴木	伸	1	170	63
65	G/DR	上原	伸	3	171	70			鈴木	伸	1	176	68
67	G	鶴見	伸	2	178	72			鈴木	伸			

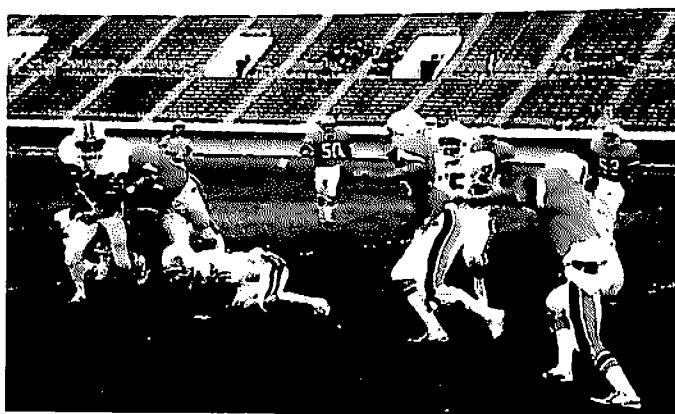


1988年6月5日 関西大会1回戦

豊中高42-0紫野高

二階建てバスにゆられてやっとたどり着いた宝ヶ池球技場で楽々と次の試合への切符を手にした。憧れの東海(辰弥)さんとも一緒に写真を撮りました。

(マネージャー記)



1988年6月12日 関西大会2回戦

豊中高62-7岐阜第一高

(長居球技場)

第18回関西大会で優勝

(1988年6月19日)

体いっぱいに喜びをあらわしている先輩達、とても素敵な笑顔です。(マネージャー記)

豊高アメフト「初V」



▲関学窓を破って初優勝――喜ぶ白中高校の選手たち(西日本球場で)

関学の15連覇阻止



豊中悲願初V

打倒関学を果たし初優勝、大喜びの豊中高一四球球技場

本社後編 ◇関学新校メモ
おしゃべり

17歳前の豊中が自慢した関学を14-0で破り、五連覇の決勝戦を阻止。第18回関西高校アメフト・ハーフボール選手権大会(ハイスクール・フットボール)は十九日、西日本球場で開幕戦を戦った。

豊中はO山中川英の活躍で、15連覇を阻止。第18回関西高校アメフト・ハーフボール選手権大会(ハイスクール・フットボール)は十九日、西日本球場で開幕戦を戦った。

豊中はO山中川英の活躍で、15連覇を阻止。第18回関西高校アメフト・ハーフボール選手権大会(ハイスクール・フットボール)は十九日、西日本球場で開幕戦を戦った。

▲ 6. 6. 20. Mon.

デイリースポーツ

1988年6月20日 デイリースポーツ

糸井重一郎 毎日新聞政治部記者
太宰邦造園業者が選ばれた、「はるひもむらだいじ」と書かれていた
やっと勝てた
豊中高一四球球技場
田中 治

平成元年度大阪高等学校総合体育大会

平成元年度 大阪高等学校総合体育大会

第20回全国高校アメリカンフットボール府予選

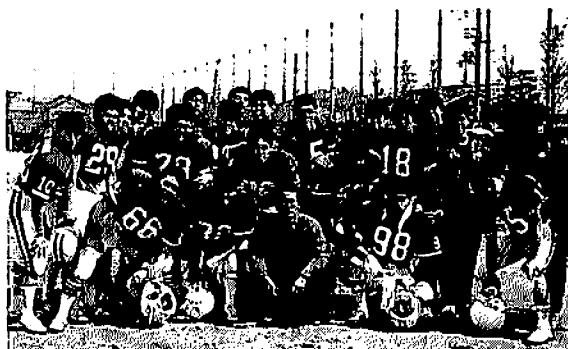


主 催 大阪高等学校体育連盟
主 観 高体連アメリカンフットボール部

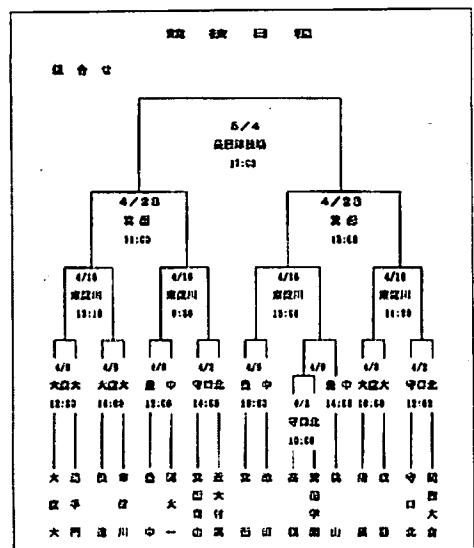
府立 豊中高等学校 ROAD RUNNERS

監 督 木本 伸也 指導第一 須川 雄二
コーチ 鳥居 俊吉 小島 雄二、鬼谷 雄史、小島 雄
村松 CG、木井真一郎、日本 球連
主 将 鈴見
副主将 土田 実尚、中國 喜忠
主 題 関根 信子、木村 邦良、佐藤 知子、多田 美子、山岸 夕
合宿地點 中木田地区

氏名	年令	性別	学年	年令	性別	学年	年令
西谷 真士	1	ST	116	63	2		
山崎 風之	4	CD	176	63	3		
立石 隆司	6	G	173	72	3		
今西 雄介	7	WR	163	55	2		
小林川 竜江	7	WR	181	66	2		
八木 伸太郎	8	QB	165	75	2		
後藤 太郎	9	QB	182	66	2		
大庭 伸太郎	10	WR	163	63	3		
木村 真生	11	CD	166	57	3		
西原 伸介	12	WR	170	62	3		
西浦 友也	13	UD	165	45	2		
西川 英介	17	QB	178	64	2		
二川 正知	18	CD	172	64	3		
佐藤 駿	19	WR	172	60	3		
馬久助 弘平	20	S	170	62	3		
川口 大祐	22	WR	175	62	2		
吉井 元定	23	TB	171	67	3		
田中 仁	24	CG	170	61	2		
竹内 良司	24	DD	173	63	2		
坂井 伸也	27	LD	165	74	3		
田中 駿介	28	FB	164	65	3		
佐藤 哲志	40	DU	175	62	2		
田中 康隆	45	RD	171	65	2		
西田 真一	47	WR	170	70	3		
小坂 真嗣	50	DT	164	63	3		

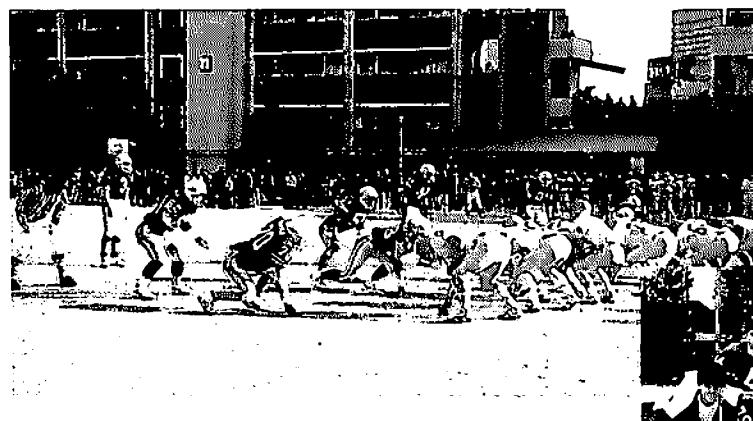


1回戦 豊中高34-3関大一高



2回戦 豊中高0-7箕面自由学園高

1993年春新人大会

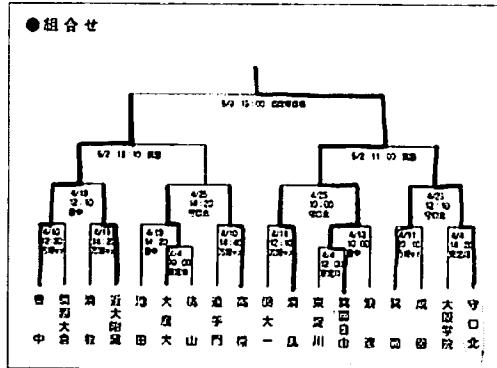


1回戦 豊中高47-3 大阪学院高
2回戦 豊中高19-2 清風高
3回戦 豊中高27-0 大産大高

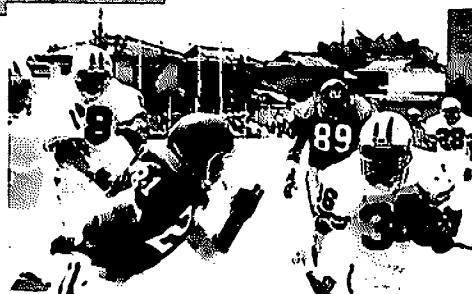


大産大高に勝つ
(1993年2月14日 大産大高グランド)

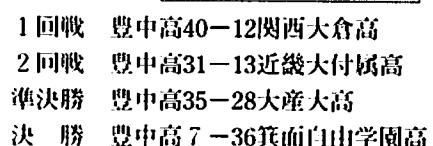
1993年春季大阪大会



vs.関西大倉高
(1993年4月10日 万博サ
ブグラウンド)



vs.近畿大付属高
(1993年4月18日 豊中高校
グラウンド)



第23回関西大会

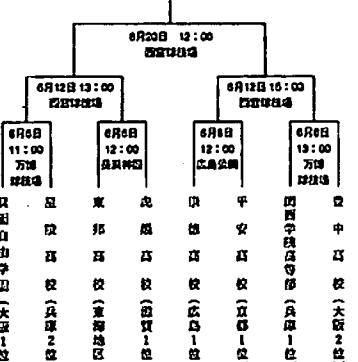
(1993年6月)

**第23回 関西高等学校
アメリカンフットボール選手権大会**

1993.
6/6.12.20

広島県福山市立第二中学校
広島県福山市立公園
万葉球場
豊田球場

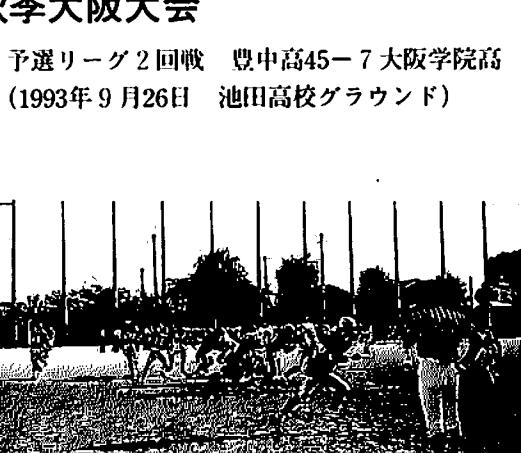
●組合せ



1回戦 豊中高19-14関西学院高
準決勝 豊中高15-21平安高

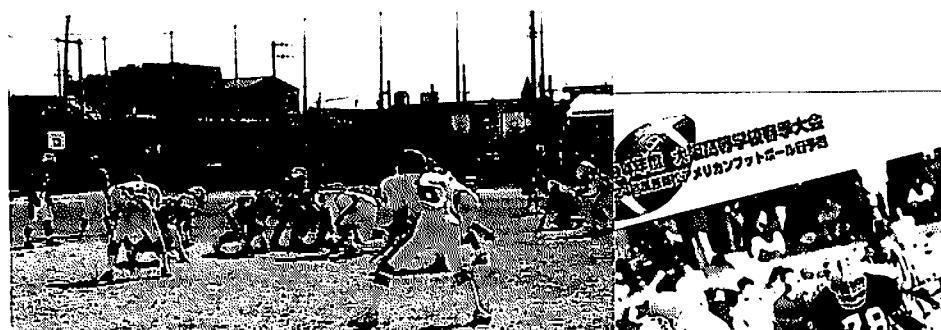
順位	出場	氏名	学年	会員	性別	順位	出場	氏名	学年	会員	性別
1	SE	小川 治史	3	182	05	61	DB	辻 伸哉	3	170	05
2	K/P/K	石村 駿介	3	171	06	62	S/S	加藤 忠	3	165	04
3	DB	松崎 誠介	3	171	05	63	WR	山田 幸平	3	173	03
4	DB	木下 駿介	3	170	05	64	LB	酒井 勝也	3	173	03
5	QB	石野 貴裕	2	174	05	65	CB	鶴巣 良輔	3	162	03
6	QB	川島 雄也	2	160	05	66	WR	中井 真生	2	165	02
7	WR	鶴巣 良輔	2	167	03	67	FL	山口 康祐	2	170	03
8	FB/LB	白石 駿介	3	175	05	68	CB	吉田 康也	2	165	02
9	QB	金田 伸一	3	166	05	69	LB	中山 伸也	3	165	03
10	CB	木村 伸也	3	171	05	70	WR	中西 伸也	3	165	03
11	CB	木村 伸也	3	174	05	71	FL	鶴巣 良輔	3	162	03
12	WR	鶴巣 良輔	2	160	05	72	CB	鶴巣 良輔	3	162	03
13	WR	鶴巣 良輔	2	167	03	73	LB	鶴巣 良輔	3	162	03
14	FB/LB	白石 駿介	3	175	05	74	WR	吉田 康祐	2	170	03
15	CB	木村 伸也	3	176	05	75	FL	中西 伸也	3	165	03
16	CB	木村 伸也	3	171	05	76	CB	鶴巣 良輔	3	162	03
17	WR	鶴巣 良輔	2	165	05	77	LB	中西 伸也	3	165	03
18	WR	鶴巣 良輔	2	167	03	78	WR	鶴巣 良輔	3	162	03
19	WR/LB	土光 駿也	3	167	03	79	FL	鶴巣 良輔	3	162	03
20	DB	黒川 大輔	2	165	05	80	CB	鶴巣 良輔	3	162	03
21	DB	久留米 大介	3	168	05	81	LB	鶴巣 良輔	3	162	03
22	DB	鈴木 光輝	3	171	05	82	WR	鶴巣 良輔	3	162	03
23	DB	鈴木 光輝	3	171	05	83	FL	鶴巣 良輔	3	162	03
24	DB	鈴木 光輝	3	171	05	84	CB	鶴巣 良輔	3	162	03
25	DB	鈴木 光輝	3	170	05	85	LB	鶴巣 良輔	3	162	03
26	DB	鈴木 光輝	3	170	05	86	WR	鶴巣 良輔	3	162	03
27	DB	鈴木 光輝	3	170	05	87	FL	鶴巣 良輔	3	162	03
28	DB	鈴木 光輝	3	170	05	88	CB	鶴巣 良輔	3	162	03
29	DB	鈴木 光輝	3	170	05	89	LB	鶴巣 良輔	3	162	03
30	DB	鈴木 光輝	3	170	05	90	WR	鶴巣 良輔	3	162	03
31	DB	鈴木 光輝	3	170	05	91	FL	鶴巣 良輔	3	162	03
32	DB	鈴木 光輝	3	170	05	92	CB	鶴巣 良輔	3	162	03
33	DB	鈴木 光輝	3	170	05	93	LB	鶴巣 良輔	3	162	03
34	DB	鈴木 光輝	3	170	05	94	WR	鶴巣 良輔	3	162	03
35	DB	鈴木 光輝	3	170	05	95	FL	鶴巣 良輔	3	162	03
36	DB	鈴木 光輝	3	170	05	96	CB	鶴巣 良輔	3	162	03
37	DB	鈴木 光輝	3	170	05	97	LB	鶴巣 良輔	3	162	03
38	DB	鈴木 光輝	3	170	05	98	WR	鶴巣 良輔	3	162	03
39	DB	鈴木 光輝	3	170	05	99	FL	鶴巣 良輔	3	162	03
40	DB	鈴木 光輝	3	170	05	100	CB	鶴巣 良輔	3	162	03
41	DB	鈴木 光輝	3	170	05	101	LB	鶴巣 良輔	3	162	03
42	DB	鈴木 光輝	3	170	05	102	WR	鶴巣 良輔	3	162	03
43	DB	鈴木 光輝	3	170	05	103	FL	鶴巣 良輔	3	162	03
44	DB	鈴木 光輝	3	170	05	104	CB	鶴巣 良輔	3	162	03
45	DB	鈴木 光輝	3	170	05	105	LB	鶴巣 良輔	3	162	03
46	DB	鈴木 光輝	3	170	05	106	WR	鶴巣 良輔	3	162	03
47	DB	鈴木 光輝	3	170	05	107	FL	鶴巣 良輔	3	162	03
48	DB	鈴木 光輝	3	170	05	108	CB	鶴巣 良輔	3	162	03
49	DB	鈴木 光輝	3	170	05	109	LB	鶴巣 良輔	3	162	03
50	DT	丸山 大介	3	170	05	110	WR	鶴巣 良輔	3	162	03
51	DB	丸山 大介	3	170	05	111	FL	鶴巣 良輔	3	162	03
52	DB	丸山 大介	3	170	05	112	CB	鶴巣 良輔	3	162	03
53	DB	丸山 大介	3	170	05	113	LB	鶴巣 良輔	3	162	03
54	DB	丸山 大介	3	170	05	114	WR	鶴巣 良輔	3	162	03
55	DB	丸山 大介	3	170	05	115	FL	鶴巣 良輔	3	162	03
56	DB	丸山 大介	3	170	05	116	CB	鶴巣 良輔	3	162	03
57	DB	丸山 大介	3	170	05	117	LB	鶴巣 良輔	3	162	03
58	DB	丸山 大介	3	170	05	118	WR	鶴巣 良輔	3	162	03
59	DB	丸山 大介	3	170	05	119	FL	鶴巣 良輔	3	162	03
60	DB	丸山 大介	3	170	05	120	CB	鶴巣 良輔	3	162	03
61	DB	丸山 大介	3	170	05	121	LB	鶴巣 良輔	3	162	03
62	DB	丸山 大介	3	170	05	122	WR	鶴巣 良輔	3	162	03
63	DB	丸山 大介	3	170	05	123	FL	鶴巣 良輔	3	162	03
64	DB	丸山 大介	3	170	05	124	CB	鶴巣 良輔	3	162	03
65	DB	丸山 大介	3	170	05	125	LB	鶴巣 良輔	3	162	03
66	DB	丸山 大介	3	170	05	126	WR	鶴巣 良輔	3	162	03
67	DB	丸山 大介	3	170	05	127	FL	鶴巣 良輔	3	162	03
68	DB	丸山 大介	3	170	05	128	CB	鶴巣 良輔	3	162	03
69	DB	丸山 大介	3	170	05	129	LB	鶴巣 良輔	3	162	03
70	DB	丸山 大介	3	170	05	130	WR	鶴巣 良輔	3	162	03
71	DB	丸山 大介	3	170	05	131	FL	鶴巣 良輔	3	162	03
72	DB	丸山 大介	3	170	05	132	CB	鶴巣 良輔	3	162	03
73	DB	丸山 大介	3	170	05	133	LB	鶴巣 良輔	3	162	03
74	DB	丸山 大介	3	170	05	134	WR	鶴巣 良輔	3	162	03
75	DB	丸山 大介	3	170	05	135	FL	鶴巣 良輔	3	162	03
76	DB	丸山 大介	3	170	05	136	CB	鶴巣 良輔	3	162	03
77	DB	丸山 大介	3	170	05	137	LB	鶴巣 良輔	3	162	03
78	DB	丸山 大介	3	170	05	138	WR	鶴巣 良輔	3	162	03
79	DB	丸山 大介	3	170	05	139	FL	鶴巣 良輔	3	162	03
80	DB	丸山 大介	3	170	05	140	CB	鶴巣 良輔	3	162	03
81	DB	丸山 大介	3	170	05	141	LB	鶴巣 良輔	3	162	03
82	DB	丸山 大介	3	170	05	142	WR	鶴巣 良輔	3	162	03
83	DB	丸山 大介	3	170	05	143	FL	鶴巣 良輔	3	162	03
84	DB	丸山 大介	3	170	05	144	CB	鶴巣 良輔	3	162	03
85	DB	丸山 大介	3	170	05	145	LB	鶴巣 良輔	3	162	03
86	DB	丸山 大介	3	170	05	146	WR	鶴巣 良輔	3	162	03
87	DB	丸山 大介	3	170	05	147	FL	鶴巣 良輔	3	162	03
88	DB	丸山 大介	3	170	05	148	CB	鶴巣 良輔	3	162	03
89	DB	丸山 大介	3	170	05	149	LB	鶴巣 良輔	3	162	03
90	DB	丸山 大介	3	170	05	150	WR	鶴巣 良輔	3	162	03
91	DB	丸山 大介	3	170	05	151	FL	鶴巣 良輔	3	162	03
92	DB	丸山 大介	3	170	05	152	CB	鶴巣 良輔	3	162	03
93	DB	丸山 大介	3	170	05	153	LB	鶴巣 良輔	3	162	03
94	DB	丸山 大介	3	170	05	154	WR	鶴巣 良輔	3	162	03
95	DB	丸山 大介	3	170	05	155	FL	鶴巣 良輔	3	162	03
96	DB	丸山 大介	3	170	05	156	CB	鶴巣 良輔	3	162	03
97	DB	丸山 大介	3	170	05	157	LB	鶴巣 良輔	3	162	03
98	DB	丸山 大介	3	170	05	158	WR	鶴巣 良輔	3	162	03
99	DB	丸山 大介	3	170	05	159	FL	鶴巣 良輔	3	162	03
100	DB	丸山 大介	3	170	05	160	CB	鶴巣 良輔	3	162	03

1993年秋季大阪大会

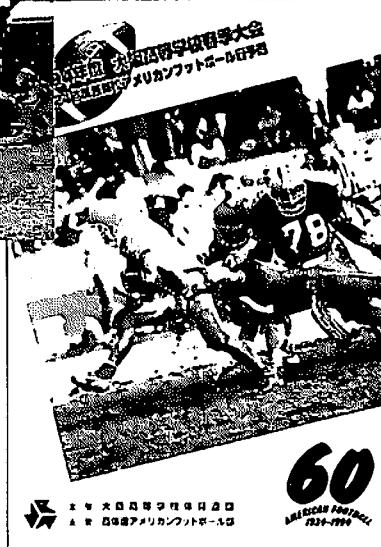


予選リーグ1回戦 豊中高34-14追手門学院高
(1993年9月5日 大産大高校グラウンド)

1994年春新人大会



豊中高19-2 消風高
(1994年1月23日 豊中高校グラウンド)

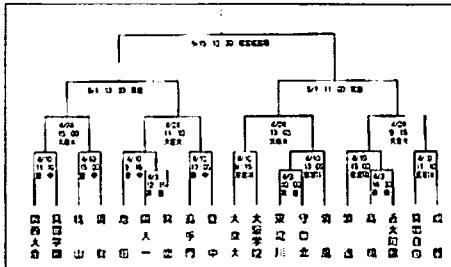


府立豊中高等学校

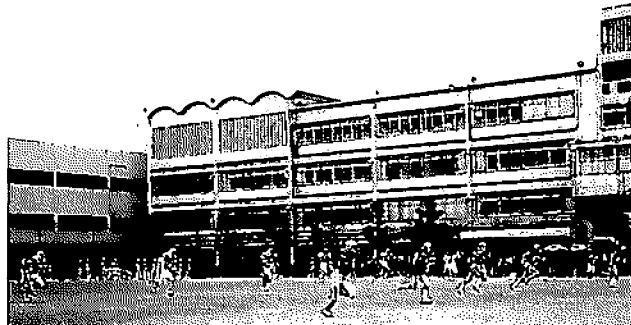
◆ ROAD RUNNERS ◆

名前	位置	姓	名	年次	身長	体重
2	LB	今	木 順	2	168	56
3	K/D/S	石	村 勝	3	171	60
4	SE	山	本 伸	2	170	60
5	TE	内	川 仁	3	172	63
6	QB	田	中 翔	2	171	63
7	TH	山	原 伸	2	170	63
10	QB	京	吉 伸	2	170	63
11	QB	石	谷 伸	2	170	63
15	FL	石	谷 伸	2	170	63
16	FL	山	山 伸	2	170	63
19	FB	山	山 伸	2	170	63
20	CB	山	山 伸	2	170	63
21	RB	山	山 伸	2	170	63
24	FL	山	山 伸	2	170	63
25	DB	山	山 伸	2	170	63
26	DB	山	山 伸	2	170	63
27	DB	山	山 伸	2	170	63
32	DB	山	山 伸	2	170	63
37	DB	山	山 伸	2	170	63
39	DB	山	山 伸	2	170	63
41	FL	山	山 伸	2	170	63
42	SE	山	山 伸	2	170	63
45	DE	山	山 伸	2	170	63
50	C	山	山 伸	2	170	63
52	DT	山	山 伸	2	170	63
54	LB	山	山 伸	2	170	63
55	CB	山	山 伸	2	170	63
56	DE	山	山 伸	2	170	63
58	OL/T	山	山 伸	2	170	63
60	DE	山	山 伸	2	170	63
61	G	山	山 伸	2	170	63
65	LD	山	山 伸	2	170	63
69	T	山	山 伸	2	170	63
73	G	山	山 伸	2	170	63
77	C	山	山 伸	2	170	63
79	SE	山	山 伸	2	170	63
80	WR	山	山 伸	2	170	63
81	FL	山	山 伸	2	170	63
85	TE	山	山 伸	2	170	63
86	TB	山	山 伸	2	170	63
87	LB	山	山 伸	2	170	63
91	SE	山	山 伸	2	170	63
95						

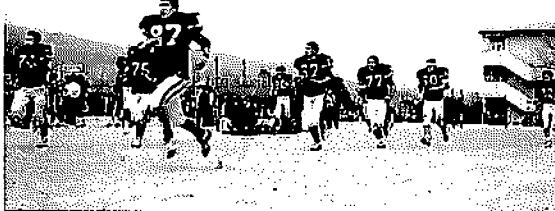
1994年春季大阪大会で優勝



- 2回戦 豊中高61-0 追手門学院高
3回戦 豊中高35-0 池田高
準決勝 豊中高41-7 関西大倉高
決 勝 豊中高26-12 大産大高



vs.池田高 (1994年4月24日 大産大高校グラウンド)



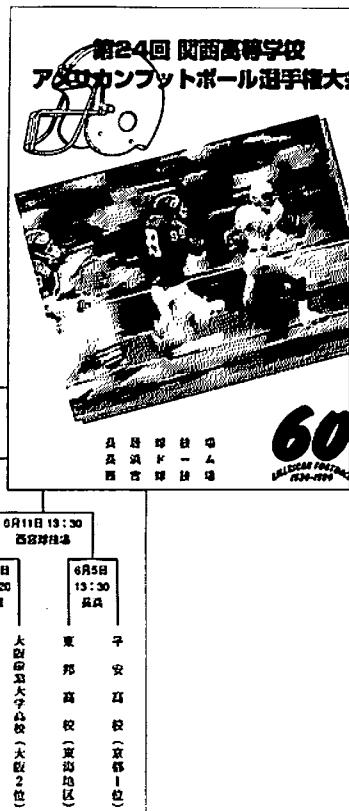
vs.関西大倉高 (1994年5月1日 箕面高校グラウンド)



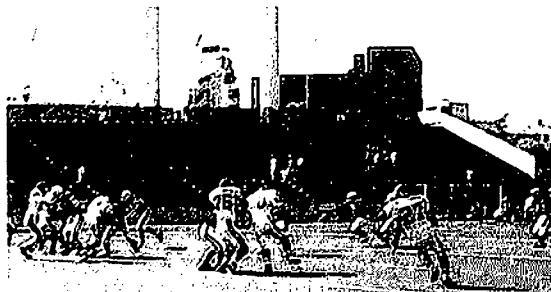
vs.大産大付属高 (1994年5月15日 西宮球技場)

第24回関西大会

(1994年6月)



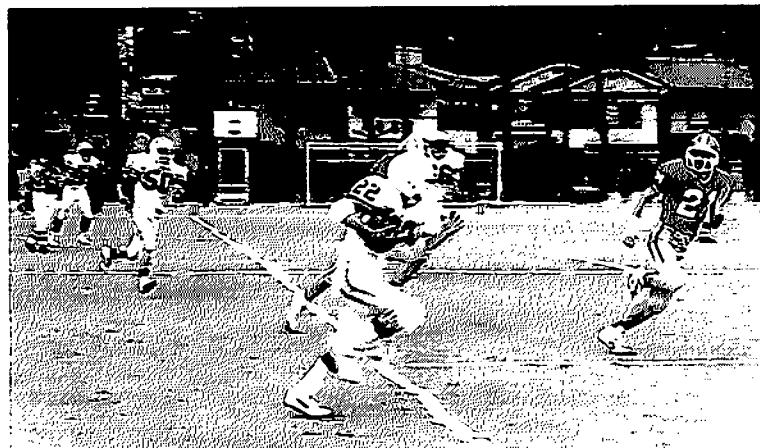
姓	名	年齢	身長	体重	番号	性別	氏名	年齢	身長	体重
足木	和也	21	168	56	63	G/DT	足木 和也	2	172	73
足木	義和	21	171	65	65	DE	足木 義和	2	160	72
タムラツヨ	義和	21	171	65	67	G/LB	田村 義和	2	177	78
コチ	和也	21	175	63	69	LB	小西 和也	2	175	76
主	大司郎	21	171	63	74	T	小田川 大司郎	2	173	93
橋井	信二	21	178	66	75	G	橋井 信二	3	170	83
石川	利明	21	175	65	77	C	宇佐 利明	3	177	84
山下	隆義	21	174	65	79	DE	岡田 隆義	2	175	82
山下	和也	21	170	55	80	SE	古沢 和也	2	162	61
山本	信四	21	179	63	83	SB	山田 信四	3	175	68
山本	兄弟	21	167	63	85	FL	越谷 信介	3	165	63
山崎	達介	21	175	75	87	TE	中井 達介	3	173	70
白石	裕輔	21	170	57	89	TE	田代 裕輔	2	160	75
白石	亮介	21	182	67	90	LB	古川 亮介	3	174	71
松山	伸児	21	172	63	91	SE	杉山 伸児	3	170	63
大内	貴之	21	167	58	98	LB	松田 大	2	173	67
大内	洋一	21	170	54						
谷村	洋一	21	168	67						
矢野	桂太郎	21	175	65						
平野	和輝	21	170	57						
白石	F	21	179	74						
FB	田代 延之	2	170	60						
SE	細田 順也	3	170	60						
DB	細田 順也	3	173	62						
C	井上 土樹	2	175	77						
LB	加賀山 力	2	175	69						
DT	堺 陽一	2	174	57						
LB	堺 陽一	2	175	71						
LB	大橋 達成	2	172	67						
LB	村井 錠嗣	3	174	75						
DE	佐々木 大介	3	181	84						
T	非上 太助	3	174	95						



1回戦

豊中高41-14宝塚東高

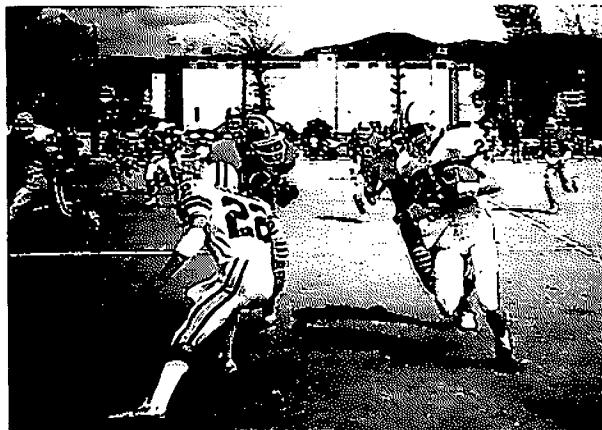
(1994年6月4日 長居球技場)



1995年春新人大会

豊中高24-12箕面自由学園高 (1995年2月5日 箕面高校グラウンド)

1995年春季大阪大会



vs.箕面自由学園高
(1995年4月29日 箕面高校グラウンド)

1回戦	豊中高34-0 清風高
2回戦	豊中高33-0 箕面自由学園高
準決勝	豊中高6-42大産大高
3位決定戦	豊中高27-0 浪速高



vs.浪速高 (1995年5月7日 西宮球技場)
この結果3位になり、関西大会出場権を獲得

第25回関西大会

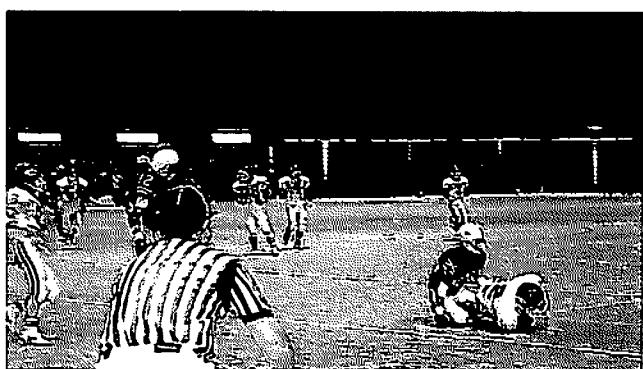
(1995年6月)



1回戦	豊中高20-0 八日市高
2回戦	豊中高0-16関西学院高

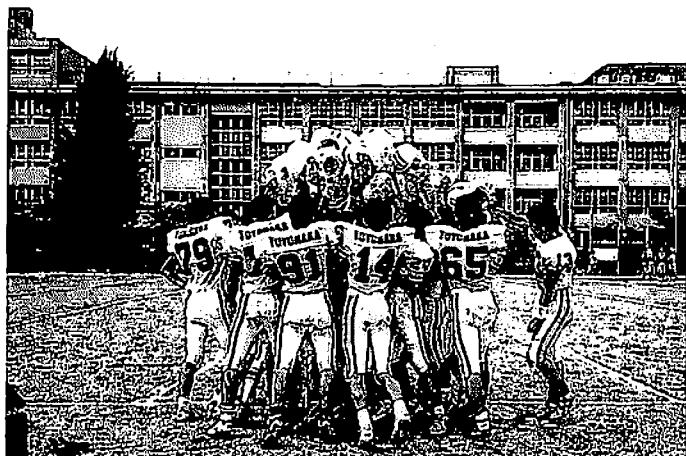
大阪府立豊中高等学校 (大阪府代表)						
順位	姓 名	年齢	身長	体重	順位	姓 名
3	CD 今井大輔	3	171	62	57	DB 山本成史
4	SD 山下信義	3	171	63	63	TDT 国名貴士
5	FB/K 西田有紀太	3	177	63	65	G/DG 西川哲也
6	SE 田中亮吾	3	172	63	70	DT 小島徹也
7	QB 伊藤厚平	3	170	70	75	DT 木本将文
13	FB/KD 宮田真平	3	175	63	78	DP 松山祐介
23	QB 中山雄司	2	174	65	79	G/DG 鶴口幸三
15	DB 西村直也	3	170	55	80	SU 古賀 勉
17	PS 紀 春夫	3	171	65	83	TE 須藤敏哉
18	FL 山本亮丸	3	170	65		鷲見正樹
21	CB 久保淳輔	2	174	63		西田 勇
22	TB 大月健太郎	2	162	53		紀 元 太
23	LB 大野直史	2	150	65		太田 功
24	FD 内藤英二	2	150	65		小 野 伸
25	FL/KD 松山神紀	3	174	63		鶴見日平
26	TD 大西良之	3	170	63		鷲見幸二
41	TR/LB 田代慎之	3	179	74		鷲見 宗
44	TB 久保亮太	2	163	64		鷲見一郎
50	COT 井上正樹	3	175	64		山崎義和
51	LB 佐藤宏樹	2	171	65		遠藤昌介
52	LB 加賀貴力	3	175	73		三宅謙大
53	TD 保 一	3	175	60		深田成史
54	LB 関谷竜成	3	176	70		村岡宏樹
55	LB 大野直成	3	174	72		矢吹聰也
56	LB 仁田 大	3	173	72		

大 会 日 程						
●組合せ						
大阪府立大学高専野球部(大阪1回) - 5/4 14:00 関洲ドーム						
豊中市立豊中高専学校(豊中1回) - 5/4 14:00 関洲ドーム						
大阪府立豊中中等学校(大阪2回) - 5/6 12:00 関洲野球場						
八日市高 球(関東2回) - 5/6 12:00 関洲ドーム						
豊中市立豊中高専学校(豊中1回) - 5/6 12:00 関洲野球場						
大阪府立茨木高専野球部(茨木1回) - 5/6 15:00 関洲野球場						
関西学院高 球(関東1回) - 5/6 11:00 実高実業公園						



vs.関西学院高 (1995年6月4日 長浜ドーム)

1995年秋季大阪大会



予選リーグ

- 1回戦 豊中高14-7成器高
- 2回戦 豊中高24-1清風高
- 決勝リーグ
- 1回戦 豊中高0-42大産大高
- 2回戦 豊中高2-34近畿大付属高

気勢をあげて成器高戦に臨む

(1995年9月10日 池田高校グラウンド)

1996年春季大阪大会



1996年度 大阪高等学校春季大会
第26回関西高校アメリカンフットボール府予選

府立豊中高等学校

◆ROAD RUNNERS◆

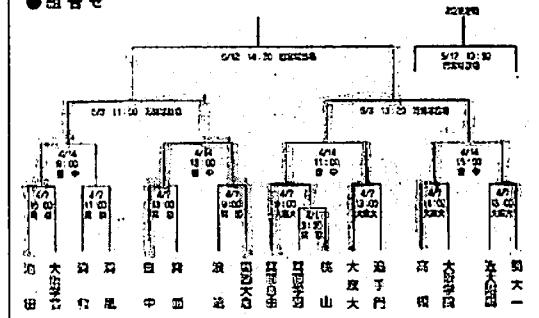
監督 石川 勝也
監督助手 田中 哲也、吉田 勉
コーチ 高橋 伸也、山本 勇也、石丸 勝也、今木 久義、
中山 雄馬
サポーター 大矢
日本選手会 豊中高校 豊中大高

番号	位置	氏名	学年	身長	体重
1	DB	後藤尚一郎	2	170	57
8	QB	伊藤 勝	2	177	68
13	QB	中山 栄祐	3	174	66
16	CB	池田 康樹	2	176	65
17	FS	船 伸夫	3	171	65
22	TB	大月信大郎	3	162	53
31	DB	太田 勝	2	182	63
32	LB	西原 宏	2	175	65
33	DB	村田 公臣	3	178	68
46	FB	吉田 寛大	3	168	64
51	LB	森月 太陽	3	171	65
57	LB	山本 龍史	3	176	60
67	LB	福田 真二	2	172	70
70	L	小島 聰郎	3	157	70
72	L	佐木 俊文	3	176	65
73	L	山崎 駿也	2	163	75
74	R	飯沼 優	2	175	65
75	L	福田 駿史	2	179	60
76	L	小西 勇	2	163	72
78	L	秋山 和寛	3	175	60
81	LB	西 政輔	3	172	75
82	DB	岸本 駿郎	2	168	58
89	WR	乾 亮太	2	170	59
91	LB	高見 貴平	2	172	65

1回戦 豊中高27-0箕面高

2回戦 豊中高7-26関西大倉高

●組合せ



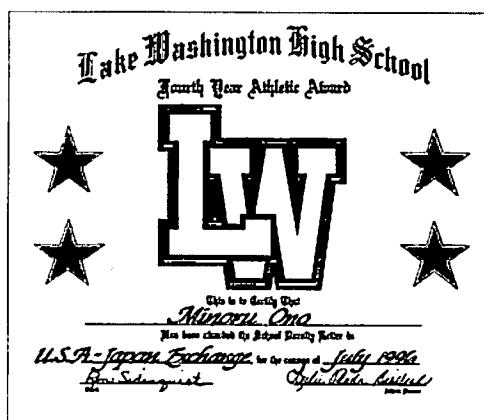
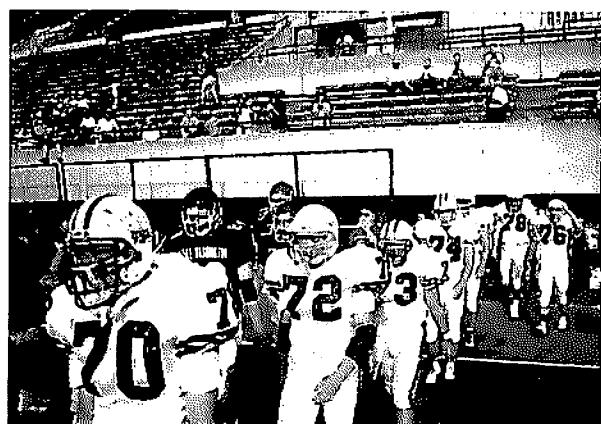
vs.関西大倉高 (1996年4月21日近畿大付属高校グラウンド)

レークワシントン高 来日

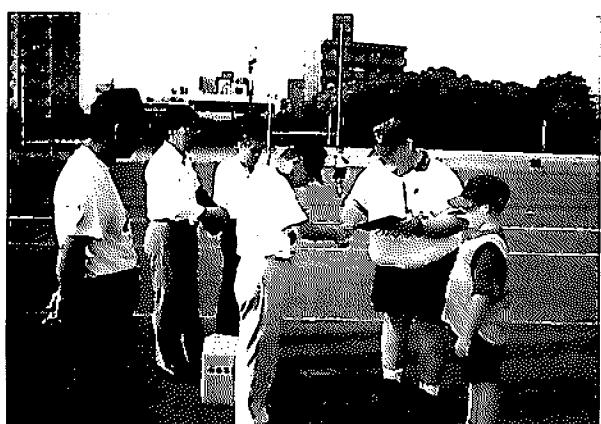
(1996年7月18~28日)



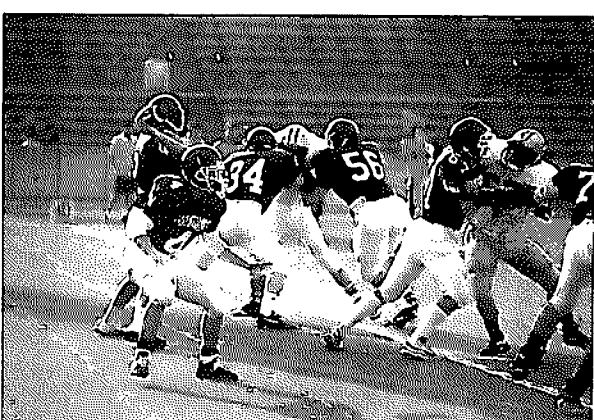
豊中高校でウエルカムパーティ (1996年7月18日)



レークワシントン高からOB会に贈られた記念証



豊中高・池田高連合チームと親善試合
(1996年7月26日 長居球技場)
連合チーム 7-21 レークワシントン高



合宿と練習のひとコマ

— 合宿メニュー —

日時 平成元年 3月26日(火) ~ 28日

場所 森賀厚生総合休暇センター

宿舎 青葉荘

3月26日(火) ～ 3月27日(水) ～ 3月28日(木)

6:00	朝食	朝食
7:00		
8:00	グランドへ移動	グランドへ移動
9:00	ストレッチ 中段コース8:00 入浴完9:30	ストレッチ ダンシング アジリティ ホームタックル
10:00	休憩20分	休憩20分
11:00	近江八幡10:30 新介和佐	新介和佐 昼食
12:00		
13:00	ストレッチ ダンシング アジリティ	ストレッチ ダンシング アジリティ
14:00	ホームタックル 新介和佐	ホームタックル 新介和佐
15:00	休憩20分 各パート練習	実戦練習と試合 (1:30)
16:00		試合終了 帰路準備
17:00	練習終了	夕食
18:00	風呂夕食	風呂夕食
19:00		入浴18:14 解散
20:00	ミーティング	ミーティング
21:00		
22:00	消灯 締め	消灯 締め



八日市高校と練習試合
豊中高 24 - 8 八日市高

— 放課後の練習はこんなぐあいにしています —

(1993年4月)



～50年を支えた方々の思い～

顧問だった先生から

50年を振り返って



齐藤 良二

(1949年から1963年まで顧問)

何気なく観に行った「第1回甲子園バウル」初めてアメリカンフットボールなるものを観て、興味を持ちました。同じ年、文部省の体育指導者講習会(講師:三隅珠一氏・故人)でタッチフットボールを学びました。難しい競技だなと思いました。

当時、豊中中学ではピーター・岡田氏の指導によって、上田(健夫)顧問のもと草創期の方々がタッチフットボールに汗をながしておられるることは耳にしていましたが、実際に観たことはありませんでした。

1948年でしたか、勤務校でタッチフットボール部をつくることになり、生徒数名を連れて豊中の練習を観に行きました。残念ながら、その後その学校を退職してしまって、実を結びませんでした。

1949年、縁あって母校豊中高校に勤めることになりました。誰が何を云ったのか、何處でどうなったのか全然思い出しませんが、タッチフットボール部の顧問を引き受けっていました。馬場先生から「あっちこっち手を出すなよ」と叱られた?ことだけは覚えています。

当時加盟校は豊中、池田、浪速の3校だけで、大阪高校体育連盟では最小の団体でした。その

後関大一、泉尾工の2校が加盟して、やっと5校になりました。

三隅先生が教育委員会に入られたので、その後が私に回ってきました。大阪、近畿そして全国大会、小さな組織ですけれど、それなりに仕事をせねばなりません。要項だのプログラムなどを作るのに、「鉄筆持ってガリ版で、原紙を切って手刷り」なんて、若い人たちには分かるでしょうか。会場の準備など部員の諸君には随分助けてもらいました。

近畿大会では「優勝の感激を多くの学校に…」ということで、1953年には2ブロック制、54・55年には3ブロック制を行ないました。また同点の試合の勝敗を決めるのにジャンケンや抽選ではなく、距離判定という方法を採用しました。延長戦として各チームそれぞれ4回の攻撃をして、進んだ距離の多い方を勝ちとするものです。ちょうど豊中高校が、彦根で行なわれた近畿大会に遠征したとき、3試合のうち2試合を距離判定で勝ち、ブロック優勝しています。この方法は前記の年でなくなりました。

審判が大変でした。三隅先生を中心に、各校のOBに出てもらいましたが、多くて3名、ときには2人でしたこともあり、服装もバラバラ、赤い布に石ころやパチンコの玉を包んでペナルティフラッグにしていました。

第1回の全国大会。役所、会場、宿舎、関東のチームなどとの連絡、プログラムやポスター作り、三隅先生の後について走り回りました。ピーター・岡田氏からトロフィーの寄贈があるというので、花屋敷のお宅へ頂きに行ったら「どうぞ靴のまま上がって下さい」とふかふかの絨

毯の上に土足で、室内には赤々と燃えているストーブ。違った世界に来たようでした。

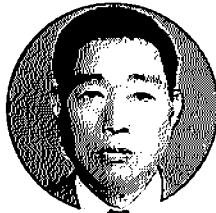
1963年、隣に出来た箕面高校に転任。クラブをつくった時には、豊高の現役の諸君に一から手ほどきをしてもらい、随分助けて頂きました。早くから話の出ていたアメリカン・フットボールへの移行も、指導者、費用、負傷などの問題を乗り越えて、1970年に決定、その後加盟校も増えて、現在では組織も審判も見違えるほど立派になりました。正に隔世の感ありといったところです。

豊中高校がタッチフットボールを始めてから50年、草創期の先輩をはじめ数多くの後輩たちの努力、顧問の諸先生方のご苦労が多くの名選手を産み、また運営面でも活躍頑っています。

ピーター・岡田氏が、北摂の畑に蒔かれた種が立派に育ち、立派な花を咲かせています。今後この花が日本中に広がることを祈っています。

(もと関西高校タッチフットボール連盟理事長)

アメフトとの出会いで 充実した豊高教員時代



今 安 達 也

(1962年から1973年まで顧問)

豊中高校に赴任して間もなくタッチフットボール部の顧問を引き受けことになった。もちろんルールなどは全然知らない全くの素人だったが、選手たちは非常に熱心だったし、実技に

ついては先輩たちが部員と一緒にになって指導してくれていた。したがって、私どもは練習の合間や試合の前に生徒に声をかけたり、中間テストや学期末試験の前日などに激励すること、また予算の獲得、校長や教頭への報告など、部員と一緒にになってクラブ活動がスムーズに運営出来るようあれこれと気配りをすることが主な役目だった。

1年後に山形(泰正)先生が赴任して来られ、よいコンビでそれ以後一緒にお世話をすることになった。

71年4月からアメフトに切り替わることになったが、切り替えについては学校や父兄などの関係者に説明して何とか了解してもらったり、高価な防具をどうやって揃えたらよいのかなど、期限は決められているし、連盟がそこまで面倒をしてくれる訳でもないので、随分苦労した。このあたりについては山形先生が一番気を遣つておられたのではないか。結果的には部員が手分けして先輩たちのところを回って中古品を中心に少しづつ揃えてきたが、よくやったものだと思う。

一番気を使ったのは怪我だった。アメフトに切り替わって防具をつけるようになってからは、小さな怪我は減っていたが、それでも危うく致命傷になる怪我もあった。タックルの練習中に脳内出血の事故が起きた。そのときは救急車で市立病院に運んだが、帰りかけていた脳外科の医師を駅前で呼び止めて急きよ手術をお願いしたり、輸血のために夜遅くまで部員に待機してもらうなど、本当に大変だった。徹夜で付き添った翌日の夕方、私が仮眠中に見舞いに来てくれた校長先生が差し入れた折り詰めが置いてあった。一時はご両親も随分と心配されたこともあったが、幸い一命を取りとめてその後大学にも進学し、いまでは立派な社会人として活躍

しているのが何よりであろう。

11年間の豊中高校勤務の後はずっと教育委員会の勤務が続いた。その後は今でも教育関係の仕事に携わっているが、私にとって豊高時代は唯一の高校教員として充実したときだったし、その中心は何といってもアメフトとの出会いだった。そして私の今日があるのは、先輩や一緒に苦労した皆さんのお陰と感謝している。

(武庫川女子大学教授)

思い出の数々—教員人生の中で かけがえのないもの



長瀬 尚

(1975年から1985年まで顧問)

豊中高校にお世話になったのは1975年からのことですが、たまたま空席だったフットボール部顧問の席を誰かが埋めなければならないということで、関わさせていただくことになりました。挨拶に来たのが29期の矢野君、礼儀正しくさわやかな印象が今でも鮮明です。

さてどんな生徒たちかと早速グラウンドに出てみたとき、何も知らない新米顧問を気遣って防具やルールのことをあれこれと説明してくれたのは、29期の大倉君や南君たちでした。その内容については理解は出来ませんでしたが、顧問を受けたことを喜んでくれている気持ちはよく伝わってきました。

もともと事故の多いスポーツですが、初年度は

とくに多く、校内的一部から高等学校の部活動として如何なものか、との指摘が出たこともありました。そのため、当時コーチをして下さっていた坂口さん(22期)や西山さん(26期)には、ずいぶんご苦労をかけたことだと思います。私なりにも、事故をなくすには、どこにも当たり負けしないよう強くなるしかないと考え、素人顧問である自分にどんな役割が果たせるのか心を碎き、先生方の理解を求めました。練習時間は生徒が要求するだけ保障し、その時間は極力学校を離れないことと、練習試合の便宜を出来るだけはかること、平凡ではありますがこの2点は常に心がけたように思います。

さいわいコーチ諸氏のご尽力、とくに卒業と同時にコーチになった藤井君(28期)の自主性を伸ばす指導で、チームは急速に強くなりました。体力に恵まれず、どこよりも小柄だった30期のチームが大阪で優勝したときは、学校中から驚かれたものです。

優勝は10年間で4回でしたが、実力的にはどの期もそれほど差がなかったように思います。その一例として、優勝出来なかったチームからも29期の矢野、上田、南、小宮、滝沢の諸君、34期の富田君、35期の太田、栗村、藤井の諸君、37期の幸田、細見、片岡、船木、丸茂、藤井の諸君、38期の小武、山田、南、の諸君など、関西学生リーグで活躍した卒業生が多数出ていますし、だからといってこれらの諸君が現役当時、とくに傑出していたわけでもありません。

優勝出来たチームは個性的で気が強いメンバーが多く、そのことが結果につながったようです。しかし、それだけにキャプテンは大変でした。とくに30期の郡君と36期の岩澤君、あの個性派集団をまとめた力量は並ではありません。同時に当時のやんちゃ連中が現在30代になり、どんな顔をして社会の中堅や良きパパになっているのか、

そっと見てみたい気もします。

30期は小柄ながらもスピードで他を圧します。31期は攻守、キッキングともバランス良く完成されたチームで、それぞれ接戦を競り勝っての優勝でした。33期と36期は運動能力の高い選手が多く、府下では危なげなく勝ち進み、関学高校とも互角に戦っています。とくに36期は炎天下に連戦という悪条件と選手層の薄さから、試合終了直前にスタミナ切れで逆転を喫したものの、内容的には関学高校を圧倒していました。その悔しさも今は良い思い出ですが…。

私の教員生活もすでに第4Qです。振り返ってみて、あの頃は私の教員人生のなかの暖かい陽だまりのようなものに思えます。フットボールに真摯に打ち込む青春との関わりを通じて、共感や発見を数多く経験できたことは、私の教師人生の中でかけがえのないもの一つです。

(大阪府立吹田高等学校定時制教頭)

怪我には気をつかった



森 真一

(1984年から1992年まで顧問)

初めての教員生活、1984年3月に豊中高校への赴任がきまり、石田校長に挨拶に行った。いろいろな話の中で「クラブ活動の顧問をやってほしい」ということが出た。そのころの私はアメフトの経験はなかったが、ときどき試合を観に行ったり、テレビを観たりして、いささか興味を抱いて

いた。校長からどこのクラブがいいかと尋ねられ、それならアメフトを…ということになった。

当時は長瀬(尚)先生が顧問をしておられたが、複数の顧問が必要だということで私のほかにも細川(英美)・齊藤(正俊)先生も一緒に顧問としてアメフト部の世話をすることになった。

1年後に長瀬先生が転出されると、年が一番若かった私が中心になってお世話をすることになった。当時アメフトの経験のない顧問がいたのは、豊中高校ぐらいだったと思うが、それなりに部員の間では自主性が生まれ、部員とコーチが中心になって熱心に頑張っていた。コーチにはト藏君(36期)がよく来てくれていた。

1986年の4月になって荒木先生が赴任してもらった。やっと豊中高校にもアメフトの経験者を顧問に迎えることになった。私も一緒に顧問を続けていた。ほとんどの試合には付き添っていった。

一番気をつかったのは怪我だった。小さな怪我はつきものとはいうものの、出来るだけ防ぎたいものである。豊中高校在職中に脳内出血を伴なう怪我が2度あった。どちらも夏休みの練習中だった。見た目にはそれ程ハードなコンタクトではなかったようだが、まだ経験の浅い1年生には、体当たりを繰り返すうちに意識が薄れてきたという。すぐに救急車を呼んで入院手術ということになったが、幸いにも大事にいたらず、その後は回復して元気になってほんとうに良かったと思う。

豊中高校のアメフトとは転出するまでの8年間つきあったが、いまでもアメフトそのものには大いに興味があり、ビッグゲームの観戦は欠かしていない。豊中高校の卒業生が活躍しているのを観ていると頼もしい。

(大阪府立少路高等学校教諭)

OBの皆さんから

酒井君と一緒に喜びたかった



湯 浅 一 也
(中21期)

先ずこの度は50周年おめでとうございます。一口に50年といっても、早いような遅いような…。17歳の美少年が70に手のとどく年になったのですから…。

この寄稿を依頼されたとき本当に困り果てました。何しろ文章を書くことは、小学生の作文ぐらいしか記憶にないのでですから…。しかし、これも最古参の宿命と諦めて筆を執った次第です。

昭和20年8月に終戦になり、海軍に在籍していた私は9月末に大分県佐伯から焼け野原の大坂へ復員して参りました。そして豊中中学の4年生に復帰しました。これが私とアメフトとの運命的な出会いになったのです。といいますのは、当時の復員学生には特別に旧制の高等学校・専門学校に受験することができたのですが、私は見事に不合格でした。もし私がいすれかに入学していたら、アメフトとも出会いていなかつたと思います。そして、親友だった酒井君をはじめ多くの友人や後輩に巡り合うこともなかつたと思います。

昭和21年10月にピーター岡田氏が、豊中中学と池田中学に全国の中学校ではじめてのタッチフットボール(現在の高校アメフト)の礎を築いたのです。

当時は終戦直後の混乱期で、何もかも不足していました。ユニフォームといえば、野球のズボンの膝の部分や長袖のシャツの肩のところに綿を入れたのを着て、練習や試合をしていました。

現在の恵まれた社会ではちょっと想像もできないことでしょう。

いつのまにか高校タッチフットボールはアメフト

になりましたが、防具ひとつとってもとてもずいぶん改善されており、また何よりも選手諸君の体格が格段によくなっているのには、驚かされます。そして喜ばしいのは、日本ではじめてのプロ・フットボーラーが誕生したのをはじめ、多くの後輩諸君が大学選手として活躍していることです。

創部当時の練習や試合については、1年後輩で名選手だった徳永君が几帳面に日記に残しているのでそちらのほうにお任せすることにして、私は創部当時のキャプテンで豊中中学のアメフトをこよなく愛していた、今は亡き酒井君を偲んでみたいと思います。

当時5年生だった私たち中学21期(湯浅のみ)・22期生が試合をしたのは、昭和21年12月28日の池田中学との日本初のタッチフットボールの試合だけでした。それ以降は、進学を目指して酒井君と2人で受験勉強をしました。彼とは同じ同志社を受験しましたが、私は見事に不合格、1浪して1年遅れでやっと同志社に合格してからは3年間、酒井君と一緒に合宿、練習、試合、遠征などはもちろん、京都の巷を探訪することも欠かせませんでした。



故・酒井昭雄さん(右)と筆者

社会に出てからは、会社も違い、勤務地も離れていて会う機会も少なくなりましたが、酒井君は豊中中学のアメフトのことになると殊のほか熱心で、よく情報を知らせてくれといつてきました。そんな酒井君が病魔に襲われ、平成4年に帰らぬ人となりました。元気であれば、この50周年を一番喜んでくれたと思うと、残念で仕方がありません。

何かと取りとめのないことを書きましたが、酒井君のご冥福を祈り筆をおきます。

最後に豊中高校アメリカンフットボール部のまますますの発展を心から念じます。

創部50年に寄せて



重本 弘

(中22期)

本邦初のわが校のフットボール部が誕生して早や50年の歳月を経ました。ひとえに関係各位のご鞭撻の賜物です。また血と涙と汗を流した激しい運動を通じて、責任感と忍耐力の溢れる人間を幾多世の中に送り、厚く友情を育み、先輩と後輩が固い絆に結ばれて今日に至っていることは、わがフットボール部関係者のひとしく誇りとするところです。各位の栄光を讃えるとともに、これから伝統と歴史を継承してくれる後輩諸君には一層の奮起を望んでやみません。

駄文であるが、ここで一昔のことと思い起こしてみた。

昭和20年8月15日は太平洋戦争が終結、見上げる空に米軍の艦載機グラマンの編隊が伊丹飛行場(旧日本陸軍航空隊の基地)の周辺を悠々と雄飛している。「そうだ!!もう機銃掃射はない。日本は戦争に負けたのだ」誰もそう思ったに違いない。その日の午後、自分は学徒動員で勤労奉仕に出向いていた枚方陸軍造兵廠(現在の枚方団地一帯)から無事に帰ってきた。わが家の前で大きな深呼吸をしたあと、しばらく呆然と佇んでいた。(中学4年生のときに現在の玉井町3に居住)

その時いっどんに呟いた。

國破れて山河有り一か!?

- これから一体何をしたらよいのか。
- うまい物をたらふく食べたい。
- 空襲はもうないだろう、夜ゆっくりと寝たい。
- 蓄音機でレコードを静かに聴きたい……など素朴な願望を。

学校に行ってもこれぞという教科書もなく、軍

国主義から自由民主主義に急転した体制であるから勉強はおろか戦時の教科である柔道、剣道、銃剣術は廃止されながらも、それに取って代わる明るいスポーツらしいものも復活してなかった。

食糧事情もなかなか好転せず、血氣盛んな青年の自分たちは、将しく虚脱状態に陥っていたといえる。そうした状態の中でも、体育の馬場先生のお家芸ハンドボール部だけが唯一復活し、全校挙げての声援と連戦連勝の好成績に、豊中健児の意気は盛んであった。

かれこれ戦後1年経ってから、占領軍のピーター・オカダさんが、わが校を訪ねてこられたのである。それは公立の豊中中学校に、本邦初のタッチフットボールの導入を目的としたものであったそうだ。昨日の敵は今日の友というが、奇妙なこともあるものだと、ひととき思った。

そういううちに、校庭に変な楕円形の球のキャッチボールの姿が見えた。それはラグビー様の少し小さな茶色の鋭い球だった。手に把ってよくよく見るとツツツツ肌の表皮、チョコレート色の鮮やかなマーク、臍のようなバルブつき空気注入口等など、これだけでも豊かそうなアメリカ、行き詰まっていた日本との差をさまざまと見せつけられた思いをした。同級生の酒井昭雄君(故人)が「いっちようタッチフットボールで暴れてみないかー」のひと声で単純に入部したように思う。ポジションをガードで引き受けたが、栄養不足で貧弱な身体のため、とにかく根性でやるしかなかった。当時の自分の体格は次のカッコ内の数字だが、いまの現役諸君のレベルはどんなものでしょうか。

「昭和21年度 大阪府立豊中中学校 通信簿」から

男生徒年齢別體格標準表

年 齢	15	16	17	18	19
身長(cm)	(154.1)	(156.6)	(157.3)		
	154.4	154.4	160.2	161.3	161.7
體重(kg)	(47.4)	(50.0)	(53.0)		
	45.8	46.7	52.0	53.6	54.3
胸圍(cm)	(75.2)		(79.0)		
	76.0	76.7	80.3	81.6	82.3

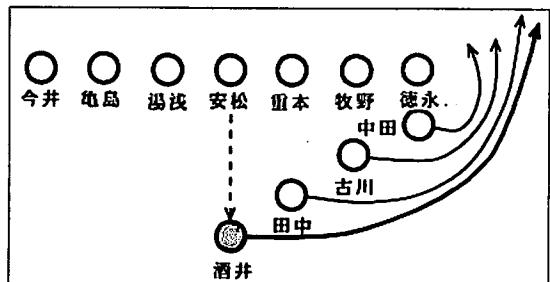
タッチフットの導入があつてからまだ日も浅かったある時、その年の暮れに池田中学校と本邦初の試合をやるぞ…との伝達がキャプテンからあつたので、みんな敵懶心を煽ったものである。さて初試合に備えてのユニフォームは、揃いでなく

銘々の手づくりそのものであった。コーチから、とにかく体当たりのゲームだから骨が碎けないように、見てくれはどうでも良いから要所々々にクッションを充分につけて身を守れるようにと注意があったので、中には悲愴な顔をするものもいた。

自分は古ズボン、古シャツ、古靴を縫って重点的に強固にしていたら手間が余計にかかって、試合当日に仕上がるころには、東の空もしらじらと夜が明けていたのである。家の者は手伝ってくれないというよりも、常日ごろ家の者には悲愴感で話をしていたから、勝手に用意しなければ自分の身がもたないという羽目になってしまっていたのである。

部活動は卒業までの極めて短い期間であったが、上級プレーヤーになるためのいろいろな心得やコツを拾得できたことが、何よりの幸せであった。今昔の感一入である。

筆を置く前にピーター・オカダさんに深く感謝し、併せてご一家のますますのご繁栄をご多幸をお祈り申し上げます。



1946年12月28日初試合のスターティングメンバー
[資料提供：湯浅一也さん・徳永義雄さん] 第1QにFB酒井選手
が負傷退場し、徳永選手がFBに替わる。

「フートボール、遊びませんか」



徳永義雄
(中23期)

それは今から丁度50年前の昭和21年(1946年)10月1日のことでした。ひとりのG I(アメリカ軍の

兵隊さん)がジープでやってきました。ピーター岡田さん、その人でした。体育の馬場先生(ウンチ)の指示で、各組から数名ずつが狩り出されて運動場に集まりました。「さあ、みなさん、フートボール遊びましょう!」のひと言で始まったはじめてのフートボール。まさかこの楕円形のボールがボクのそれからの人生を決定づけるものになろうとは、夢想だにしませんでした。それはまさに人ととの出会いのすばらしさがありました。

ここでひとつ、日本人とアメリカ人とのスポーツに対する根本的な見方の違いを、ボクなりに分析してみることにします。日本人はフットボールをする、野球をすると言います。アメリカ人は PLAY FOOTBALL, PLAY BASEBALLと言います。日系二世のピーターさんは、このPLAYを直訳して「遊びましょう」と言ったのだと思います。ピアノもバイオリンもPLAYです。英語の本当の深い意味は分かりませんが、PLAYから何となく楽しい雰囲気が感じられませんか。ボクは日本人。それ以後、高校・大学でフットボールをしましたが、とうとうPLAYしたという感じを持つことはできませんでした。今の現役諸君はどうに感じているのでしょうかね。

4年前、偶然のチャンスから46年ぶりでピーターさんと邂逅。それから2年後に後輩諸君5名と海外合宿ということで、シアトル郊外にあるレイクワシントン高校の夏期練習に参加する機会にも恵まれました。合宿を終えて、バスで陸路カナダとの国境を越え、バンクーバーのモーテルに一泊。生徒諸君とひと部屋に集まってピザとコーラでささやかな打ち上げパーティを持ちました。

自分で申し上げるのも恥ずかしいのですが、ボクとしては珍しくキザな発言をさせてもらいました。「この度の合宿は、キット君たちの人生にエポックメイキングな体験になったと思います。そして、その輪の中に徳永という古い、年寄りのOBがいたことを何かの機会に想い出してくれよなあ」。その時のボクの頭の中には、50年前、16歳になったばかりの少年の前にピーターさんが現れたという歴史が重なっていたのかも知れません。

最後にボクの好きなことばをひとつ。

「他人の人生に影響を与えない人生など意味がない」。ジャッキー・ロビンソン

QBだったと言って尊敬された(?)



安 松 克 治

(中24期)

50年と言われて、今更ながら自分の年を思い知らされる。豊中中学でタッチフットボールを始めた頃の、グランド、部室、練習後の夕焼け空、試合の数々など本当に昨日のように思い出す。

終戦後、軍隊の学校から中学2年生に復帰して陸上競技部に所属していた。長距離はだめでも、短距離は結構速かった。もう一つ気が乗らずにいるときに、ピーター岡田氏が現れた。終戦直後の若者にとっては眩しいGI姿で、すごくカッコ良かった。新しいスポーツなので、これなら上級生もみんな条件は同じ、しごかれることも無かろうと、よからぬ考えで入部して、はまってしまった。始めたのは皆同じでも、やはり上級生は先輩、結構権威はあった。酒井さん、徳永さん、近藤さん、本田さんなど(顔は思い出せるが名前が思い出せない多くの先輩には失礼)そうそうたる先輩がおられた。

池田中学との日本最初のタッチフットボールのゲームという歴史的な場に名を連ねている。3年だったので、勿論スターティングメンバーではなかったが、試合開始早々センターの先輩が打撲、鼻血を出して退場。センターが出来た私は、代わりに出ろと言われ、鼻血を出して倒れている先輩を見てふるえていたことを思い出す。試合の直前にピーター岡田氏に「実力はどちらも同じ、大声を出して相手を咎かせ」と言われて、試合中ワーウーと大声を出しながらプレーしたことを思い出す。岡田氏は池田中学のコーチもされていたはず。豊中側に岡田氏が就かれたことと、われわれの実力?で歴史的な第1戦は勝っている。

社会に出てからカルフォルニア大学に留学したり、海外の仕事が結構多く、アメリカでは会食やパーティの席で話題が無くなるとフットボールの話をしても時間を稼いだ。クォーターバックをやっていたと言えば結構尊敬された(?)と本人は今で

も思っている。

お陰で早い時期からテレビでフットボールが楽しめた。母校の京都大学が強くなつたので、阪神タイガースの夏よりも冬のテレビが楽しい。豊中高校も50年も前の神代の時代に始めた先輩が、高校フットボールも楽しめるよう、更に強いチームになることを期待して応援したい。

私とフットボールー生活の中の大きな存在



津 田 隆 治

(高2期)

私たちの世代を含めてスポーツに慣れ親しむ過程といえば、物ごころのついた頃からの三角ベースボールやドッジボールに代表される諸々の子供のスポーツに始まり、次いで上級学校に進むとともに初めて身近に接するいわゆる大人のスポーツの数々に対して、ルールの理解、関心の度合いに応じて個々人の能力、好み、流行あるいはそのときのクラブの強さやまた勧誘などがあって、それぞれの道を選ぶのが一般的であろう。最近ではTVを始めとする各種のメディアの普及のせいでの傾向は少し早まったとはいえ、基本的には変わらないのではなかろうか。

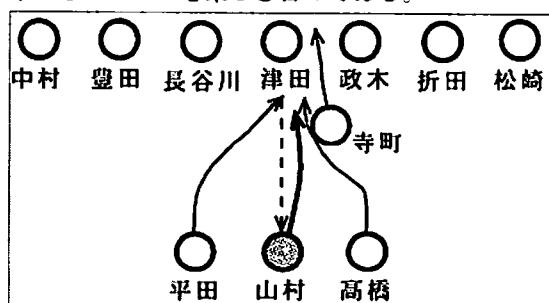
しかし、私にとってフットボールとの出会いは、上述のような経緯を全く経ないで或る日突然に目の前に現れた類のものであった。すなわち中学3年生であった昭和21年10月1日、ジープに乗って通訳をつけた米軍人2名が来校した。その中の一人は、われわれと顔かたちが全く同じ東洋系アメリカ人であった。(当然だろう、ピーター・オカダ氏は生粋の日系二世であった)。

彼らが説明、解説したフットボールは、私にとって従来のスポーツの概念である動きと流れを主体とするものとは全く異質のもので、今でいうセットプレー主体のスポーツであり、自分なりに野

球とラグビーを重ね併せて理解しようとしていた記憶が、おぼろげながらあった。

どのような形で応募したかは定かでないが、何か運動をと思っていた矢先でもあり、生来の好奇心と英会話の機会があるのでは、との下ごころがあったのかも知れない。しかし上級生を含めて數十人もの中にあっては、そのような機会がある筈もなく、それでも身体が求めていたのか、すぐにこの新しいスポーツのルールを理解し、直白に取りつかれてボールを追い、フォーメーションらしきものに没頭して練習に明け暮れたのであった。

それ以来高校、大学時代のクラブ生活を経て半世紀、二人のアメリカ人によって動機づけられたフットボールは、私の生活の中で大きな存在となるに至っている。今では魅せられたようにシーズンを通して高校、大学の試合を観戦し、家では家族に嫌われながら毎晩のように放映されるBS-TV のアメリカNFLリーグ戦に一喜一憂して、遂には嵩じて毎年のようにお目当てのチームのYear Bookを入手して選手個人のプロフィールを読んでは一人で悦にいり、自称NFL通をもって任ずる始末。そして毎年「今年こそ本場のプロフットボールを現地で観戦」と思いながら未だに果たせないでいる昨今であり、一方わが国で花開いたフットボールに、たとえ僅かでも直接関わった自分の青春時代をオーバーラップさせながら、創部当時のOBたちと折りにふれ酒を汲み交わしては後輩たちのプレーを楽しむ日々である。



1949年ごろの「センター・パンチ」(高2期) [資料提供: 政木武さん]

「チャメ、お前やれ、苦しゅない」 —OB会組織づくりの頃—



中西 寛治

(高2期)

豊中高校アメリカンフットボール部OB会では、組織づくりをやる結果となった。現役時代に大した活躍をしなかった者が、伝統と人材を誇るOB会の骨組づくりをやったのだから、世の中不可思議なものである。

その昔、時々到着する案内ハガキで、OB会の会合や試合見物に出掛けた。当時、16期の森里君が現役の面倒を見てくれていたが、ハガキは結構頻繁に来ていた。

長瀬先生が顧問のとき、正式な組織づくりをやってほしいとの話が出た。もう、その頃は森里君がダイハツヂーゼルからヤマハ発動機に転じて、浜松に去っていた。

その後を、28期の藤井君が京大の授業の合間に使って担当してくれていた。思うに、授業を相当サボってやってくれたらしく、長瀬先生は藤井君を大いに頼りにしておられた。長瀬先生は遠慮しながら、しかし熱心に「藤井君を助けてやってほしい」と話される。

組織づくりや運営では、私自身、すでに若干の経験があった。全日本自動車連盟(昭和27年)、同関西OB会(昭和34年)、神戸大学自動車部OB会である。

しかし、如何せん「アメリカン」では主力メンバーだったことはない。遠慮するのが道理と云うものである。

豊高アメリカンを代表する創立メンバーには、酒井さん(故人)、湯浅さん、重本さんや徳永さん等々、恐れ多い方が沢山おられる。特に我々の近い年代では、徳永さんが絶対的な存在であった。これらの方々にOB会づくりをやって頂くのが肝要である。

そこで、準備をしてから大物の承認を取ることとした。加えて、9期の加納君が準備に加わってから、作業は軌道に乗った。彼の勤務先の栗本鉄工は、当時の私の事務所・JAF関西本部から100メートルと近く、何かと便利であった。

必要なときには私の事務所に来てもらうし、それ以上に、口実をもうけてはメシを楽しんだらしい。

お陰様で、多くの熱心なメンバーでOB会の準備は完了した。若干の後ろメタさは、会則を神大自動車部OB会のものをそっくり利用したこと。しかし、内容の強化は岡った。

OB会発足の報告会は、徳永さんの肝入りで三国の「養老の瀧」で開催された。すべては旨くいったが、ただひとつ一番重要な「会長」を徳永さんに引き受けて頂けなかった。隣りに座っていた政木君の顔を見て「チャメ、お前やれ、苦しゅない。」には、正直いって参った。

しかし、豊中高校アメリカンフットボール部OB会は相当良い組織に成長した。嬉しい限りである。

母校の中庭の石碑が語る歴史の重み



道之前 由志一
(高4期)

ピーター・オカダという米軍二世の将校が、タッチフットボールをこの豊中高校の校庭へ初めて伝えてくれたのは、終戦の翌年1946年10月1日のことで、世の中にはまだ戦争の傷跡が色濃く残留していたころである。

私はその年の春、旧制最後の中学生として豊中中学に入学していた。その秋の出来事である。私には大きな目玉が印象的だった4年生(当時)の徳永義雄さんから「お前、メリカン(注:決して誤植ではありません。その頃“ア”を省略して“メリカン”とも称していました….)に入らんか」と精悍な声で呼び掛けられた。今でもその光景を覚え

ている。

当時のことは奇しくも徳永さんが日記に残しておられた。そこにはピーター・オカダが我が豊中中学にやって来た様子が、ユーモアをまじえて事細かに記されている。戦後間もないあの頃の日本の少年が米国人に接しているその気持ちが、余さず語り綴ってある。

長い間私は、唯ピーター・オカダ氏の来校のことと徳永さんのプレーのこと、それに黒に染めた手製のユニフォームのことなど、これらを部員生活の象徴とばかりに感じてきたのであった。豊中高校へ初めてこの球技が伝わったという歴史の重みを身には感じていたものの、さりとて殊更に言挙げもせず、静かに心に宿しながら学生時代を通してききたことを今振り返っている。

一時途絶えていた消息が判明してピーター・オカダ氏が、豊中・池田両校OBの招きで来日されたのは40数年経った1992年6月だった。当時の米軍青年将校だった同氏が蒔いた一粒の種が、こんなに大きく育っていたのには、ご本人もびっくりし、殊のほか感激されていた。このことがきっかけとなって、それから2年後には豊中・池田両校選手10名が、オカダ氏の娘さんが勤めるレークワシントン高校を訪問して合同練習に参加することにもなったが、このときオカダ氏から改めてメッセージも届けられた。また昨年7月には来日した同校チームとの親善試合も行なった。

こうして私たちはレークワシントン高校との一連の交流も実現を見た。3年前の同校への訪問にはじまり、昨年の来日は、徳永さんのピーター・オカダ氏に捧げる熱烈な気持ちと一途な努力に負うところが大きい。

私たちは創部50周年の記念行事の一端として、このピーター・オカダ氏から届いたメッセージをいつまでも残しておきたいと思った。私たちはこの言葉を刻したささやかな石碑を母校の中庭に建立することが出来た。同時に徳永さんの日記帳も永久に保存されるように特製のケースに入れて第1回甲子園バウルでの勝利の橋とともに大切に納めることが出来た。

今こうして50年が経ち、ピーターを語り、徳永さんに憧れ、黒いユニフォームを部員生活の象徴として懷き続けてきた私の心象現象が、心の中

で尚も生き続けている。あのピーターの言葉が石碑として建てられ、若き日の徳永さんの日記帳が大切に保存箱に納まり、レークワシントン高校との交流が実現した。往時を彩る心象が奇しくも姿を現して、目の前に顕化したのだと云う思いに駆られて来る。50年の歳月はここに見事に結実し、輝く結晶となって私たちの手元へと託されて来たのだ。

「輝け！豊高アメリカンフットボール」

私はこのすべてを語る石碑のもとへ、豊高の中庭へ、時には一人で立ち寄ってみたい。出会いの不思議、結実の輝き、これはピーターさんにとっても、徳永さんや私たちと同様の思いだろう。

総会を支えた故・上村先輩のボランティア

神内重明

(高5期)

旧豊中中学・現豊中高校の卒業生で組織されている豊陵会、この総会に出席された方は経験されていることでしょう。



神内重明さん(故・上村登さんの遺志に支えられた豊陵会総会で)

総会では前年度の事業報告、新年度の事業計画の発表、決算・予算案の報告、承認事項などの公式行事が終了した後、母校の図書館や食堂を利用して、期別の同窓会やクラブ活動グループ同士で、ビールや料理を手にして、旧交をあたためる賑やかな集まりや催しが恒例となっています。そしてこの歓談にふさわしい雰囲気をつくるために、部屋の周囲には紅白の幕が張られ、テーブルには白いテーブルクロスが掛けられています。

豊陵会総会の開催日は、母校の創立記念日である5月13日前後、通常は5月の第3日曜日が慣例となっています。この総会の前日には故・上村

登先輩が代表取締役を勤めておられた株式会社加納から大勢の人が来られて紅白の幕張り、テーブルクロス掛けの作業をされます。

また総会や懇談会が終わった後の夕刻には、今度は大勢の人がトラックで撤収作業に来られます。これらの作業はいずれも(株)加納殿の奉仕なのです。

縁あって小生が豊陵会のお手伝いをさせていたいたとき、上村先輩は「神内、お前が豊陵会活動に奉仕している間は手伝うけれど、学校やお前との縁がなかったらこれだけ懸かるのだぞ」といって、ある数字を話していただきました。もちろん豊陵会の乏しい財政事情では(株)加納殿へそれだけのお金を支払える筈がありません。

毎年、総会の時期になって、故・上村登先輩に「ことしの総会は5月何日の日曜日に決まりました。よろしくお願ひします。」と電話をすると「わかった」の一言だけが返って来ました。

不幸にも日航機123便の事故で先輩が急逝された後、豊陵会としても奉仕をお願いするのが心苦しく、おそるおそる(株)加納殿に尋ねてみたところ「故人の意志です。事情の許す限り奉仕させていただきます」との返事、まったく頭が下がるだけでした。

去年も(株)加納殿にはお礼だけでした。豊陵会はこうした先輩に恵まれて育てられているのです。私自身、豊陵会のお手伝いは任期を終えさせていただきましたが、上村先輩のご遺志はいまも豊陵会総会を支えて下さっています。

みなさんと共にお礼を述べさせていただきます。本当に有難うございます。 合掌

豊中三中にもチームがあった



政木清

(高6期)

終戦後の学制改革で出来たのが6・3・3制、そこ

で新設の豊中三中へ2期生として入った。豊中三中は新設直後、暫く豊中高校の校舎の一部に間借りしていた時があり、その時に豊高生のバックアップでタッチフットボールのチームが出来ていた。

家のなかで“先のとがったボール”や洗濯してあったユニフォーム(柔道着を改造したもの)などを身近に目に見て、豊高が池高に勝った第1回の甲子園バウルや関西大学が明治大学に勝った第2回の甲子園バウル～当時は甲子園バウルと言うていた～を観にいったりしていた私は、いつしか近所の同級生と一緒に豊中三中のチームに参加していた。現在の南桜塚小学校が三中の新しい校舎だった。

三中を卒業して幸いにも“ストレート”で豊高に入れた。豊高志望の最大要因はもちろんフットボール・チームがあったからであり、それから3年間病み付きになったのは当然のことである。もっともそのころの豊高は、創部当時の勢いがやや下火になりかけていて、メンバーもようやくチームの編成が出来るぐらいしか集まらなくなりつつあったころで、戦績はあまり芳しくなかった。

月日が経つと自分に都合の悪いことはだんだん記憶が薄れてゆくようだが、試合でよくレフリー



豈中三中にもタッチフットボールのチームがあった“駒換”
(1951年1月に花園運動場で行われた「大阪バウル」のポスターから)
をやっていただいていた故・三隅珠一先生(池田
高校～学芸大～府教委)や顧問としてご指導いた
だいた斎藤良二先生に対し、知ったかぶりのルー
ルで屁理屈をこね、しばしば強硬な文句をいって

困らせていたことなどは、今にして思えばまさに「汗顏の至り」である。

3年生の後半になるとそろそろ進学が気になるところだが、江村先輩(高5期)は卒業前の1月まで試合に出ていても現役で京都大に合格したぞ…という大先輩の甘言?にまどわされ、自分なりの解釈でそれを見習ったら見事に浪人となつた。

“豊中高校4年生”(当時豊高にあった浪人生のために設けられていたコース。現在の予備校のようなもので正式には「豊中高校補習科」と呼んでいた)を終えたあと、ようやく進学した立命館大学では、またもや病が重くなり、いまだにパンサーズのOB会に足を突っ込んだままでいる。

昨年還暦を迎えて、気持ちを新たに「フットボール馬鹿」「パンサーズ馬鹿」に徹するつもりになっている……。

アメフトとの長いつきあい



山本泰男
(高7期)

私がこの後長く付き合ってゆくことになるアメリカンフット(タッチフット)にはじめて出会ったのは、小学校のころ。当時通っていた桜井谷小学校で豊中中学タッチフット部による講習会が開かれ、それを見て「格好いいスポーツだなあ」と強く引かれた。

また当時の映画館で上映されていた外国からのニュース映画には、シーズンになるとアメリカのフットボールがよく出てきた。独走やロングパスによるタッチダウンのシーンを観て、ますますこのスポーツをやってみたくなった。

そんな私は豊中高校に入学すると、足が自然にタッチフットの練習へと向かっていった。入部した当座は井出さんら、そうそうたる先輩が3年生にたくさんおられて活気があった。ところがその3年生が春のシーズンが終わって退部してしまう

と寂しくなり、残ったのは2年生の政木(清)さんら3~4名、1年生は私を含めて3名。部員難で練習も満足に出来ない状態で、得点力に乏しく、成績も全く振るわなかつた。

そんな中で一番嬉しかったのは、当時3ブロック制だった近畿大会でブロック優勝したことだ。私が3年生のときで、この年は2年生に炭田君ら有望な下級生が揃つていて、ようやくチームが整備されていた。私たち3年生も一旦退部したものの、一念発起してチームに復帰したわけだった。

とはいものの、実は、彦根市で行なわれたこの大会のことは、優勝したこと以外はすっかり忘れていた。この「50年史」がらみで、政木(武)先輩から大会では2日間に3試合を行ない、最初の2試合はいずれも0-0で距離による判定勝ち。決勝戦でようやく13-0で星陵高校を下して優勝したことを聞いて、当時久しぶりに挙げた得点に大喜びをしたことを思い出した次第である。確かに、このタッチダウンはQBの炭田君からEの上林君へのパスによるものではなかったか。3年生はとくにディフェンスで頑張ったように記憶している。

高校を終えて進学した大阪市大にはまだアメフトのチームはなかった。市大にチームが出来たのは私が卒業した後のことだったので、今から思えばもう少し遅く生まれていたらよかったと悔やんだこと也有った。しかし幸いにも就職した読売テレビでは、スポーツを担当することになり、何とかアメフトの企画をと狙っていたところ、やがて昭和50年代にはいって訪れた追い風に乗って、念願のアメフトのイベントや番組を実現することができた。

現在読売テレビでは、関西学生アメフトを年に3~4本を中継しており「アメフトは読売テレビ」のイメージが定着している。私は10数年前にアメフトの担当から離れ、仕事での付き合いはなくなったが、それ以降は日曜日ごとの「アメフト観戦」で関わってきた。そしてこの関係がこれからもずっと続いてゆくことと思う。

近畿大会初優勝



上林 和夫
(高8期)

あれは確か私が桜井谷小学校の5年生(昭和23年)の夏だった。当時の豊中中学(旧制)でタッチ・フットボールをやっていた小学校の先輩の岸上さん(高3期・故人)の口利きだったと思うが、豊中中学のフットボール部のメンバーが数人来られ、桜井谷小学校の野球チームを集めてタッチ・フット普及のための一講習会を開いたことがあった。当時の小学生のスポーツと言えば男子は少年野球が全盛で、女子はドッジボールしか無かったように思う。その時は股の間からボールを投げる変わった球技ぐらいの記憶しか残っていないが、5年後(昭和28年)に豊高に入ってタッチ・フットを始めたのもその時の記憶が伏線になっていたのだろうか。

豊高時代で一番記憶に残っている試合は、高2(昭和29年)の夏の彦根での近畿大会で、チームにとっても国鉄(JR)に乗り、一泊するという初めての遠征試合であった。その大会は3部制で、第1部のわれわれは1回戦で彦根東高と対戦したが、両チームとも攻め切れず、無得点で“距離による判定”ということになった。双方とも4回ずつの攻撃を行なった結果は、豊高がボールひとつの差で判定勝ちとなつた。(スコアは1-0)

同じ日の午後に行なわれた2回戦でも同じ地元の愛知川高校と対戦した。結果はまたもや0-0。第一試合と同様“距離による判定”となつた。前の試合の判定が“ボールの差”だったこともあって審判団が慎重に見守るなかで今回は両チームともロス、結局1ヤードだけロスの少なかつた豊高が又しても判定勝ち(1-0)で翌日の3回戦にのぞむことになった。

当時20代半ばのまるで友達のようだった顧問の斎藤先生と共に一晩を楽しく過ごしたわれわれは、翌日大はりきりで3回戦の星陵高校と対戦、

今度はオフェンスも好調で13—0と快勝し、この年3部制となっていた近畿大会の第1部で全勝した豊高は、第2部の関西学院高、第3部の浪速高とともに優勝となった。

その後何日かしてから決勝リーグということでお戦した関西学院高には、夕暮れの関学グラウンドで対戦し、相手の暗闇の術に翻弄され大敗した。またその年の暮れの冬休みに藤井寺で行なわれた第1回全国大会でも1回戦で長浜西高校に負けたが、近畿大会の優勝は当時の新聞にも大きく載り、われわれにとって思い出の多い「近畿大会初優勝」だった。

大男に全力でぶつかり、 鼻血を出してベンチへ



小澤 悠一
(高9期)

昭和32年に豊中高校を卒業してから早や40年近く経ち、おぼろげながら記憶をたどりつつ、タッチフットボール部の思い出を書き綴って見ました。40年前は安全性、用具の価格などの観点からタックルなしのタッチフットボールで、ハッドなどは母親の手製でした。

当時の豊高の戦績は最悪の時でも大阪府大会で「第3位」…、もっとも大会には池田、浪速と豊中の3校しか参加していないのが実情でした。近畿大会では関西学院が圧倒的に強く、毎年連勝記録を更新していました。

高2の時、最初の対関学戦にタイトエンドで出場し、第1Qに相手の6尺近い大男に全力でぶつかった結果ポンとはねかえされ、鼻血が出て交替させられたのを、今でもはっきり覚えています。いつも送られてくる「えんどぞーん」で現在の豊高の実力が17校中3・4位なのを見ると、格段の進歩がある様に思われます。

さて、当地(米国東海岸のフィラデルフィア近

郊に在住)に来てからもう34年、9月のはじめからは土曜日は大学(NCAA)、日・月曜日はプロフェッショナル・リーグと来年1月終わりのスーパー・ボウルまでフットボール漬けのシーズンが始まります。もっともプレシーズン・ゲームは8月から始まっています。8月8日に地元フィラデルフィア・イーグルズがニューヨーク・ジェッツを30対16で破りました。

大学のリーグは、新聞記者の投票で先シーズンに引き続きネブラスカ大学が第1位にランクされ、地元のペン・ステートは第8位になっています。プロ・リーグの方は新しいチームの参画もあり、順位予想はむずかしい様ですが、ダラス・カウボーイズ、サンフランシスコ49ers、カンサスシティ・チーフスなどが下馬評にあがっている様です。

創部50周年記念を海の彼方から祝福するとともに、皆さまのご活躍とご健闘を祈っております。

(1996年9月記)

ネジ式のスパイク・シューズに びっくり



木村 陽吉
(高10期)

先輩にはいろいろとお世話になった。私にフットボールの情熱を植え付けてくださった江村高志さん(高5期)、コーチをしてくださった政木清さん(高6期)そして大先輩の徳永義雄さんのお宅にはお邪魔してフットボールの話を聴き、先輩が使っておられた防具一式を頂いた。そのなかのひとつだったネジ式のスパイク・シューズは、私にとってはじめて目にしたものだった。残念ながら私にはサイズが合わなかった。先輩から「これでタッチダウンを挙げろ」と激励され、一緒に行なった中西君はそれを達成した。

私とフットボールとの出会いは、同級生の恵君が声をかけてくれて、いつとはなしに一緒に練習

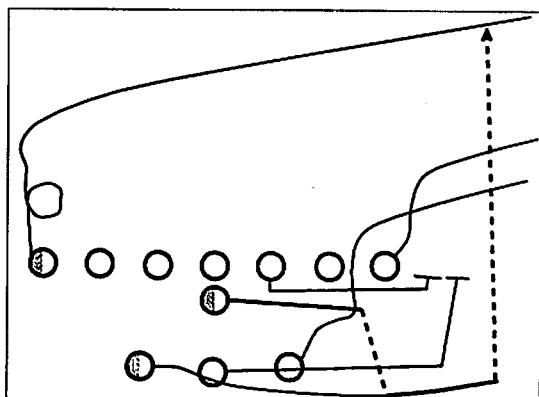
を始めていた。メンバーは、常にどうにか試合が出来る状態だった。入れ替わり立ち替わり多数の応援出場があり、3年生の春には大阪大会で優勝したことあったし、翌年の1月には全国大会にも出場している。結果は1回戦で東京の聖学院高校に敗れた。

自宅が豊中高校の近くなので、卒業後もよく練習を見に行った。

40歳になって、身体の鍛え直しをしようとおもって早朝トレーニングをしていた時期、顧問の先生とお会いする機会があり、ぜひ合宿に顔を出してくださいといわれて、ついその気になって自分も一緒に朝のランニングをやろうと思って学校へ行き、校門で用務員さんに教えられた部屋へ大声で「起きろ」と声をかけながら2、3人のふとんをめくり上げたところ、全く雰囲気が違う。よく見るとビールびん、ウィスキーびんも散乱している。

その部屋で寝ていたのは研修会の後10人程度でござ寝していた先生たち…。平あやまりにあやまって退散し、顧問の先生には後でお詫びをしたこともあった。

私にとってフットボールは、多数の良い人たちと出会いをつくってくれた場であり、後輩たちの活動を通じて私に青春を送り込んでくれています。



1957年ごろの「Normal T一発ねらいのバス」(高10期)

[資料提供：中西芳弘さん・木村昭吉さん]

雪の藤井寺球技場



小 畑 節 三
(高11期)

3年生の木村先輩が、翌年の卒業を控えて下級生が少なく、部員の獲得に躍起になっていたところで、野球部や陸上部など他の部からも選手を引き抜いてきたりしていた。タッチフットボール部だけでなく、どの部も苦労していることは雰囲気として分かっていた。私は、庄内中学同期の金山君に誘われた。かれは、いま一等航海士として商船を操縦して世界の海原を駆けめぐっている。

QBの谷浩輔君を中心に、早速活動がはじまった。最初の日だったか、木村さんたちの指示で50メートルをみんなで走った。私は6秒6だったので、左のエンドになった。練習ではパスがよく決ましたが、試合では全くだめだった。

その年の末に、市立西宮高校と対戦したことが忘れないのは、いま豊中市の市会議員の岡本君が脳しんとうで倒れて、しばらくゲームが中断したからだし、この0-0の引き分けが最高で、この後われわれは試合に勝った記憶がないからだ。

その朝、母が庄内の駅まで送ってくれた。2年生の正月の6日、第4回全国大会に出場するための阪急電車の始発だった。電車が来るまでの間、雪の間の中で踏み切りの信号がバーミリオン色で鳴っていた。私は藤井寺はもちろん、難波の向こうは知らないかった。私にすれば大変な遠征だった。しかし、ほかの連中もだいたいそんな程度だった。

この日のために紺のユニフォームを新調してもらったが、スパイクシューズはみんな満足に揃っておらず、ほとんどの選手は普通の運動ぐつだった。別にわれわれだけが貧しかったわけではなく、世間みんなが貧しかった時代の最後の名残だったと思う。

1回戦の対戦相手は、東京からやってきた強豪の聖学院高校だった。最初から気持ちで負けてい

たのかも知れない。われわれよりも大柄で、そして全員がきれいな白いスパイクシューズを履いているではないか！一つはこれが試合の明暗を分けることになった。試合会場の藤井寺球技場は、グラウンド一面に前日からの雪が残っていた。

われわれは、凍りついた雪のグラウンドに足を取られて思うように動けず、結局0—25で負けてしまった。しかし、いま振り返ってみると、よくこのスコアでおさまったものだと思う。

私のフットボール歴はたった1年余りのことだったが、何の因縁か、いまだに縁がきれずに同期のメンバーとはいまでも年に1・2度会うし、私も暇をみつけては母校の後輩の試合を追い掛けている。戦績での盛衰はあるものの、名門豊中高校の存在を誇示してください。がんばってください。

先輩の大学チームの 合宿練習に参加



小早川 強
(高12期)

豊中高校に入学したときには、ラグビーをやりたかった。「ラグビー部」の表札が掛かっていた部室に行ってみたが、誰もいない。聞いてみると数年まえに潰れたという。それなら同じような楕円形をしたボールのタッチ・フットでも…ということで練習に参加するようになった。

当時は3年生だけで1チーム出来ていて木村先輩らを中心によくがんばっていたようだ。私が始めたころは、同級生は川田君ら2~3名だったが、木村先輩らはもっと連れてくるようしきりにいわっていた。私も何人か勧誘してメンバーを増やしていく。

2年生になったときには新しい1年生を勧誘した。3年生も一緒になってみんなで一所懸命に誘ったが、何故かこの年の新入生は1人も入ってこなかった。この1年間は3年生と私たち2年生だ

けでがんばった。

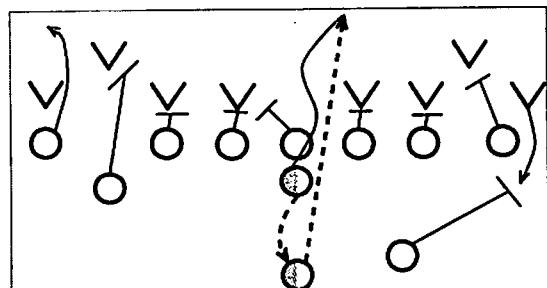
翌年3月に3年生が卒業してしまうと私たちの同期は8名しかいなかった。まさにピンチである。われわれは文字どおり必死になって新入生を勧誘した。ようやく新しい1年生からひとりふたりと練習に参加してくる者が出てきてどうやら10数人が増え、私たちはほっと一息をついた。

木村先輩にはよく鍛えられた。3年生の夏休みには当時甲南大学に進学していた木村・中西先輩らのお世話を甲南大学チームの合宿に参加したこともある。大学のほうはアメフト、こちらはタッチフットだったが、先輩たちはよく面倒をみてくれた。

これに刺激されたわけでもなかつたが、防具をつけたアメフトの格好よさが一層目について、先輩たちにお願いして集めた寄付で中古の防具を5セット購入し、交替でアメフトの感覚を体験した。

そのころ毎年冬休みに行なわれていた全国大会には、3年連続で出場した。このなかで一番記憶に残っているのは、3年生の12月の大会(第6回)である。前の年の1月に1年生で初めて出た第4回大会もグラウンドに残った雪に足を取られて動けなかつたが、この年の大会でも、同じ藤井寺球技場でみぞれ混じりの雨の中で泥だらけになって試合をした。対戦相手は都立西高、われわれに比べると試合運びが実にスマートでチームプレーが旨く、フットボールとはこんなものかと感心させられた覚えが残っている。試合は結局0—12で完敗した。

1年浪人して大学に進学してからも、豊中高校にはときどき練習を見に行った。いつの間にか就職して大阪を離れるまで5年間続いていた。



1959年ごろの「Delayed Pass」(高12期)

[資料提供：小早川 強さん]

自分たちは「中興の祖」だと 思っていた



渡邊 宏紀
(高14期)

私自身は中学が関西学院だったので中学からタッチフットボールをやっており、甲子園バーウルの前座試合に主将として出場し、長浜南中学に勝って優勝橋をもらったこともある。

工学系に進学したくて豊中高校に入ったが、上級生が練習しているのを見て血が騒ぎ、入学早々入部してしまった。1週間ぐらいしてから島君が入部したいとも言わず「ユニフォームはないか」と練習に入ってきたので、けったいな奴やというのが最初の印象だった。

当時、小早川(強)さんら3年生だけではメンバーが足らず、2年生もひとりもいなかったので、新入生が部員集めを仰せつかった。地元中学出身の吉田君が声をかけた仲間を中心に、稲田、小室、塙田、山森君などが日ごろから真面目に練習に参加していた。

私は、中学時代の延長で最初からHBで試合に出場し、勉強のストレス解消にゲームを楽しんでいたので、勝ち負けの印象は殆ど残っていない。

2年生になってからも、1年生の部員が一人もおらず、日ごろはあまり練習に出てくれない同級生の部員をかり集めて試合に臨むことあった。それでも同級生故に仲間意識が強く、春の大坂大会では決勝戦で浪速高校に敗れたとはいえ、2位で近畿大会に出場した。会場は私にも思い出の深い長浜で、高校生活ではじめての1泊遠征試合の1回戦の相手は関学高校だった。大半のメンバーが中学時代の先輩、後輩ばかりで、予想どおり徹底的にマークされた。当時無敵だった関学のパワーに挑戦することのむなしさを見せつけられているようで、一瞬の油断を捉えた完璧なブロックに、半身不随になったかとの思いをこらえているうちに、11人で闘った試合は0-34の完敗だった。

その年の秋にも頑張って藤井寺での全国大会(第7回)に出たが、この時には初戦で進学校として有名な東京都立西高校と対戦した。進学校だからとの予想に反して非常にスマートなフットボールをされ、切れのいい試合運びに完敗であった。

3年生になってからは吉田君が狐軍奮闘で、メンバーも新1年生の森里君や小早川(哲)君など豊中のフットボール史上何度目?かの黄金時代につながる。

高14期生2年生の1年間は充実したフットボール生活をおくることができたと自負しており、その後の黄金期にいたる一時期として、私たちは「中興の祖」だったと当時思っていたが、いま振り返ると若さの故の思い上がりだったとしみじみ思う今日この頃です。

惨敗の後、相手校から 「1年生だけでよくやった」と褒められた



佐藤 寿春
(高16期)

私が豊中高校に入学したとき、姉が3年生だった。その姉の同級生(14期)だった有馬(俊輔)、吉田(浩治)、渡辺(宏紀)らの諸先輩に勧誘されてフットボールを始めるようになった。当時甲南大学の選手だった木村(陽吉)先輩がコーチに来てよく練習を指導して下さった。

練習をはじめて2カ月経った6月に、池田高校との定期戦があり、メンバーが足りなかったこともあって、新米の1年生も試合に出ることになった。ルールも充分に分からぬまま、無我夢中のうちに試合は終わっていて0-28で負けていた。

その年の11月に対戦した関西学院高等部にも0-74で大敗したが、何故か先方から「1年生ばかりでよくやった」と褒められたのには、今にして思えば些か面はゆい気がする。実際このころは

もう3年生は出て来ないからわれわれ1年生が11人ぎりぎりで試合に臨んでいたのである。

2年生になったときに顧問の齊藤先生から1年生を勧誘するようにいわれた。少々ハメをはずすような生徒でも、放っておいたらろくなことはないからフットボール部に入れて鍛えようという先生の意向のようだった。キャプテンに指名された私は、積極的に勧誘して回った。津田(勇信)君、岸田(正俊)君、伊敷(健二郎)君らが入ってきた。威勢のよい津田君や岸田君らの影響を受けて(?)われわれの仲間にも元気あふれるものが出て来て、ときにはグラウンドでの試合以外で相手校と対戦したこともあった。

メンバーが増えるにつれてチームの力も少しずつついてきた。当時は少し頑張れば全国大会に出場できた。2年生の12月には藤井寺で都立西高校と対戦した。そんなに強いチームとは思わなかったが第3Qまで6—8とリードされていた。第4Qになって西高のエンドゾーン近くに攻め込んだわれわれは、當時得意とした短距離用のベリーーパスを3度試みたが、残念ながら3回とも相手のディフェンスにカットされて得点に結び付かず、そのまま押し切られて敗れたが、あの試合は勝っていたのに…という気持ちは今でも残っている。

2年生のときに女子のマネージャーを頼もうという話になった。頼みにゆくのはキャプテンの役目だということになって、当時の人気ナンバーワンだった安部さん(現・安居堯子さん)はじめのマネージャーになってもらった。結果的に人気の高い女生徒がマネージャーになったことで、その次の年からマネージャーの希望者が次々に出てくるようになったということである。

豊高フットボールとの付き合い



森里光生
(高16期)

出会い—2年生がいないからきつい練習は

ないぞ…

豊中の教会で育った私は、幼いときからアメリカンフットボールの話は聞いていた。この教会に関西学院の中高生が来ていたからであった。豊高に入学したとき、入部したいと思っていたが、何かのきっかけで入ることになった。

この時、2年生はいなかったから「きつい練習はないぞ」と云って当時の主将・佐藤寿春君は、必死に集め回って12人余りの部員が集まつた。みんな初心者、入部即試合という者も何人かいたようである。とくに5月の大阪府大会は惨めだった(このときには3年生の先輩が何人か来て教えて下さったことを、かすかに覚えている)。ルールも何もわからず試合に出るのだから1年生のときは連戦連敗、ほとんど無得点だったようと思う。でも、夏の合宿には木村陽吉先輩(甲南大学OB)が来て下さり、初めて本式の練習に出会つた。また秋には小早川強先輩が試合や練習に顔を出して下さって指導をいただいたお陰で、何とか秋には試合が出来るようになった。

2年生になるとみんな多少自信もつき、そこそこに強くなったようである。この2年間の中で思い出に残る試合は、何といっても藤井寺球場で行なわれた全国大会である。相手は東京の都立西高、有名な進学校とのことだった。「頭でも試合でも負けたらあかんぞ…」と主将の佐藤君のハッパがかかったが、残念ながら6対8で負けた。あと1ヤードまで攻め込みながらタッチダウンを奪えなかつた悔しさは、いまでも心の中に生きている。

コーチとして—関学高のコーチが築く念願
のバスチーム完成

1年浪人して大学に入学できた。同時にコーチをやって出た。当時の現役にとってはさぞかし迷惑なことだっただろう。せっかく楽しんでやっているのに、でしゃ張ってやって来て…。しかし、当方は「木村さんや小早川さんが来てくれたお陰で何とかなったのだ」との思いで、押しかけて行った。コーチ1年目はさんざんたる思いをした。このときの2年生にはすまない思いでいっぱいである。

当時関西学院フットボール部の監督だった米田さんのところに行って、コーチ術の勉強をしたこともあった。そのときに言われたのが「伝統は壊

れるのは早いが、作り上げるのは一歩一歩である」「やる気のある者だけを集めなさい」であり、それ以後これを実行したつもりである。

幸いにも次の学年には梶山、志村、山田、衣笠など優秀な人材が多くいた。少々きつい練習でも耐えてくれたし、集合時間の30分前には集まって練習し、終わってからもまだ練習を続けていた。その練習もお互いに競争心むき出しだった。とくに主将の梶山君は、練習の鬼と呼ばれていたのではないか。

このときには志村君の突っ込みと山田君のシャープさを生かしたいと考え、8ディフェンスを書いて、かなり成功した。この1年下には東元君、向田君、玉田君、高橋君たちが揃い、猛練習の伝統が受け継がれていった(この学年はラインが強かった)。このころから毎年優秀な人材が集まりだして、豊高の実力は大阪ではそこそこのレベルになってきた。そして大学に進んでもフットボールを続ける者も増えてきた。また当時同志社大学でフットボールをやっていた伊敷君も手伝ってくれた。彼には主に作戦面や技術的なことをお願いして、出来るだけ2人3脚でやるようにした。

このころ大先輩の古川さんや徳永さんと話が出来る機会を与えられた。とくに徳永さんには「これからQBは長身でないとあかん」とアドバイスを頂き、次の学年では背が高い粉川君をQBにして西崎・岸田君をエンドにもってきた。これは成功した。このQBを活かすために、ショットガンも採用し、試合でもほとんどパス攻撃だけにした。そのお陰で念願のバスチームが出来た。このチームが関西学院高を破ったのである。このとき豊高のバスの練習を観ていた関西学院のコーチは、そのタイミングの良さにびっくりしていたようである。

OBとして—良き思い出と伝統を作ってくれた先輩や後輩の方々に感謝

今は静岡の磐田に居を構え、なかなか豊高的フットボールを訪ねる機会がなくなった。しかし、豊高的フットボールの思い出は生き続けているし、あの当時、付き合って下さった先輩や後輩の方々に本当に感謝したい。「良き思い出を作ってくれて」「よき豊高的伝統を作ってくれて」…。

豊高フットボールと私— とんでもないプレゼントを頂戴した



伊敷 健二郎
(高17期)

昭和37年4月、私は豊中第二中学校から豊中高校へ進学した。中学時代バレーボール部を途中退部し、生物クラブしか知らなかった私は、豊高へ入学したら必ず何かの運動クラブに加入しようと決心していた。順番にクラブを覗いていたら最後にタッチフットボール部という、見たことも聞いたこともないクラブが残っていた。そのシーンは今でも忘れない。放課後ボーッとして友人とタッチの練習をみていたら、一人の上級生がつかつかと歩み寄ってきて、格闘形のボールを手渡して投げてみろ、といった。その人は多分主将の佐藤さんだったろうと思う。私の投げたボールがたまたま奇麗に回転して飛んだことが、タッチ入部の動機であった。

思えばそれから35年間、フットボールから縁の切れない関係になっている。辞めようと思ったことは何回もあったが、その都度良き先輩、良き後輩に支えられてここまでやってこれたことは、たいへん幸運であった。

豊中高校での3年間は、まさにタッチフットボールの3年間であった。佐藤、森里、中島、竹内、谷津、大西、小早川、金子、市橋、八木ABさんらが先輩にいて、竹崎、杉浦、喜多、藤田、岸本、岸田、荒木、大原、小林、若林、加藤、津田、広野らが同級生にいた。下級生は少なく、吉野、奥田、藤巻、岡本の4名しか部員がいなかった。

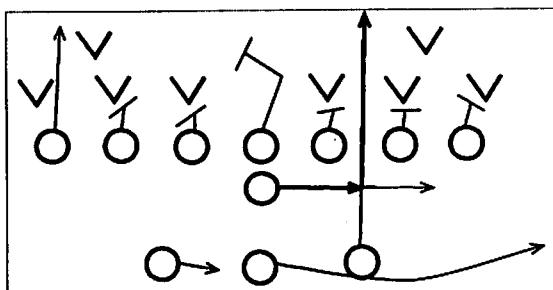
私からタッチフットボールを引けば、あとは惨憺たる成績が残るのみであった。私に、何回もクラブを辞めなさいと迫った担任の荒木先生の厳しい顔が思い浮かんでくる。先生には本当に申し訳なく思っているが、辞めなくてよかったと心の底から思っている。私は豊中高校の校歌が大好きで今でも口ずさむことがある。「質実剛健」「協同進

取」等など、北原白秋の歌詞がいい。ずっと後になってから柳川の北原白秋記念館を見学した折りに、陳列ケースの中に豊中中学・高等学校の校歌を発見したときの喜びは、忘れることがない。成績もダメ、音楽の嫌いな私が、唯一担任の荒木先生に恩返しできるとしたら、このことぐらいだろうか。

斎藤良二先生はその後も長く長くお世話になる先生である。今安先生、山形先生、糸井先生、渡辺先生も忘れることのできないクラブ顧問の先生方である。梅本先生はサッカー部の顧問であったが、できの悪い私とタッチフットボール部を応援して下さった先生であった。斎藤先生や梅本先生とは今でもお会いする機会がある。このような恩師の先生方、先輩、同級生、後輩に支えられて、私は何とか3年間辞めることもなくクラブ活動を続けることができた。

私が尊敬する大先輩、徳永義雄氏が口癖のようにおっしゃる言葉がある。「フットボールが私を変えた」「フットボールとの出会いがなければ今の私はない」。大先輩の偉業の前には、ただただ小さくなるばかりであるが、私はフットボールから何かとんでもないプレゼントを頂戴したように思っている。その後コーチとして森里さんを応援した時期があるが、忘れられない多くの後輩の顔が浮かんでくる。豊高50周年に寄せて、すべての豊高フットボール関係者に心から有難うといいたい。50年は次の100年へのステップである。これからも豊中高校からフットボールを愛する人たちが育ってくれることを願っている。

皆さん、本当に有難うございました。



1964年ごろの「Normal T HB Dive 43」(高17期)

[資料提供：伊敷健二郎さん]

タッチフットボールの時代— 「殴られたら殴り返せ」



井 上 康 二
(高19期)

私は東京オリンピックの年1964年に豊高に入學し、タッチフットボール部に入った。入学時、豊高にも柄の悪そうな上級生がいるなあと思っていたら、入部してみるとその人たちはみんなフットボール部の部員だった。

このころは、アメリカンフットボールではなくタッチフットボールだった。もともと米軍の援助でアメリカンフットボール部が創設されたが、その援助がなくなると防具などを買うことが出来なくなってしまった。当時、防具一式1人当たり3万円掛かった。年間のクラブ予算が4万円ほどで、ボール代ぐらいにしかならなかった。3万円という金額は、とても親に援助を頼める額ではなかった。仕方がないので、ヘルメット無しでショルダーとヒップは布切れで母親に作ってもらってフットボールを続けていたわけである。危ないので、タックルの代わりにタッチでボールがストップするというルールになっていた。アメリカンをしたくても、金がないのが現実であった。しかもアメリカでは女子学生のためにタッチフットボールが考案されたと聞いて、みんな内心鬱積したものであった。

そういうせいかも知れないが、入部した時に最初に上級生の人たちから教えられたことは「殴られたら殴り返せ」ということだった。これがだんだんエスカレートして、「殴られたら…」という条件が無視されて実践されるようになり、そのため東京オリンピックの年の春の大会は出場停止になったし、運悪く退学処分になった先輩もおられた。

戦後の絶対平和主義教育が普及した中にあって、暴力を肯定し牙を剥き出しにして闘う風潮は、新入部員の私にとっては新鮮な驚きであり、3年間どっぷりとその中に浸った。

戦前、よく村の青年団同志が集団で取っ組み合いの喧嘩をして、怪我人が出たりすることはざらにあったそうで、男を育成するのにはそれも悪いことではないと認知されていたそうであるが、当時のタッチフトボール部は正にそれであったと思う。

フランスのレイモン・アロンという哲学者が、フランスの学生運動や日本の全共闘を見て「若者に必要なものは、貧困と戦争と偉大な哲学である」といっていたが、正論であると思う。金が無くてアメリカンができなかつたけれど、牙を剥き出して闘うことができ、偉大ではないかも知れないが、「殴られたら殴り返せ」という哲学があった。危なっかしかつたけれど、無我夢中の3年間でした。

41歳にして 後輩のいるチームと対戦



志村 安男
(高20期)

創部50周年おめでとうございます。私とフットボールの出会いは、今を去ること約30年前、中学時代にクラブ活動を半年ほどで辞めた経験を持っていた私は、今度こそはという思いと、こんな小さな体で大丈夫かなという思いが交錯していました。豊中高校へ入学早々、赤と白の派手なユニフォーム姿で新入部員を勧誘していた先輩の姿に「コレだ」という強烈な印象を覚え、入部することになりました(もっとも父兄と間違えられたのか、私には勧誘はありませんでしたが….)。

練習といえば、見た目の派手さとは違って、とにかく走って走って、当たって当たってという基本練習、反復練習が多く、とても厳しくてハードなものでした。

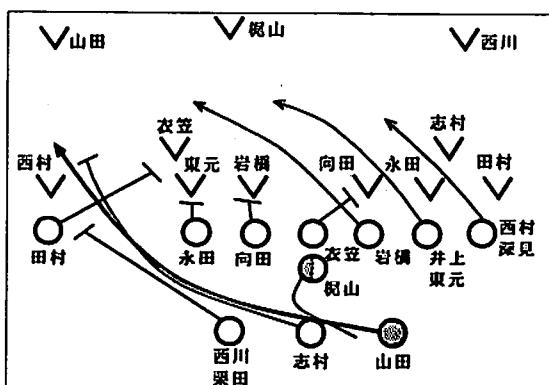
またこの頃には部員も増えてきて鍛えがいがあるのか、森里・伊敷両先輩をはじめとして、数多くの方々に、それこそ手取り足取り熱心に教えて

いただき、知らず知らずのうちに体力と技術が身についていきました。その結果チーム全体の実力もついてきて、府民大会での優勝、強豪関学高や市立西宮高との善戦という実績も出て、私自身も徐々に自信を深めていきました。

関学に進学の後、やろうかどうか迷っていたころ、京大に入学した同期の梶山君が即戦力として活躍している姿に大いに刺激を受け、関学大チームとしては約20年振りの豊高卒業生として入部、何とか4年間を全うすることが出来たのも、当時の練習と皆様のおかげだと思っています。その後は、東元、柴田、前谷、池内君らが続いてくれ、また現在では各地の大学で豊高ここにありと活躍する姿を見、聞きするにつれ、非常に喜んでおります。

またフットボールを通じて数多くの方々と面識ができ、いろいろな経験をさせていただきました。自主的な運営をさせていただいた顧問の先生、物心両面でお世話になった先輩、サポートしてくれた後輩、青春時代に引き戻してくれる良きライバルでもある同期の連中、ユタ州立大学とのレセッションと試合、会社にもチームが出来て41歳にして後輩の有吉君のいるチームと対戦したことなど、非常に楽しい思い出が次から次へと浮かんできます。

最後に、今後もOB会の活動を通じて、同じ夢、ボールを追い掛けた仲間として、末長くお付き合いしていただきたいと思っております。



1967年ごろの「Power 48」(高20期) [資料提供: 田村雅史さん]

降 雨 中 止



田 村 雅 史

(高20期)

創部50年おめでとうございます。

私は20期生として、昭和40年に入学しました。入学当時11~12名ぐらいがタッチフットボール部に入部したので、当時としては久々の大量入部だったと後から聞きました。もちろん現在ではこの人数ではとても充分とはいえないと思います。それでも、当時は全員をかき集めると、何とか2チーム分の人数となり、久しぶりに模擬試合ができるといって先輩が喜んでおられたのが印象に残っています。

入学したときの体重は50kg、何となくひょろひょろと背が高かったので、入学当初に確か井上さんだったと思いますが、声を掛けられたのを覚えています。しかしながら、高校に入って何かしようとは思っていたものの、フットボールなど想像もしていませんでした。いつ頃クラブの門を叩き、どのようにして入ったのか既に記憶はありませんが、初めて練習をしたときには既に何人か同級生がいましたので、入学早々ではなかったことだけは確かです。

入部してから初めての試合があるということで、どこに何時に集合…という連絡が先輩からありました。その日はちょうど日曜日で、朝起きてみると雨が降っていました。当時一般的なスポーツは野球か相撲といった時代ですから、そのときの私の判断基準は野球でした。「雨イコール中止」という固定概念から、中止なら行く必要はないと思手に判断してしまったのが、運の尽きでした。

楽しく日曜日を過ごして(?)翌日学校に行ってみると、早速先輩の井上さんの「なぜサボった?」と厳しい詰問が待っていました。1年坊主が何の連絡もなく試合場に来ないので、途中の事故の可能性だってありますし、大いに心配を掛けたことでしょう。日ごろの練習は何のためだ

ということもまだ理解していないレベルだったと思います。

答えには全く困ってしまいました。サボるつもりは全くなかったのです(と思います)。私が説明した理由を聞いた井上さんは、あまりにも想像を絶する答えにしばし啞然としておられたように思います。周りの同級生を見ても、誰一人私と同じ行動を取ったものはいなかったので、その当時でも全く信じがたい出来事だったかもしれません。

罰の100ヤードダッシュ。これが私に課せられました。当時背は高かったものの足は遅く、練習の最後にやる100ヤードダッシュではいつも最後まで残される方でしたから、それがいきなりと思うと暗澹たる気持ちになったのは、いうまでもありません。

いよいよその100ヤードが始まりましたが、なんと井上さんが横について始めから終わりまで併走しているではありませんか。当然むち打つように声が掛かるものと覚悟をしていた私は、最後まで私の横で私と同じ距離を走って下さった井上さんに、心の中では申し訳なく、また情けなく思ったものです。もちろん、それから後は試合に行かなかつたことは一度ありません。身をもって私に常識をトレーニングしていただき大変ありがとうございました。

社会人となって、ある時期には新入社員を迎える立場になったこともあります。時には彼らが私の予想を超えた行動をとって驚くことがあります。よく話を聞いてみると、それなりに理由があることがよく分かります。そんなことがあると、私は高校時代の失敗を今でもよく思い出します。

最後になりますが、練習以外でもいろいろ手を焼かせたやっかい者の私を、あきらめずによく導いてくださった諸先輩、いろいろカバーしてくれた同期の皆さん、偉そうなことを言ってご迷惑を掛けた後輩の皆さんに、この場を借りて改めてお礼を申し上げます。そして皆さまのますますのご健勝とロードランナーズの活躍を祈念いたします。

強烈な個性との出会い



東元春夫
(高21期)

中学時代には陸上競技をしていたので、高校ではチームスポーツそれもグランドで走りまわれる競技をしたいと考えていた。豊高入学時グランドで見ていたら、サッカーとタッチフットボールが目にとまった。勧誘もあったが、どういうわけか、その「異様さ」に引き付けられて入部を決意したように思える。

異様なのは集団の外見だけではなかった。1年上の先輩たちの1人ひとりが強烈な個性の持ち主であった。さらによくコーチに来られた森里さん(16期)と伊敷さん(17期)の個性は、さらに強烈なものであり、当時の現役一同に多大の影響力をもっていた。高校に入学したばかりの純真無垢な少年が、このような先輩諸兄から受ける影響は計り知れないものがあった。フットボールの知識はもちろん、ここには書けないようなワルいこともたくさん教わり、この時期にそれまでの人生観が大きく変わったようである。

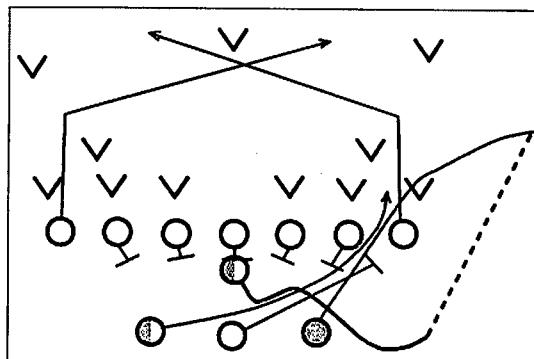
練習は常に10人以下だったが、不思議なことに試合になると人数が集まってきたし、そこそこ格好がついていたようだった。練習は走ることと当たることが中心であり、技術的な練習はあまりなかった。フットボールが少し分かってきたある時期、ディフェンスの練習はいつするのかと先輩に質問すると「アホか、そんなもん試合でするんや」という答えが返ってきたのを今でも覚えている。とは言え、洋書でフットボールを勉強するような風潮もあり、結構みんなでフットボールについて研究熱心だった。

当時はタッチフットボールの末期であり、1年下の斎藤君らが中心になってアメリカンの防具を集めていたようだ。ユニフォームこそ揃っていたが、練習用はすべて「手作り」だった。市販のトレパン・トレシャツを「改造」したもの、ショルダ

ー・パッドは母親の手づくり、シューズは曾根の「神戸屋」特製のラグビーシューズのようなものだった。当時のユニフォームは分厚いラグビーのような生地の赤(といえば色があせてピンクがかった)の長袖ジャージーで、首から袖にかけて白の線が入っていた。パンツは白だった。ミズノがタッチのショルダーや練習用ジャージーやパンツを作り出したのがこの時期で、同社の松浦さんらがよく試作品をもって豊高まで来られたのを思い出す。

また大学のフットボールチーム数が増加し始めた時期でもある。2年生の6月に創部間もない大阪大学とタッチフットボールの練習試合をした。試合は18-0で勝ったが、ひとりだけ並外れて強い選手がいた。後で聞くと日大OBの阿部氏(後のシルバースター監督)であった。このように大学のチーム数の増加に伴ない、豊高を卒業して大学でフットボールを続ける選手が毎年のように続くようになった。1年上では梶山(京大)、志村(関学)、岩橋(阪大)、同期では関学へ進学した私のほかに1年生の終わりに転校していった渡辺(早稲田)、1年下では岸田(京大)と続く(敬称略)。

現在は、審判としてまたルール委員として少しでも恩返しができればと細々と活動を続けていく。多くの良き先輩、ユニークな同輩、そしてすばらしい後輩に恵まれた現役時代を振り返り、ここに改めて感謝の意を表したい。



1968年ごろの「Normal T右ベリーパス」(高21期)
[資料提供: 東元春夫さん]

豊高タッチフットと 豊高アメリカンへの思い出



坂 口 昇

(高22期)

これは自慢話のようになりますが、私たちのチームはヘッドコーチをしていただいた伊敷さんのもと、QBには抜群のコントロールと遠投力を誇る粉川君、バックスには1期下の柴田君、仲谷君、ラインはキャプテンの斎藤君など、当時としては高校生ばなれした選手が揃い、攻守バランスのとれたチームでした。大阪府の春季大会の頃から、自分たちでも上達するのが判るほど各選手がその能力を發揮するようになり、(これには伊敷ヘッドコーチの教え方、またその戦略、戦術の巧みさが大いに貢献)一戦ごとに得点力を増し、1969年の近畿大会ではあれよあれよという間に勝ち進んで、決勝では宿敵関学高を大差で破って優勝してしまいました(これが本当の私の実感です)。

これでタッチフットボール部としては一つの頂点を極めたと3年生は自負していましたが、当時は他の高校が次々に、タッチフットよりはもっとかっこ良いアメリカンへ切り換えていましたので、私たちは何かやり残したことがあるような思いもしていました。それはきっと関学高がアメリカンをやっており、私たちがアメリカンでは関学高を倒していくなかったからかも知れません。また単純にアメリカンをやりたかっただけかも知れませんが、このままでは後輩もずっとタッチフットボールしかできないのでは、あるいは時世に乗り遅れるのでは、との危機感から、当時の3年生が中心となり、豊高もアメリカンフットボールに切り換えるよう学校側に働きかけました。タッチフットからアメリカンへの切り換えには、防具などの費用面のほかに、本当に高校生が体力的に大丈夫か、危険ではないのかなど、切り換えに疑問の声もありました。しかし、顧問の先生のご助力のもとに、クラブの名称だけはその年のうちに「ア

メリカンフットボール部」に変えることが、学校側から許可されました。結果的に我々高校22期が最後の「タッチフットボール部」の卒業生となりました。

しかし、一部の3年生はそれだけでは満足せず、当時のキャプテンの斎藤君を中心に我々はもうアメリカンは出来ないものの、せっかく「アメリカンフットボール部」になったのだから、名前だけでなく防具をそろえて本当に後輩にアメリカンをやらしてやろうと言うことになりました。当然3年生がその調達にあたることになりました。まずはコーチをして頂いていた同志社の伊敷さん、また京大の梶山さん、関学の東元さん、甲南の杉浦さんと、関西の大学の先輩に連絡して中古の防具を譲って頂けるかどうかを打診しました。

しかし、当時の関西の大学フットボール部はあまり資金的な余裕がないらしく、京大の梶山さんを訪ねたときには、ご自身が着用されているあまりにも立派に使い古された防具を見せて頂いた途端、防具をくださいなどとは到底言い出せず、そのまま帰ってきた始末です。関西の大学がだめなら東京の大学、あるいは米軍ならフットボールをやっているだろうと、持ち前の行動力を發揮して何の事前の調査もせずに、わざわざ座間の米軍基地まで行ったりしましたが、結局は杉浦さんから程度の良い防具を一式頂けただけで到底1チーム分は揃わず、実際に後輩がアメリカンをやるにはまだあと数年を待たなければなりませんでした。

私が卒業してから3年ほど経ったころ、当時まだ若手OBだった16期の森里さんや17期の杉浦さん、喜多さんたちが、豊高のOBチームを、それもアメリカンのチームを作ろうということになりました。実際は、自分たちもフットボールをしたいが、後輩がアメリカンに変わったばかりで防具も充分でないことを見て、森里さんたちが、当時いきの良い若手のOBにチームを作らせ、その防具を後輩に使わせてやろうとの心遣いだと思いますが、私は21期の栗田さん、22期の西崎君らとともに事務局の人間となり、森里さんの実家の教会を溜り場として、OBにチームへの参加あるいは体力的にもうフットボールを出来ない人はきっとお金があるだろうとの独自の理論から、寄付金をつくりました。その時はじめてOB会のよう

なものが出来たのではないかと思いますが、資金的に足りない分はOBチームの応援団をつくる名目で、豊中市の公民館でNFLのフィルムの上映会をやりました。フィルムは22期の斎藤君がただで手配し、会場は豊中市役所に勤めておられた竹内さんに無理を言って安くしてもらい、数万円を集めたりしたことありました。

こうして、何とか皆で苦労しながら、豊高ではじめてのアメリカンのOBチーム「キャノンボール」が出来上がりました。当時(1969年6月)の記録がもうありませんので、対戦成績を正確には思い出せませんが、練習の場所の確保もままならず、昔とった杵づかでは試合もうまくいくはずがなく、また試合だけではなく、練習すれば怪我人続出の状態だったと記憶しています。

私は1970年に豊高を卒業後も、自宅が豊高から5分程度のところにありましたので、1976年に就職の都合で東京に行くまで、コーチの真似ごとをさせて頂いたり、「キャノンボール」の関係で先輩や後輩の方々と親しくお付き合いをさせて頂きましたが、その後転勤が度重なり17期の杉浦さん、22期の岸田君、斎藤君以外とは一時疎

遠になってしまいました。6年前から東京に出てきているOBが集い、2年ほど前にも23期の柴田君のアレンジで「キャノンボール」で活躍された有馬さんをはじめ皆が集まって昔話に花を咲かせて楽しい時間を過ごす機会を得ました。昔を懐かしむ年齢になったのかと思う反面、今後とも機会があればこのような会に是非参加して、何らかの形で豊高フットボール部の繋がりを保っていけたら、また先輩・後輩を含めてもっと「輪」を広げられたらと考えております。

豊高フットボール 文明開化の日々



岸田 明義
(高22期)

昭和44年春は、豊中高校のタッチフットボール史の中で、ある種のターニングポイントといえる年ではないだろうか。

それは単に春季における「高校タッチフットボール近畿大会」での優勝、すなわち「関西学院高等部に対する初勝利」という点だけでなく、インサイドワークとコーチングにおいて近代フットボールの概念を取り入れ始めたことで、画期的な年であったといえることだと思う。この功績は、当時監督だった森里先輩、コーチの伊敷先輩とその大学の後輩である家門さんの尽力によるところが大であった。

今となっては、かなり昔の話になってしまいし、当時の監督、両コーチの活躍を知る人のほうが少なくなってしまったわけで、この「思い出」で豊高近代フットボール幕開けのすべてを言い表すことは困難と思われるが、思いつくままに書き記すこととする。

当時の3年生は合計7人、ポジションの構成はセンター(三木)、ガードが2人(斎藤、岩崎)、タックルが坂口、タイトエンドが2人(西崎、岸田)

日和 44年6月30日

豊中高校ア・フットボールOBクラブ 创設記念会御通知

昭和44年、日本の社会の發展層に当たる日本のピータ・オカゲ氏の指導の下に生れたタッチ・フットボールも、今年で4年の歴史を迎える事になりました。
同じ豊中のグラウンドで序と土に生まれた我々100余名のOB達がまだ一度も一日も会した経験にめぐまれず、既念に思います。
此の第一回開催の興奮によりやっとOBクラブ創立員会が出来まして、下記の如く創立員会と、監督員会とのスクリマーを行ひ度く、又一意に会いいろいろ取扱い一手を致し度く思います。
又の一事書い日ではありますが、何とぞ御見聞を聞きそい合せの上、出席下さいます御願い致しますと共に、御内申し上げます。

記

日 時 昭和44年7月20日(日)午前10時
場 所 豊中高校グラウンド及び食堂
行 事 講話及スクリマー(OB対象)
会 費 500円(食事代)

発起人一員

古川 武	中学 22回卒
鶴永 錠	〃 23 "
上村 登	高校 4 "
木村 駿	〃 10 "
小早川 功	〃 12 "
坂田 正	〃 14 "
森里 光生	〃 16 "
伊敷 健二郎	〃 17 "

□ □ 6月20日に在籍するタッチ・フットボール部員の大半がOBとして豊中高校にて日和の開催を予定いたしました。
豊中高校のOBの皆様が初めてお集まり頂ける事ではありますまい。既にとしての開催は初めてであり、OB達が初めての開催となる事ではありますまい。豊中高校のOB達が初めての開催となる事ではありますまい。

「OBクラブ」の結成を呼びかけた…(1969年6月)

とクォーターバック(粉川)であった。

運良く3年生で足りないポジションがバックフィールドの3人とラインが1人だけであったため、ラインは「穴を開けるから後輩走ってくれよ」との精神で上下級生との関係も良好で、チームワークは最高だったと思う。とにかく昼休みでも、当時あったコンクリートの観覧席に集まり、昨日の練習のことやその他の事務連絡の話をしたぐらい「虫」の集まりであった。森里先輩も豊高フットボールの虫であった。というより、我々が虫になったのは森里さんの影響が大きいように思われる。とにかく勤務先である浜松から練習、試合に駆け付けてくださったし、ご自宅でフットボールの講話も随分聞かせていただいた。

3年の春に話を戻そう。放課後の練習時間になると、伊敷先輩、家門コーチが現れて斎藤キャプテンと二言三言練習メニューの打ち合わせの後、練習開始となる。コーチングは完璧に分業化されており、伊敷先輩はオフェンスバックフィールドとディフェンスバック、家門コーチはフォーメーション(プロタイプのスプリットT)の徹底的な理解、ラインについていえばプレイごとのブロッキング方法、バックとのタイミング合わせであり、バックはパスディフェンスとパシングオフェンス、オプションなどを毎日欠かさず実施したことであろう。そして一番重要なことは、この練習方法を探れば強くなれるんだという信念を皆に浸透させ、信じさせたことだと思う。どんなすばらしいフォーメーションを持ってこようとも、選手が信じなければ活きてこないわけで、当時のわれわれには「やれそうだ」という予感もあったと思うし、このことが一試合、一試合証明されていったことが、チームを実力以上に強くしていった要因かもしれない。

練習も試合もやってて楽しい時代であった。筆者は、高校時代に統いて大学(京大ギャングスターズ)でもフットボール部に入部した。そこで体験したフットボールは、レベルこそ違うもののベースとなっている考え方はまさにあの日々に出会ったものであった。

われわれにとっても、そして豊高にとっても大きなプレゼントをいただいた森里先輩、伊敷先輩。ありがとうございました。

引退した上級生の助っ人で 棄権を免れる



柴田 尚

(高23期)

豊中三中のころに当時のNHKテレビでやっていた甲子園ボウルを観て「格好いいなあ」と思ったのが、今にして思えば豊中高校で「タッチフット」を始めるきっかけになったような気がします。先輩に勧められた気もしますが、すんなりと入部していたのは、そのせいかも知れません。

1年先輩には斎藤さん、岸田さん、粉川さんなどがおられ、厳しかったのを覚えています。

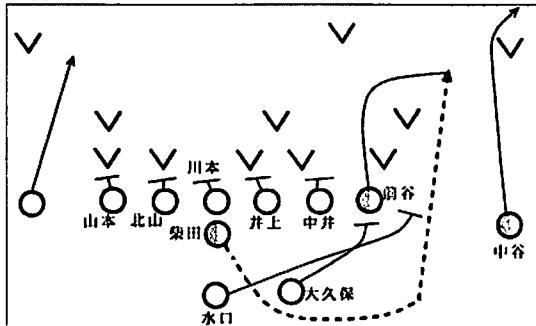
私が2年生の時、先輩たちの活躍で春の近畿大会に関西学院高を破って優勝した記憶が強烈です。後から聞いた話では、関学に勝ったのは初めてだということで、いささか面子はゆい気がします。

2年生の秋になると主力だった3年生が引退し、2年生と1年生で戦ってゆくことになりますが、当時2年生が8名、1年生3名の合計11名のぎりぎりで大阪大会を乗りきり、12月26日から始まる全国大会の切符をもぎ取りました。しかし11名で臨んだ試合の前日に負傷者が出て、このままでは試合が出来ないと慌てたことがありました。この時は斎藤さんに連絡して急きょ3年生に試合に出ていただいて事無きを得ました。試合の結果は強豪日大一高を相手に0—12の敗戦でしたが、よくやったものと思います。3年生も受験勉強の真っただ中で身体も動かしておらず、大変だっただろうと思います。いまでも感謝の念で一杯です。

さてフットボールとの縁はこれで終わらず、関西学院に合格すると直ぐに大先輩の徳永さんがわざわざ我が家に来られて熱心に勧誘されました。徳永大先輩にはその後も大学時代にいつも心を掛けさせていただき、関学高等部出身者が幅をきかす中で、いつも「豊中高校ここにありの氣概でやれ」

といって励ましていただきました。何とか大学フットボールについてゆけたのも先輩たちのおかげと感謝しています。

就職してからは転勤もあり、フットボールと縁が切れていきましたが、大阪での勤務のときには3年間ばかり豊中高校のフットボールのお手伝いもさせて頂きました。また今は岸田先輩と一緒に女子フットボールチームの「第一生命クラブレディコング」で、女性を相手にフットボールを楽しんでいます。



1970年ごろの「QB Roll out Run/Pass Option」(高23期)
【資料提供：柴田尚さん】

学園紛争おかげで「欠点」制度なくなり、卒業できた



前 谷 尚 男
(高24期)

高1の春、豊高は近畿大会で関学高等部に勝って優勝しました。中学のときにラグビーをしていたおかげで、私は入部してからまだ僅か2か月ほどしか経っていませんでしたが、この試合にディフェンスエンドとして出場出来ました。相手がパンチのとき、パントブロックのこぼれ球を、本当なら持って走ってタッチダウン出来たものを、ラグビーで言ういわゆる見事なセービングをして、せっかくのボールをデッドにしてしまったことか

ら、私のフットボールの思い出は始まります。

この年、全校的な学園紛争の火が豊高を襲い、校舎封鎖そして機動隊の導入といった事件があり、それに伴なう学校改革で「欠点」が廃止されました。私が3年で卒業できたのは、このおかげ?…

高2のときタッチからアメリカンへの移行を行ないました。当時の部費が特別加算で年間14万円、確かヘルメットとショルダーを3セットぐらい購入して遣い果たしたように思います。この頃は森里先輩がコーチをされており、先輩のお宅に隣接した幼稚園の小さな椅子に腰掛けて、よくミーティングをしていたのが、なつかしいです。同期のプレーヤーは梶谷嘉一君、山本啓君と私の3人だけ、1年下の池内君や薬師寺君たちにはかなり負担を懸けていました。

大学入試では、受験した関学の合格発表の前の晩に事前に連絡をいただき、徳永さん、志村さん、東元さん、柴田さんがわざわざ我が家までお祝いに来られ、いつしか宴会となって私よりも親の方が大喜びをしていました。これがきっかけとなって2月末から関学のミーティングに参加してしまい、入学式のときには勧誘のビラ配りをしていました。

関学卒業後、松下インパルスで楽しくフットボールをしていましたが、このとき神戸大学を卒業してきた松田純一君(26期)が入社し、暫く一緒にプレーすることが出来ました。その後私は30歳の直前で退社し、フットボールプレーヤーとしての幕を降ろしました。通算15年間のプレーヤー生活は本当に楽しい思い出でした。そしてその基礎をつくってくれたのは豊高フットボール…、感謝とともにいつか恩返しをしたいと願っています。

フットボールの怖さを知った 関学高戦での大敗



池内和彦
(高25期)

私の現役時代を振り返ると、ちょうどタッチフットボールからアメリカンフットボールへの転換期で、1年の時、豊高タッチフットボール最後の年に全国大会に出場できることや、その後アメリカンフットボールに変わるために防具が足りなくて、タッチフットの防具で試合にでたこと、また、当時大阪では池田高校がよきライバルで他の高校との試合以上に負けたくないという意識が強く、試合中にエキサイトして審判に厳重注意を受けたことなど、懐かしく思い出される。

自分たちの学年の1年上と1年下は部員数が少なかったが、幸いに自分たちの学年は11名おり、上級生が引退した昭和47年の夏からいよいよ主将の斎藤君のもと自分たちの学年中心のチームが結成された。いま振り返っても、当時のチーム力はかなり高いレベルであったと思うし、自信もあった。新チームで大阪大会で優勝し、関西大会に出場することになった時も、当然に決勝戦で当たるはずの関学高に照準をあわせ、森里さん、伊敷さん、東元さん、岸田さん、坂口さん、西崎さんたちを始め、多くのOBの熱心な指導のもと、対関学高戦用のスペシャルプレーのフォーメーションの打ち合わせなど夜遅くまで練習し、當時無敵の関学高に一泡ふかせて、あわよくば勝てるのではないかと思うほど当时としては万全の準備をして試合に臨んだ。予定通り1回戦では市立西宮高校に42-0と快勝し、いよいよ決勝の関学高戦を迎えたが、結果は豊高0-92だった。

もちろん大敗だったが、得点差以上にショックだったのは、フットボールの質の違いというものをいやというほど味わわされたことだった。大袈裟でなく、フットボールに対するそれまでの考え方を完膚なきまで叩きつぶされ、フットボールの

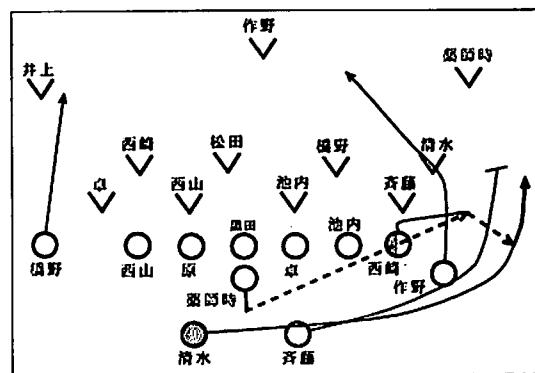
奥の深さ、恐ろしさを思い知らされた一戦だった。

その後のチームの戦績は私自身あまり記憶なく、この関学高戦のショックから立ち直れないまま豊高でのフットボール生活は終わった。大学は何の縁か関西学院大学に入学することとなり、高校時代の関学コンプレックスから、アメリカンフットボール部への入部を躊躇っていたが、豊高OBで関学大で活躍されていた柴田さん、前谷さんに声を掛けいただき、自信のないままに入部した。その後辛い時もあったが、大先輩の徳永さんを始め、多くの豊高のOBの方々の叱咤・激励に支えられて充実したフットボール生活が送れたと思う。

関学大で甲子園ボウル5連勝の時期にプレーヤーとしてグランドに立てたことは幸運であったし、そのきっかけとなった豊高フットボール部には感謝の気持ちでいっぱいである。

大学卒業後は関学大のコーチとして2年間フットボールにかかわったが、その後転勤で永く関西を離れていたこともあり、すっかりフットボールとも疎遠になってしまった。それでも日々新聞や雑誌で後輩たちの活躍を目にするときの熱い思い出がこみあげてきます。

創部50周年を機に豊高アメリカンフットボール部が新たな伝統を築きあげていかれる事を祈念しています。



1971年関西大会用の「スペシャルプレー」ロングゲインあわやTD (高25期) [資料提供: 卓 良泰さん]

初試合でリターナーの タックルに成功



松田 純一
(高26期)

高1の6月から始めた。きっかけは1年先輩の西崎(久能)さん、中学(北豊島中)のときに西崎先輩と一緒にテニスをやっていた私は、1学期の中間テストが終わってほっとした日に勧誘を受けて練習を始めることになった。たまたま1日目は雨だったので雨天体育場でストレッチ運動だけで終わったことを覚えている。練習を開始してまだ2か月しか経っていない夏休みに箕面高校と対戦することになった。秋の全国大会の大阪府の予選である。運悪く(?)2年生のセンターだった黒田先輩が体調が悪くて出られないというので、ドローと真ん中しか知らないまま出場ということになった。何も分からぬまま、豊中高校のキックオフでゲームが始まると同時に相手陣に突っ込んでいった私は、無我夢中でリターナーに飛びついでいたら幸運にも相手が倒れてくれていた。

この試合の後、関大一高、池田高にも連勝して関西大会に進出した。この大会では1回戦で対戦した市立西宮高校とのゲームで試合開始直後の1プレー目で早くも足をねんざして退場するはめになってしまった。試合には勝って次の敗した関学戦に続くのであるが、この関学との試合に出れなくなつたことが、自分にとってはくやしい思いを残した。

2年生のときには、春の合宿で負傷者がでたこともあって同級生が減ってしまい、ギリギリの11名で試合をしたことあった。この年に3年生が引退してしまうと次の年の新入生が入ってくるまではメンバーが揃わず、とうとう公式戦を棄権するハメになった。

豊高を卒業して進学した神戸大学では、ちょうどチームを結成する機会に恵まれて、アメ・フトを続けるようになった。

このころ伊敷先輩や東元先輩などの豊高OBで審判団を作ろうということになった。私もこれに参加した。当時大学生だった私たちは、高校の試合はもちろん、時には大学の試合の審判をすることもあった。そのうちに関西連盟で、いまの古川理事長らが開催していた研修会に出席することになったが、自分たち“豊高審判団”的のレベルは高かったと自慢できる。

社会人になってからも会社にチームがあった。「インパルス」である。おかげでアメ・フトとの縁がまだまだ続いた。

小宮を通して繋がる同期の輪



原田 淳
(高29期)

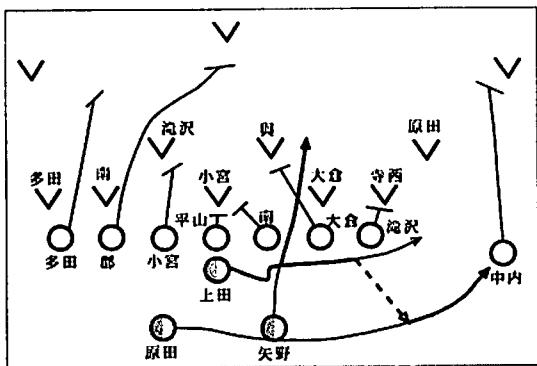
高校フットボールを思い出すと、12年前に日航機事故で亡くなった小宮抜きには考えられない。同期の人間も同様の気持ちでいると思う。小宮とは現在、小宮杯として毎年優秀なラインズマンに贈られている名前の主である。

彼の家は私の家の隣で、かつ家が接近していたため、2階のお互いの部屋同志で行き来が可能であった。さらに高校3年間を通じて同じクラス、同じクラブであったため、親・兄弟よりも一緒にいる時間が長かった。試合中に彼と一緒に相手をタックルしたときには‘隣人タックル’とよく言われたものであった。しかし彼は突然に去っていったため、今でも豊中の実家に帰ると「おー、原田、何してんねん」と聞こえてきそうに感じる。命日の8月12日あたりになると、同期の人間がひょっこりと小宮家に集まってきて、小宮の昔話や各人の近況報告などをしていく。我々だけが年を取っていくが、彼はいつまでも若々しい27歳のままで羨ましく思うし、マイペースでまとまりがない我々同期が、小宮を通して何か繋がっているように思う。

さて、私のフットボールは高校だけで終了し、大学と社会人ではラグビーのほうに興味が行ってしまった。そのため卒業後、全くフットボールはしていない。正直いってやるのはラグビーの方が楽しい。(ただし観るのは断然フットボールの方がスピード感、ダイナミック感があって面白い)。

私は、当時サンテレビが放送していた“カレッジフットボール”を観て、フットボールに興味を持ち、入学したら直ぐに入部した。入部時は人数も少なく、防具やユニフォームもボロボロの弱体クラブであった。しかし2年になってから、高校17期の伊敷さん、高校22期の坂口さんの本格的なコーチを受けるようになって、チーム力が格段に上昇した。3年の春には、関学高等部と練習スクリメージで対等に戦えてから自信を持って大阪大会に臨んだが、第4Qに逆転されてベスト4に残れなかった。今考えても最高に悔しい思い出である。あのままいけば、あのチームだったら恐らく優勝していたと、良いように解釈している。しかし、次の30期の諸君が、翌年の大会で見事優勝してくれたのが救いであります。少しは役に立てたかなと思う。

高校終了時にフットボールと全く縁を切ったため、OB会に足を向けていくが、今後も小宮を通して豊高フットボールOBとして交流していきたいと思っています。



ダフ屋のチケットを購入し、 スーパー・ボウル観戦



郡秀介
(高30期)

我々が豊中高校アメリカンフットボール部に在籍していた頃は、前後の学年を含めて各学年ともせいぜい10名程度の小所帯でした。ただし小所帯には小所帯の良いところが数多くあり、個性が強い選手が多いながらも上下学年・同学年とのコミュニケーションは大変良かったと記憶しています。

豊中高校でアメリカンフットボールと縁ができたおかげで、その後も楽しみが一つ増え、大変うれしく思っております。

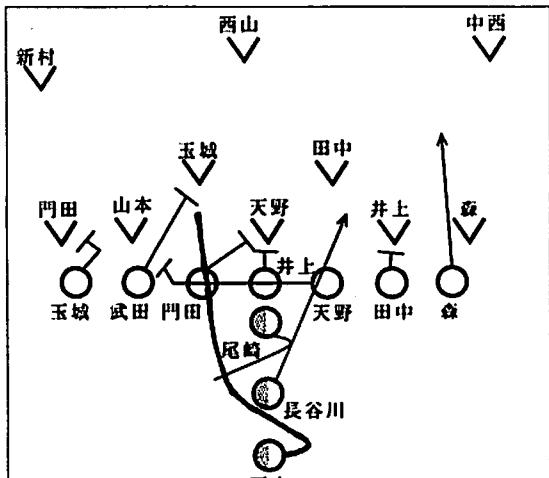
社会人となり、国際部門関係の業務に携わることとなってから、アメリカに2度、都合7年間勤務しました。

1回目の勤務地コロラド州デンバーに2年間滞在したときには、その間2回のスーパー・ボウルにいずれも地元のデンバーブロンコスが出場、惜しくも2回とも惜敗しましたが、いわゆる大リーグの野球チームがないデンバーでは(今では新たに設立されました)その他の都市以上に熱狂的といわれており、私もせっせとダフ屋のチケットを購入して試合を観に行ったものでした。

2回目に勤務したニューヨークでの5年間はニューヨークジャイアンツの黄金時代、残念ながらチケットの入手については、ジャイアンツの試合はほぼ不可能。入手可能なチケットは当時弱小であったニューヨークのもう一方のチーム、ジェッツの試合ばかりで悔しい思いをしました。

現在プロジェクトファイナンスという業務を手がけ、NFLのスタジアム建設プロジェクト案件にも携わるなど、何かとアメリカンフットボールとは縁を感じます。

東京・海外勤務の繰り返しで、先輩方をはじめOBの方々にはご無礼を重ねておりますが、今後とも何卒よろしくお願い申しあげます。



1978年春季大阪府大会決勝戦のvs.池田高決勝プレー「Flanker 1 カウンターオフタックル」(高31期) [資料提供: 西山一也さん]

フットボール生活19年目



有吉明
(高33期)

34歳になった今、私の青春時代を振り返ると、それはアメリカンフットボールを抜きにしては考えられないことに気付きます。そしてこのアメリカンフットボールとの出会いの場が豊中高校だったのです。

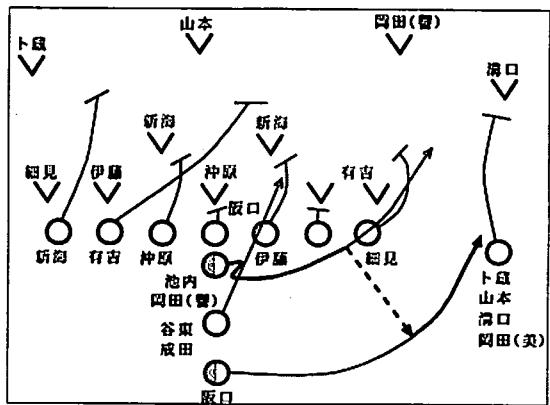
豊中第3中学校では野球部に所属していましたが、当時池田高校フットボール部のマネージャーをしていた姉の影響もあり、中学時代からフットボールに興味を持っていた私は、豊高入学後、やはりフットボール部に入部しました。チームは私が入部した直後の関西大会で準優勝し、当時の先輩たちの雄姿に憧れ、自分たちも強くなりたいと思ったものでした。

2年生の春は残念ながら大阪大会で池田高校に惜敗しましたが、3年生の春は関西大会で準優勝を勝ちとることができました。この時のチームは、

結成時は決して強くはなかったのですが、春季大会の初戦でそれまで2連敗していた箕面自由学園に完勝し、その後勢いに乗って勝ち進むことができました。特にそれまで得点力に乏しかったオフェンスにおいて、突然オプションが進み出したのです。いま思い起こすと大会直前の春休みに、藤井、郡、川上コーチのご指導のもと大変激しい練習をした記憶がありますが、これが実を結んだものと思います。関西大会決勝では関西学院に敗れましたが、8月に米国ハワイ・イオラニ高校と関西選抜チームが親善試合を行なった際には、豊高ユニットのオフェンスでTDを獲ることが出来ました。

豊高アメフト部の思い出は素晴らしい仲間と爆発的なオプション攻撃と寄りの良いディフェンスです。このような素晴らしい経験のために、私はその後1浪して入学した京都大学、入社5年目にチームが結成された東京海上と、フットボールを続けることになってしまい、気が付けば、途中の中断はありますが、豊高入学後フットボール生活19年目です。今は会社のチームの監督をやっています。しかし、その原点は豊高フットボール部であり、今でも3年生当時のチームはその後の大学、社会人のチームと比較しても、最もまとまりの良いチームであったと確信しています。

最後になりましたが、この部を築いてくださった先輩方、そしてこの部をさらに発展させてくれている後輩諸君に厚く感謝します。



1980年ごろの「Flanker I ダイブフェイクオプション」(高33期)
[資料提供: 有吉 明さん]

コーチの練習プランに感動、死にもぐるいの走り込みも楽しい思い出



武 笠 直 人

(高35期)

私が入部した直接の動機は「こわい先輩」でした。入学の直後から「男」を感じさせる諸先輩に囲まれ、日々に「入らんかい！」と、とても優しい言葉をかけられ、気がついた時には、部室でボールを磨き、ダミーを運び、試合中にゲータレードを渡しにフィールドに登場していました。

その年は春の大阪大会で優勝し、彦根での関西大会では決勝で宿敵・関西学院高等部に敗れましたが、先輩たちの姿にたいへん感動し、自分の活躍を夢見ました。

その年の西宮ボウルの大坂対兵庫の高校選抜チームの試合に先輩たちが出席したので観戦に行きました。その「観戦」という感覚が某先輩の激りんに触れ、試合終了後西宮スタジアムのまわりで「アップ・アンド・ダウン(ダッシュ)」を命ぜられた時には「何時か自分も出場して後輩を…」と思ったものでした。

夏になって初めて防具を付けて練習をはじめましたが、コーチ・先輩たちは希望も聞かずに私をラインマンへと無条件で押し付けました。訳の分からぬ「三角ダミー」や「パスプロ割り」、「伝説の生コン(コンクリートミキサー車の照らす明かりの下でのダミー打ち)」にも慣れたころにOB戦があり、その試合でQBサックを決めてしまい、周りからおだてられるうちに、完全に1人のライシマンに仕立て上げられたようです。

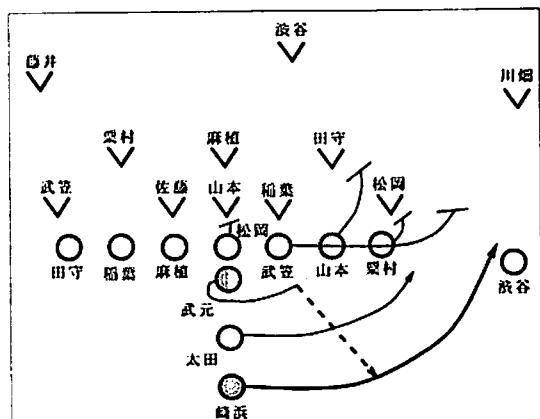
2年生の夏から新チームとなり「優勝したかったら俺についてこい！」といって下さったコーチのためにも、懸命に練習するつもりでした。が、私を含め同級生で怪我人が続出し、練習メニューを消化できずに終わった感もありました。骨折、

脱臼はもとより、指が裂けてしまった者や中には単車の無免許運転による事故で入院した者もいて、さながら野戦病院の様でした。

私も足をネンザして相当な痛さにもかかわらず、外見ではなかなか理解されず「練習は休んでも試合には出ろ」と、とても信頼されている様で泣けてきました。

シーズン中に、授業を抜け出して相手校のスクウェーリングに出掛けたことがバレて、停学になりそうになったり、試合中の反則で一人で100ヤード分の後退を稼いだ(?)ことや、試合中に熱くなりすぎて相手校に暴言を吐き、試合が終わってから先輩に連れられて謝りに行ったりと、恥ずかしくなる様なことばかり思い出します。ただ一時期、コーチがライン兼ランニングバックのプランを立ててくれた時には、死にもぐるいで走り込んでアピールしたこともありました。あれほど練習が楽しいものだと思った時期はありませんでした。

3年の春「優勝間違いない」のはずが、無印の関大一高にまさかの敗退をしてしまいましたが、渋谷君と私は西宮ボウルに選抜されて活躍できたことや、その後多くの大学から誘われたのは誇りとなっています。その秋初優勝した京都大の中で先輩の大活躍を目にして、単純にも受験目標を変更し、1年浪人となり、その後輩の練習の邪魔をしてしまいましたが、見事翌春に優勝してくれて伝統の素晴らしい改めて感じました。



1982年ごろの「Flanker I Sweep」(高35期)
[資料提供: 武笠直人さん]

第4Qで力尽きて逆転された 関学戦だったが満足感で一杯



岩澤宏哲
(高36期)

フットボールを始めてもう何年経つのだろうか。現在でもXリーグEASTディビジョン2部に所属している「シルバーオックス」というクラブチームでプレーをしています。これも豊高でのフットボールとの出会いがあったからこそ、今までのかけがえのない「フットボール人生」を歩んで来れたと思っています。

豊高での思い出の試合は数多くありますが、とくに思い出深い試合は2試合あります。その内の一つは高2のとき、同級生は11名しかいなくて後輩の1年生の力を借りなくては出場できなかつた状態で戦った秋の大会です。

1回戦では3年生の残っている東淀川高校に勝ち、2回戦で関西大倉高校と当たることになりました。正直言って楽勝で勝てるとは思っていませんでしたが、善戦はもちろん、あわよくば勝てるのでは…と、今から考えると全く自分のチームの実力を分かっていなかったと思います。試合は見るも無残な結果に終わりましたが、70~80点ほど取られ、豊高はノーフレッシュだったと思います。

しかし、これがきっかけとなり、春の大会には必ず優勝することを目標に、練習にも一層力が入るようになりました。

もう一つの印象深い試合は3年生の春の大会で、決勝で箕面自由学園高に勝って大阪大会で優勝し、関西大会では決勝まで進んで関西1位をかけて関西学院高と戦った試合です。あれは6月の暑い日差しの中、前の晩に降った雨が蒸気となって立ち昇っている非常に苛酷な状態であったことを記憶しています。試合が始まり、前半は14-7で優勢のまま折り返し、相手のミスもあって第3Qまでは20-7、このまま逃げ切れると思っていました。が、すでにわれわれ選手全員の体力

は限界までできていました。豊高のメンバーはほとんどがオフェンス、ディフェンス、キッキングとも全てフル出場で、それにくらべて関西学院は2プラトンを組んでおり、しかもオフェンスはショットガンフォーメーションで体力は温存されていました。残念なことに豊高は第4Qにとうとう力尽き、逆転されてしまい、結局は20-28で惜敗してしまいました。試合に負けたことは非常に惜しかったのですが、試合後は力を出し切ったことの満足感で一杯だったという思い出があります。

その後多くの豊高フットボールOBの方々がプレーされていた神戸大学でもフットボールを続けることになり、そこでも多くの思い出を作ることができましたが、それも全て豊高で学んだフットボールが原点となっています。いつまでフットボールをプレーできるのかわかりませんが、気持ちだけはいつまでもプレーヤーであり続けたいと思っています。

厳しい練習の成果と 素晴らしい仲間との巡り合い



幸田浩明
(高37期)

豊高への入学がきまり、新たな学生生活への期待と不安が入り交じるなか、何か新しいことをやってみようと思っていたところ、入学式の日に、強烈な勧誘を受けたフットボール部との出会いがあった。小学生時代から興味を持っていたこと、そして何よりも見た目の派手さとカッコ良さに気を引かれ、早々と入部を始めた事を、いまでも鮮明に覚えている。

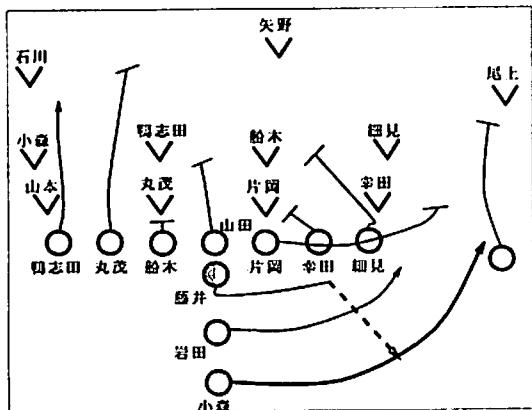
いざ入部してみると、走るだけ、当たるだけの基本練習の繰り返しで、まあ何とハードなスポーツであろうとかなり参ってはいたが、不思議と「辞めたい」と思ったことは一度もなかった。部

員は全員で30数名と小人数だったが、結束した部であったこと、そして府内でも強豪といわれるチームであり、試合をして勝つことに対する喜びを得られるので、厳しい練習にも目標を持って臨んでいたのである。

そんな中での2年の春の大阪府大会優勝と関西大会決勝戦での関学高等部との壮絶な試合は、今でもよく思い出すし、高校時代の最高の思い出として脳裏に焼き付いている。(ただし試合の結果は20-28の惜敗であった)。

諸先輩方の熱心な指導と学年の上下に関係なく共通の目標をもって、日々の練習に、また試合に臨んでいた当時の部員全員の努力の賜物と誇りに思っているし、当時顧問をしていた長瀬先生及び戎田コーチには、非常に感謝している。

フットボール漬けの高校3年間を経て、その後関学に入学し、フットボールを続けていくことになるのだが、大学時代のフットボールにおいても、私の中には常に豊高フットボール魂がその礎となっていた。数多くの部員(私の在学当時は120名程度)がいる中、レギュラーの座をかち取って4年生の時には主将を勤められたのも、全て豊高時代の厳しい練習の成果であり、素晴らしい仲間に巡り合えたおかげである。大学は別々になってしまったが、神戸大学フットボール部の主将を勤めた高校同期の細見君とは、同じ主将としての立場での苦労を相談し合い、敵でありながらよく会っていたものである。これも豊高時代の厳しい練習を励まし合って乗り越えてきた仲間であるが故のものであり、今後、後輩諸君にも、この様な仲間



1984年ごろの「Flanker I Lead Option」(高37期)
[資料提供: 幸田浩明さん]

を作りたいと願わざにはおれない。

最後に、現在日本全国における住宅地の開発を手懸ける業務に従事している私は、中々大阪には帰れない為、随分と不義理をはたらいたことをお詫びすると共に、これを機に、一度豊高フットボール部の練習を見学にいき、パワフルな豊高魂を取り戻そうかと考えている。

自主性あるメンバーが結集し最高の舞台で関学を倒して初優勝

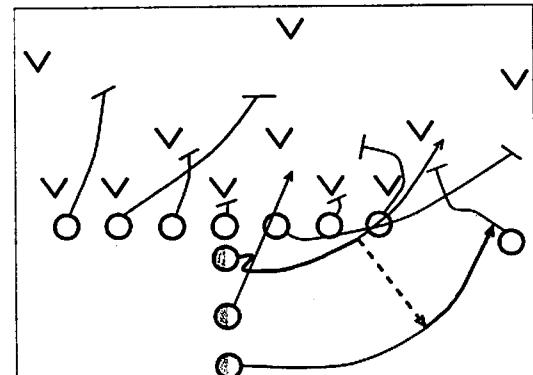


糸井 真一郎
(高41期)

私が高校に入学してアメリカンフットボール部に入部したきっかけは、本当に単純なものでした。ただ、何か「男のスポーツ」がしたいという気持ちと、人よりもいくらか恵まれていた体格のおかげで中学時代の先輩に勧誘されて、いろいろな先輩に「今やったら、すぐにレギュラーで試合に出れるぞ」と言われ、入部を決めました。

入部したとき、すでに3年生の春のシーズンが始まっていたり、ルールもわからないまま観戦し、2回戦で敗れたことを覚えています。

夏になって練習試合がはじまり、私はそのときOLとDLのポジションを与えられて試合に出るこ



1987年ごろの「Flanker I Wopのクロスバターン」(高40期)
[資料提供: 小倉健二さん]

とになりました。しかし、何をすればいいのかわからず、相手のチームに滅茶苦茶にやられました。その時に、フットボールはシステムで戦うということの意味がわかったような気がしました。そのまま秋のシーズンに入ったのですが、とにかく無我夢中で自分の責任を果たすことだけを考え、試合に臨みました。その秋、優勝候補といわれていた大産大高校を破り、とにかく嬉しく思いました。(しかしベスト4で敗れた)。

2年生になり、春のシーズンが始まりました。大阪大会では準優勝、関西大会に進んだのですが、それまでは雲の上にあるチームだと思っていた関西学院高等部と準決勝で対戦し、試合が始まる前には「勝とう」とは思っているものの、戦う前から名前にびびり、結局大差で負けてしまい、負けてからびびっていた自分に腹が立ち、先輩たちに申し訳ない気持ちになったのを覚えています。

その後、私はキャプテンに選ばれ、それまでとは違ってチームのことを中心に考えるようになりました。顧問の荒木先生から常に「イエスマンになるな」と言われていました。「自分で目標を持って、考えるフットボールをしろ」ということでした。この言葉は、私には今でも忘れられない言葉になっています。

私たちの目標はもちろん「打倒関学」でした。秋のシーズンは残念ながら大阪大会の準決勝で負けてしまい、関学と対戦することはありませんでした。しかし、春になって大阪大会で優勝した我々は関西大会の決勝まで勝ち進み、最高の舞台で関学と対戦することになりました。1年前とは違って、気持ちも充実していた私たちは、見事に関学を倒して初優勝を飾ることができました。この時今までの苦しかったことや辛かったことが、すべて喜びに変わるのがひしひしと感じました。

このチームで私はキャプテンをしていましたが、本当にまわりの人々に恵まれていたと思っています。とくにチームメイトには恵まれていました。自主性のあるメンバーであり、本当に楽にキャプテンをさせて貰いました。

その後、私は大学でもフットボールを続けましたが、豊中高校で得たことがたいへん役に立ったと思います。

これからも豊高フットボールは選手のチームで

あり、自分たちの手で勝利をかち取って欲しいと思います。それが豊高フットボール部の伝統につながると信じているからです。

関学高を破った優勝の味は いつまでも忘れない



中川英樹

(高41期)

中学生のころからアメフトのテレビを観ていて格好いいスポーツだなあ…という思いを抱いていた私は、豊中高校に入学するとすぐに上級生の誘いに乗っていました。

練習は思ったよりきつかった。とくに1年上の小倉、角森、外池の諸先輩にはよくしごかれた。時々箕面あたりまでランニングをやらされたこともある。

1年生の夏休みが終わって秋のシーズンになると、3年生が試合に出なくなり、われわれ1年生にも出場の機会が回ってきた。秋の大阪大会では清風高、大産大高には勝ったものの、準決勝で関大一高にはシャットアウトで敗れた。やはり2年生と新米の1年生だけのチームでは歯が立たなかつたというところだろうか。

年が明けた1月の新人大会でも追手門学院高にゼロ敗し、冬には珍しい大雨の中の試合だったとはいえ、オフェンスの弱さを実感した。しかしその後の春の大阪大会では、近畿大付属高にシャットアウトで圧勝した後、再び対戦した追手門学院高に雪辱し、守口北高にも勝って決勝に進出した。長居球技場で行なわれた箕面高との決勝戦では、ディフェンスがよく頑張って1TDに抑えたものの、攻撃に精彩を欠いて得点出来ず、結局大阪大会では2位に留まったが、関西大会に出場した。

関西大会では静岡の三島高と対戦することになり、会場の東邦高(名古屋)まで初めてバスで遠征した。少々きつかったが、試合に勝った帰りのバ

スは遠足気分でとても楽しかった。

われわれの同期は20名近くいたが、われわれが2年生になったときに勧誘した1年生は30名が入ってきた。八木(健太)君や岩井(元宏)君など有力メンバーがおり、チームの力もだんだんついてきた。その結果、私が3年生の春は新人大会で箕面自由学園高に負けたものの、クジ運も幸いして大阪大会で優勝、続く関西大会でも順調に勝ち進み、決勝ではこれまでなかなか勝てなかった関学高をシャットアウトで破って待望の初優勝をした。当時の新聞にも大きく取り上げてくれたのは、今でもよく覚えている。

進学の方向を決める時期になって、これまで続けてきたアメフトをもっとやりたいという気持ちが強かった。早稲田にはアメフト入学の途があることを知って応募した結果、幸いにも合格できた。

アメフトとの縁は社会人になってからも続いている、懶りずに下手なパスを投げている。柴田先生に誘われて「第一生命クラブレディコング」のお世話を仰せつかっている。

全てはロードランナーズとの出会いから始まった。あの頃の仲間だけは忘れられない。

不純な動機で入部した私と 「期待を裏切った学年」



八木 健太
(高42期)

創部50周年おめでとうございます。というよりも、私にとっても、大変喜ばしいことであり、その上このような機会を頂きましたことを感謝いたします。

「八木君、アメフトの格好似合うと思うわ…。」高校1年の5月、すでにハンドボール部に入っていた私に声を掛けてくれた豊高アメリカンの女子マネ達。いま考えると、不純な動機から始めたアメフト。その時から豊高アメリカンの一員として、

数々の想い出が始まります。

結論的にいうと、私たち42期は「一番期待を裏切った学年」でした。豊高の良い部分と、悪い部分とを持つ学年だったような記憶があります。言い換えると、自由で明るい雰囲気を持っているけど、少し詰めが甘くて…。

監督の荒木先生の体当たりのご指導(本当にワン・オン・ワンもして下さった)には、今でも感謝しています。

42期生として印象深い出来事は2年生の秋。秋といえば公立高校の不利なシーズンですが、その年の春に公立高校で初めて関西学院を破って関西大会初優勝を成し遂げた41期生が引退し、しかも初戦は優勝候補の大産大高という対戦カード。が、3年生が中心の相手に対して胸を借りるつもりで挑んだ結果、攻守ともに互角に戦い、客観的にいう「まさか」の勝利。大産大は、後に立命館大学で大活躍した堀口靖選手を中心に、最後まで気迫の溢れるプレーを見せたけれど「まさか」の敗退。逆に豊高アメリカンは意気揚々と調子に乗りました。が、次の2回戦で同じ公立校の池田高校に敗退。なんとも悔しい思いをした記憶があります。できれば永い豊高アメリカンの歴史に刻める結果を出したかったのが、42期生の本音でしょう。

想えば、練習試合では11勝2敗という強さを誇りながら、公式戦は2回戦ボイの42期生。結果は出せなかったけど、個々のパーソナリティは非常に個性的で印象深く、かけがえのない絆を築けたと思います。現在、私は東京在住ですので、皆さんに会う機会は少ないですが、近いうちに会える日を楽しみにしています。といってもなかなか実現しそうにありませんが…。

訪米チームに選ばれ 大学でもやりたい気持ちが固まった



伊藤重将
(高43期)

中学時代に野球部にいた私は、豊中高校でも統けたいと思っていた。当時としては体格に恵まれていたところに目をつけられ、豊中高校に入学するとすかさず、2年生の八木さんや細見さんがしきりにアメフト部への入部を勧めた。「豊高的アメフトは強いぞ」という先輩たちの言葉に、これまであまり強くなかった中学時代の野球よりも面白そうだという気持ちになっていった。すでに練習をはじめていた同級生の赤松君や松田君より少し遅れて、4月も終わりごろになって私もアメフト部に入ることにした。

糸井さんたち3年生が20名と、八木さんらの2年生が30名がいたその年のチームは、確かに強かった。春の関西大会では関学高校を破って優勝した。入部して間もない私たち1年生は、まだ背番号のない白いユニフォームを着てサイドから声をはり上げて観戦していたが、優勝にはとても感動したのを覚えている。

その3年生が引退した後、秋の試合は2年生と1年生で大阪大会に臨んだ。1回戦は大産大高校と対戦した。この試合に私は初めて出場した。キッキングチームだったが、先輩たちに「思い切って当たれ」と励まされて、夢中で相手の選手にぶつかっていました。残念ながらボールキャリアまでは手が届かなかった。

1年生の3学期にあった新人戦では清風高校に敗れた。この試合ではOTだったが、春の大阪大会ではDLになっていた。この大会では、3回戦で箕面自由学園高校に接戦の末、1TDを取られて惜敗した。2年生の秋の大阪大会では、1回戦で池田高をシャットアウトで圧勝したが、準決勝では春に大勝していた関大一高に敗れた。この頃

の私は、3年生が抜けた後のRBとLBの両方をやってだったので、試合にはほとんどフル出場した。

3年生の春は、大阪大会で準決勝で箕面高校にゼロ敗したが、幸運にも訪米チームに選抜されてアシュランドに遠征した。この時に関西の高校から選ばれた45名の選手で編成された訪米チームに、豊高からは私のほかに桂田太郎君と後山哲志君が選ばれた。私たちは大阪空港から初めてアメリカへ向かった。現地ではアシュランド高校選手の家庭に分かれてホームステイした。奇麗な芝生が張られてナイター設備のあるアシュランド高校のグラウンドで、練習ではポジションごとのクリニックなども受けた。

親善試合は7-21で負けたが、実力的にはそれほどの差はないと思ったし、特定のプレーヤーはすばらしく体格的に上回っていたが、ランニングと体力ではそんなに圧倒されるものはなかった。この試合で幸運にも私はタッチダウンを挙げることが出来た。

訪米チームに参加できたことが、大学に行ってからもフットボールをやりたいという気持ちを私に固めさせた。神戸大や関西学院など近くの大学のチームを念頭に置くようになってきた。その頃、京都大学から水野監督や先輩たちが豊高へ来られて、しきりに進学を勧められた。結果的には1浪の末ギヤングスターズの1員になった。京都大学の4年間は文字どおりフットボール漬けだった。関西リーグ、甲子園ボウル、ライスボウルでの優勝、どの試合も力一杯やったが、いずれも恵まれていたと思う。4回生の終わりになって、いや1回生のころから、留年するつもりでいたが、たまたま新聞でワールドリーグに日本選手を募集する記事が目についた。1月だった。挑戦してみたいという気持ちが盛り上がって来た私は、早速川崎球場で行なわれたテストを受けてみた。幸運にも池之上さん、阿部君とともに合格、アトランタでのキャンプを経て、4月から6月までデュッセルドルフのチームのメンバーとなった。NFLの選手と一緒にプレーをしたこと、私にとってこの上ない貴重な体験をすることができた。

帰国後は、これまで最もお世話になったギヤングスターズのコーチとして、少しでもお役に立とうと努めている。

万全の態勢で臨んだ新人戦に
勝ち、アメフトの虜に



松田宗門
(第45期)

中学時代、なんとなく豊中高校に憧れ、なんとかうまくもぐり込んだ私は、体が大きかったせいか入学式の日から筋肉質ふうの先輩方にしばしば囲まれ、「アメリカンフットボール部に遊びに来ないか？」と誘われました。その頃、私はバスケットボールかハンドボールをしようかと迷っていたのですが、「まあいくつか仮入部してみてから決めよう。」と思い、まず一番熱心に勧誘してくれたアメリカンに行くことにしました。しかし、実際にやってみると、春の公式戦中にもかかわらず、2年生の先輩方を中心に楽ちんな練習であるように演出して下さって、その日の終わりには自己紹介で、「入部した動機は？」などとすっかり部員扱いで、次の日にほかの部にはもう行けそうにない雰囲気がたっぷりでした。

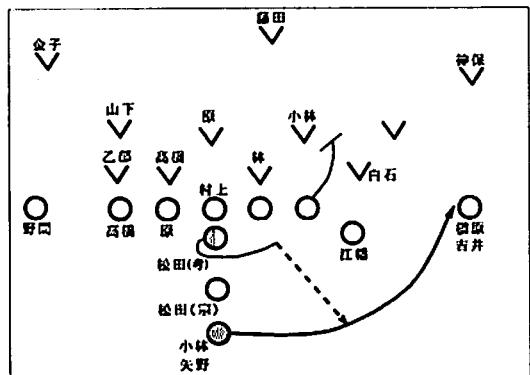
こうして他の部には一度も足を運ばないままフットボール部に入部した私は、体も大きく足もそこそこに速いということで、2年上の伊藤先輩を目指せと、まずDLでの修業を言いわたされ、ひたすら「当たり修業」を繰り返しました。その頃7月の池田高校との定期戦にはじめて出して頂いたのもノーズガードとしてでした。その時はまだユニフォームがなく、白い練習用のジャージだったので、後半に試合が決まってから3プレーほど出ただけで、審判に追い出されてしまいました。

その年の夏から、対箕面高校の1年生同士のスクリメージに向けてフルバックの練習を始めたのですが、充分な時間が得られず、試合には勝てたものの「ファンブル連発」という惨々な結果を残してしまいました。

先輩方が引退されて自分たちの代になってからは、後輩にも恵まれ、DLのほうを廃業してRBに集中することができました。その年の秋季大会で

は1回戦で東淀川高校に大敗を喫し、早々に春に向けてのチーム作りに取り組むこととなったのです。そして1月の新人戦に的をしばり、昨年北海道のナンバーワンQBだった松田考君らとともに、対戦校の箕面自由学園をビデオで研究し、万全の態勢で新人戦を迎える。その結果シード権を獲得できた時の喜びは、私をフットボールの虜にするには充分でした。後の大阪府大会では、新人戦の後ケガを理由に引退していた松田考君が、準決勝の大産大高校との対戦の時には急きょ復帰してくれたのですが、天才とうたわれた東野君の前に敗れたのでした。しかし、この敗戦が私を大学でもフットボールを続けることを決心させた理由のひとつでもありました。

1浪ののち関西学院ファイターズの1員となつた今も、波乱に満ちた高校時代の思い出は、私のなかで常に私に活力を与えてくれています。



1992年ごろ（高45期）[資料提供：松田 考さん]

ポカの反省を繰り返し、
DBの奥の深さを少しづつ体得



石村 健司
(高47期)

僕がフットボールに興味を持ったのは、小学6年生の1月に、たまたまテレビでNFLのスーパー・ボウル

の奇跡的なプレーを観たのがきっかけでした。それは、あの有名な「モンタナ・マジック」だったのでした。そのプレーを観たときに、僕はフットボールのとりこになっていました。それから1週間も経たないうちに、スポーツ用品店でフットボールを買ってきて、兄とよくキャッチボールをしていました。

豊中高校に入学したとき、例にもれず、僕も最初はQBやRBといった目立ったポジションに憧れていましたが、勧誘されたときに先輩が「やっぱりアスリートはDBやな」といった言葉にひかれ、DBを志望しました。やってみると、さすがにDBはアスリートがするポジションといわれるだけあって、簡単には上達しませんでした。

1年生の夏ごろから試合に出るようになって、1試合に1回はポカをやっていましたが、その度に反省を繰り返しているうちに、少しずつゆっくりとDBというポジションの奥の深さと楽しさが分かって行きました。現在、僕は関西学院大学でフ

ットボールを続けていますが、DBというポジションは「誇りを持って取り組め」と言われています。それはDBが一瞬でも、最も輝いているポジションとなり得ることをいっているのだと思います。

僕らが豊高の3年生の春に、大阪府大会で優勝することができました。決勝戦の相手は大産大高校で、試合の前には、豊高側のかなりの劣勢が予想されていました。しかしこの試合では、ディフェンスが止めればオフェンスがタッチダウンを取ってくるといった、この年のチームの持ち味だった「まとまり」が發揮され、接戦の末にかち取った優勝だったと思います。

僕は、豊高アメリカンフットボール部で多くの事を学びましたが、そのなかで「信頼」と「協調」がチームプレーでは一番大切だという事が、いま最も強く身に染みています。

これからも「誇り」を持って一生懸命に頑張って行きたいと思います。

マネージャーだった皆さんから

何も分からぬまま、
どれ程お役にたったのか



安居 堯子（旧姓：安部）

(高16期)

豊中高校を卒業して30年以上経ってしまい、記憶も定かでなくなっていました。私が女子のマネージャーとして初代だったとは、今回初めて知りました。どのような経緯で私がお手伝いする様になったのかは、曖昧ですが、2年生になってまもなく、フットボール部のキャプテンだった同級生の佐藤さんから、マネージャーになってほしいと頼まれました。当時のタッチフットボール部は、豊高の中では数少ない有力なチームで、目立った存在でしたが、私個人としましては茶道部に入っていたし、スポーツに関しては全くの音痴でしたので、最初はお断りしていました。でも、何にも

出来なくてもよいかとすることで、お引き受けしたような気がします。

マネージャーになってからは、何度か試合に同行しましたが、記憶に残っているのは、仁川の関西学院と藤井寺球場ぐらいしかありません。とくに藤井寺球場は、ほとんど運動知識のない私にとっては印象が強烈で、がらんとした観覧席に囲まれたグラウンドの中で試合をしていた部員の方たちが、とても小さく見えた様な気がします。

文字どおり何も分からぬまま、飲み水を汲んできたり、救急箱を持ち回ったりしただけでしたので、部員の方々にとってどれ程お役にたったのか、今思い返せばただ赤面するばかりです。まだ他校のチームは、ほとんど男性ばかりで、その様な中で私だけが場違いのように一人混じっているのは恥ずかしくて、いつも顧問の今安先生のそばにいた様に思います。当時豊高に赴任されて間もない先生は(現在でもそうでしょうが)ご親切で、点の付け方やルールの説明をして下さいました。でも、当時は、ルールの説明をお聞きしてもなかなか覚えられず、多分、私はお飾りに過ぎなかつたのだと思います。

最近では、テレビで放映される試合を楽しんで

いますし、ルールについてもマネージャーだった当時に比べると、多少はましになったのでは…と思っています。
(初代の女子マネージャー)

アメフトから貰った 高校時代の楽しい思い出

小城香織
(旧姓:江見)

(高33期)



創部50周年おめでとうございます。今でもあの頃に戻れたらなあと思う楽しかった高校時代、その楽しかった思い出の多くは、アメリカンフットボールから与えてもらったものです。

一身上の都合から、大好きだったスポーツを自分では出来ない状況だったあの頃、入学してすぐ、中学の先輩からの依頼を受けてマネージャーをさせていただきました。もちろんアメフトの知識はほとんどありませんでしたし、雑用を引き受けることでしかお手伝い出来ませんでしたが、顧問の先生や部員の方々に助けられて、かわいがっていただき、ほんとうに充実した3年間でした。

自分ではつらい練習などすることなく、大阪大会優勝、関西大会準優勝といったすばらしい試合の現場に立ち会わせていただき、大きな感動と共に味わわせていただいて、ほんとうに幸福でした。

ひとつの目標に向かってみんなで力を合わせ努力をする姿を間近で見させてもらい、ますますスポーツのすばらしさを知り、今度こそ自分自身で…と思って、大学では体育会弓道部に籍をおき、4年間練習に明け暮れる毎日でした。大学でもアメフトとの縁は切れることがなく、高校時代のライバルチームのメンバーとの出会いもありましたし、リーグ戦や甲子園ボウルもよく観に行きました。

就職してからも、アメフト好きの上司や先輩たちと甲子園ボウルなどを観戦したり、大学のアメ

フトの集まりに連れて行ってもらったりと、アメフトを通じて交際の輪が広がってゆきました。

結婚後は、時たまテレビで試合を観たりする程度になってしましましたが、将来は、今はまだ小さい息子が始めてくれないかなあーなどと淡い期待をいだいたりしています。「えんどぞーん」などで、豊高現役・OBの方々のご活躍を見たり聞いたりして大変うれしく思っております。今後ますますのご活躍、ご発展を心からお祈り申し上げます。(子育て真っ最中のもと女子マネージャー)

マネージャーみんなで泣いた 大阪大会の優勝



工藤和子

(高48期)

中学校でバスケットボールをやっていた私は、豊中高校に入学してからも、何かやってみたいなあと思っていました。何がいいかなあと迷っていたところへ、すでにアメフト部に入っていた同級生の中原さんや蒟蒻さんらに連れられて、お手伝いを始めたのは5月になってからでした。

なにも分からなかった私でしたが、とにかく先輩マネージャーのいわれるままに、一所懸命仕事を精を出しました。練習でもそうですし、試合のときは尚更。

スコアの付け方はマネージャーの先輩方から教わりました。豊高的試合のときは先輩たちが付け、私たち1年生は先輩の太田さんに教わりながら、他校の試合のスコアをつけることから始めました。最初はただ前に進んだり後退したりするのを見極めるだけでせい一杯。先輩方には本当にキメ細かく親切に教えていただきました。

今でも忘れないのは、2年生のときに大産大高校を破って大阪大会で優勝したことです。私たちは新しく入ってきた1年生のマネージャーと一緒に、相変わらず仕事に精を出していました。

前半からリードしていた豊高が、後半になってさらに追加得点を挙げ、大産大高校の反撃を抑えて試合に勝ったときには、嬉しくて嬉しくて涙がなかなか止まらず、マネージャー全員で大喜びをしたのでした。

関西大会では2回戦で崇徳高校に敗けたのは残念でしたが、でもその後の6月の西宮ボウルでは、大阪選抜チームに選ばれた豊高選手と一緒に、私は大阪チームのマネージャーに選ばれてお手伝いできることはとても嬉しかった思い出です。

グラウンドでの仕事のほかに記録のお手伝いをしていた私達は、「ROADRUNNERS」の編集のお手伝いもしました。

先輩たちと同じように、私も3年生の夏休みには引退しましたが、失敗の多かった私がよく勤まつたのは、先輩や皆さん方のお陰だと本当に思いました。豊高でアメフトと出会ったお陰ですっかり好きになり、今でもアメリカンフットボールの観戦に精を出しています。

(昨年春に卒業したもと女子マネージャー)

豊高アメフト部のマネージャーになるのが受験目標の一つだった



菊 油 美實子
(高48期)

私が豊高アメフト部のマネージャーになったきっかけは、コーチをされていた佐藤さんと知り合いで、中学のころから話を聞いていたからです。話を聞いているうちに、豊高へ入ってマネージャーになるということが、私の高校受験の一つの目標になりました。

念願の豊高に入学し、マネージャーとなった私が、いつも心がけていたことは、選手の皆さんが高いも良い状態で練習をし、試合ができるようにするということでしたが、これは大変難しく、今も充分に仕事をこなせていたかどうかは分かりません。

しかし、選手だけが頑張るのではなく、私たちマネージャーも精一杯仕事をすれば、自然と好成績に結び付くということを信じて毎日走り回っていました。その結果、私が1年のときには大阪2位、2年のときには大阪で優勝、3年のときには大阪3位と、すばらしい喜びを味わわせていただきました。

とくに私たちが現役だった2年の春に大阪で優勝し、関西大会に出られたことは、最高の思い出です。また、西宮ボウルでマネージャーをやらせていただいたことも、いい思い出です。この時のチームは、明るくて楽しくて、そして強いチームでした。私はこの時のチームが大好きで、負けてしまった時はもうこのチームで練習や試合ができると思うと、さみしくて涙があふれてきたことを覚えています。

しかし、たくさんの感動を与えてくれた選手の皆さんには、本当に感謝しています。試合で味わった雰囲気というのは、普段の生活ではとても味わえないもので、独特の緊張感と活気にあふれています。でも、私の中では暑い夏の日の練習や合宿、大雨の中での練習なども、試合と同じくらいに心に残っています。

2年の春以降、グラウンドに出なくななくても、私たちは試合に行ってスコアをつけていました。あまり遊ぶ時間もなかったけれど、それほど私にとっては苦ではありませんでした。また、ろくに勉強もしていませんでしたが、それを怒ることもなく応援してくれた親の理解もあります。

3年になって、引退試合となってしまった関学戦のあとでみんなで撮った写真は、みんなとてもいい顔をしています。一つのことを一緒にやり続けてきた達成感に満ちています。

私は3年間豊高アメフト部に関わることができて、本当に幸せでした。選手の皆さん、マネージャーの先輩や後輩、OBの皆さん、そして先生、たくさんの人との出会い、またアメリカンフットボールとの出会いが私の高校3年間の宝物です。

昨年の春、幸運にも私は大学生になれました。これからもいろんな試合に足を運んで、今度は観客として感動を味わおうと思っています。

(昨年春に卒業したもと女子マネージャー)

クラブ日誌から

マネージャーがつけていた毎日の活動記録のうち“きょうの感想”の抜粋

—42期生の「ROADRUNNERS' MEMORIES」
(1990.2.28.)に掲載したものから—

1988.9.14.WED. 晴れ

今日は、練習のあと豊中稲荷へ行き、全員で“必勝祈願”をした。「マネージャーも来いよ！」って言われたのは、うれしかったね。まあ、それはおいといて。やっぱりvs.大産大っていうのは、すごいプレッシャーなんだろうね。だけど、夏休みもずっとあんなに練習してんから、ぜったい絶対、勝つよ。

—そして翌日は 22—18 の大勝利。

秒読みあり、そして涙ありのvery happyな一日でした—

1988.9.28.WED. 晴れ

「おはよう朝日です」のTV出演のため、AM6:30に着替えてグランド集合でした。早朝のためバスがなく、困った人もいたようです。

リハーサルを簡単に済ませ、いよいよ本番、ほんのちょっとでもカメラがこっちを向くと、みんなが突進してた。カメラマンの人、怖かったやろうなあ。1年生はヘッドオンチャージ、2年生はイメージをしている様子をカメラは撮っていました。そして細見キャプテンがインタビューを受け、新人大会へ向けての抱負を語りました。少し緊張しているように感じました。

初めから終わりまでこの日の番組は、ROADRUNNERSが占拠して無事終了しました。

1988.11.30.WED. 晴れ

今日は避難訓練がだらだら長く続き、クラブが始まるのが遅くなった。そして、お茶が間に合うかどうかかも分からぬ状態。なんとか一つ出来たけど、みんななくなってしまい、困っていると、渡辺先輩一人だけが飲んでくれた。しかし、“うすいのを砂糖入れてごまかしたある…。”

一ごめんなさいっ!!

1989.1.18.WED. ポツリポツリ雨

細見先輩と土居先輩が欠席で、堀野先輩は見学

だったので、誰がALL MENをするんだろう？と思っていたら、いきなり高山先輩登場。続いて小坂先輩、前原先輩、上川先輩。どうして中橋先輩はしないんだろう？と思っていたら、最後は中橋先輩が決めてくれました。1日で5人の人がALL MENをしてしまいました。でも、やっぱり細見先輩のALL MENが一番？

～ちなみに中橋先輩のALL MENは、これが最初で最後だったように思います～

1989.1.28.SAT. 雪

今日は吹雪?!の中「KEISHU5」の撮影に来た。なんでもどっかの誰かが、今かっこイイのは豊高のアメリカンフットボール部っておたよりしてくれたそうです。「おはよう朝日です」の時よりものんびりとして、私たちは楽でした。だけど、明日は新人大会なのにこんなにのんびりしててもいいのでしょうか…。まあ、皆さんパワフルに練習してはったし、いか。それにしても、一体誰の「おたより」だったのでしょうか？

1989.5.11.THU. 雨 今日の事件

昼休みに細見さんに呼ばれて“何かおこられるようなこと、したかしら？”と思いながら3—8へ行ってビックリ!! 部員さんが勢揃いで輪の中に入れられてしまったと思ってたら、またまたビックリ!! 大きな大きな花束をもらってしまいました。細見さんが「俺ら関西大会も行かれへんかったし、大阪も制覇できへんかったけど、1年間頑張ってくれたから…。」っていうようなことを言ってくれました。でも彼ら、なにもしないで甘えてばっかりやったのに、あんな花束もらってしまって…感激でした。本当に3年生のマネージャーになれてよかったね。そして3年生の皆様どうも有難うございました。

(注)当時のマネージャーは

3年生 岩橋直子、木村亜貴、佐藤尚子、
多田典子

2年生 片山 歩、合田奈津子、中木原由佳

1年生 小武 舞、上田ゆかり、櫻浪容子、
守田恭子 の皆さん

在校生メンバー

(カッコ内はプロフィールを書いてくれた人)



卒業を前にした3年生メンバー

3年生(49期生)

背番号	氏名	ポジション	身長cm	体重kg
-----	----	-------	------	------

13	中山 統裕	QB	174	66
17	紀 孝夫	FS	171	65
22	大月 領太郎	TB	162	53
44	吉田 憲夫	FB	168	64
51	森井 太郎	LB	171	65
57	山本 武史	DB	176	80
70	小島 敬郎	DB	187	78
72	鈴木 俊文	DT	176	85
78	秋山 和寛	DT	175	80

独特のリズムのランニングと相手のチームや味方の意表をつくブレーコールを出す。豊高には欠かせない男。(小島)

キャプテンとしてチームをまとめ、プレーヤーとしても素晴らしい選手。(小島)

最も信頼できる選手の一人で、常に一発TDの驚異を秘めた彼の足は、豊高オフェンスの最大の武器。(紀)

副キャプテンなのに、ハドルで一度も声を上げず、普段はめったに口をきかないが、ここぞという時に頼りになる奴。(大月)

体は小さいけれども、その体では想像もつかぬハードタッклラーでした。試合ではそのタックルでファンブルさせていた。(山本)

彼はスピード、サイズに恵まれたLBで、強烈なハードヒッターであり、ガードとしても確実な動きでチームに貢献しました。(吉田)

持ち前の体の大きさを生かし、オフェンスでもディフェンスでもラインの要として活躍していました。(中山)

君はデブだ。そして強い。しかし遅い。(森井)
ラインの中でも一番練習熱心でした。試合では絶

81 西 政 哉 LB 172 75

対に相手をブロックしてくれる安心感がありました。(山本)

非凡な才能の持ち主で、大阪選抜にも選ばれました。また奇抜なアイディアでチームを引っ張って行きました。(鈴木)

(マネージャー)

- 宇佐美 彰子 一番責任感が強く、頼れる人でした。ビデオを撮る姿もかっこよく、あっこちゃんのようになりたいと思っていました。(日納)
- 清水 美希 いつも落ちついていて、あわてた時も冷静に判断してくれたしっかり者で、細かいことにも気を使う気配り屋さん。(村上)
- 那須 純子 純粋で、クラブに対しても真面目なマネさんです。いつも明るくて、ビデオを撮らせたらピカイチです。(村上)
- 羽床 直美 部員さんたちがフットボールにだけ集中できるように、クラブ中で一番真剣だった羽床さん。マネージャーの鏡です。(宇佐美)
- 日納 麻理子 持ち前の明るさと可愛さが部員さんにもOBさんにも、とても人気がありました。(大和谷)
- 村上由美 クラブの合間を縫って、会計として毎月たいへんな仕事を頑張っていました。(那須)
- 大和谷 純子 ビデオの腕と特に芸術センスにおいては、すごいものを持っています。そしてみんなのことを見いやる素敵な人です。(清水)



これから活躍が期待される2年生と1年生のメンバー

2年生(50期生)

背番号 氏名 ポジション 身長cm 体重kg

8 仲田 陸 QB 177 66 肩の強さと球の速さには非凡な才能を見せる。極寒ギャグと人をむかつかせる事にかけては天才。

						最近太り気味。(乾)
16	池 田 直 樹	C B	176	66	ひと夏来ていないが、能力はピカ一のハズ？1年生のときからスターター。(山城)	
31	太 田 聰	R	182	63	今季からTBにコンバートされた人物。筋トレにも自主的に取り組んでいる。自分ではまだ3割と言い張る男。(太田)	
32	藤 原 索	R B	175	65	チームNo.1のハードタックラー。ディフェンスをまとめるロードランナーズの守護神。(乾)	
33	村 司 宏 樹	R B	178	68	背が高くて目がでかく、長瀬智也をどついた感じ。あんパンが好きで、専門のパン屋までよく足を運んでいる。(太田)	
67	福 田 真 二	L B	172	70	通称イモッチ。独特の「まゆ毛論」で、こしあんとつぶあんの区別がつかない。去年の秋、女にふられた。(太田)	
73	山 城 統 評	L	163	75	筋トレのしすぎで、最近、脳みそも筋肉に支配されてきた。頭は悪いが能力はピカ一。(高城)	
74	板 垣 慶	L	175	85	1年の時の能力はピカ一だったが、ヘルニア、骨折、肺炎など、様々な仮病により、今やOB会の仲間入り。(仲田)	
75	塙 田 武 史	L	179	80	TとDEをこなしラインのパーティリーダーも努める。勉強が趣味で特に英語が得意という秀才である。(高城)	
76	小 西 裕	L	163	72	よくイエモンのジャムを歌う。いつも笑顔を絶やさない。持論は「体力は寝る時に付ける」。(村司)	
82	岸 本 泰 郎	R	168	53	「ヤスオ」と呼ばれ親しまれている。ボーッとしていて上達がとても遅い。一応DBパーティリーダー。(小西)	
88	乾 亮 太	W R	170	59	言い訳王。QB#8のオンラインターゲット。一昨年からスターター。かっこいい。(仲田)	
91	高 城 省 平	L B	172	65	何でもそつなくこなす。特にキャッチングセンスはバツグン。(岸本)	

(マネージャー)

石 井 千 春	少しゆっくりめで、マイペースな頑張り屋さん。(正木)
植 田 香 苗	頭の回転が早く、要領よく手早く働くしっかり者。話がおもしろくて、隠れた優しさもある人です。(石井)
出 村 谷 麻 衣	いつも明るく、笑顔をたやすく楽しい雰囲気してくれ、何事も嫌がらず、積極的に仕事をしていました。(横山)
横 山 智 子	困ったことがあると慌てていたけど、いつもは冷静でした。黙々と仕事をこなす、お姉さんのような人です。(植田)
正 木 恵	いつもテンションが高く、かなりの変わり者。いつも周りまで明るくしてくれるヤツです。(出村谷)

1年生 (51期生)

背番号	氏名	ポジション	身長cm	体重kg	
10	仲田 亨	F S	178	63	たぐい稀な鬼才の持ち主。超問題児のFSで、言うことはかなりきつい。しかし、根はいい奴。(木村)
14	上坂 建太	F S	172	58	通称「あげ」。勉強のできる都會っ子。練習中の姿を見ていると、思わず涙が出てしまう。(仲田)
18	黒川 真也	WR	163	63	WRの彼はキャッチングセンス抜群で、パワーもあるが、キャッチ後のアフターランはC級品。DLとの両面説も?(井原)
19	井原 潤	WR	168	54	現在チーム1の幸せ者。初試合であわやインター選手をしかけるなどセンスは抜群かも?(本職WR)。(川崎)
21	浅井 敏	R	167	58	とても明るく、笑いを絶やさない。チームメイトからも信頼が厚い。Rとして活躍中。(上坂)
24	山本 理樹	DB	168	55	豊高一のライン引き。その正確さ、速さはまさに鬼。その力をプレーにも結びつけてほしいものだ。(弘)
25	弘 剛一	DB	166	64	スピード、パワー、共に高い能力を持っているDBの彼。マンツーマンをやらせると、かなりのやり手である。(笛田)
36	畠 雅三	TB	170	54	チーム1おしゃべりでお調子モン。調子乗せたらもう最悪。そんな畠くんの口ぐせは「おれは不死身や」。(佐川)
38	佐川 公朗	DB	163	56	TBからDBに移り、試合ではLBをするなど、彼の活躍はとどまるところを知らない。(浅井)
50	木村 健治	L	176	60	「うそくさいホスト」と呼ばれる程黒が似合う木村君。キムタクと人気投票してもひけをとらない男前である。(畠)
55	杉山 貴昭	L	179	74	入学当時は留年ウワサがあり、あの#89でさえ敬語をつかうことを余儀なくされたが、実は鉄道が恋人のNice Guyだ!(河盛)
58	笛田 勝治	LB	181	78	とても異性にうるさい。安室が好き。そしてへぼい。最近、戦力外通告された。(杉山)
65	河盛 大輔	L	176	63	同じラインの杉山と変態コンビを組んでいたが今は解散。クラブでナンバーワンの努力家となる。けっこう頼りになり責任感がる。(岡崎)
66	岡崎 哲	L	163	70	通称ヤクザ。一時鼻血がとまらない時期があった。1年生ラインの中では抜群の強さを發揮。中学ではソフトボール。(牧内)
79	牧内 将		177	70	1年生で一番やる気のない? センター前のダイブは必ず通る(たぶん)。あだ名はKINGOF。本人はQB志望。(英保)
89	英保 洋介		180	73	TEの英保は公式戦で1年生初のTDをして喜びのあまりボールを投げすぎて反則をとられた男。少

99 川崎英一郎 170 65 し頭悪し。1年生キャプテン。(黒川)
高校から能勢に住む彼は、中学時代かなり暴れていたらしいが、今の私生活を知る者は数少ない。(英保)

(マネージャー)

荒木梨沙 しっかりしていて、倒れているボトルを見付けて取りに行くその速さはマネージャー1で働き者です。(山田)
杉江美樹 様々な所で転んだ経験あり。転んでも笑っているかなりの天然ボケ。常に笑顔を絶やさず、1人でウケてる楽しい子。(荒木)
谷 芙美 ビデラー1のしっかり者で、すごく頼りになる人です。その反面「幸福の毛」を探し中の、ちょっとおかしな子です。(杉江)
千原麻奈未 時々故障する、みんなのムードメーカー。放送で「アメフト」と呼ばれたら、どこにでも飛んで行くスゴイ奴。(谷)
船川祐子 いつも自分から積極的に仕事をしてきばきと行動してくれます。それに一緒にいるととても楽しくなる人です。(千原)
山田あゆみ 天然ボケ。日に焼けたいがために、日焼け止めクリームを塗らず、肌を荒らした。でも、実はしっかり者です。(船川)

記念碑の除幕・記念式典・祝宴

1996年9月29日、創部50周年を記念して記念碑の除幕、記念式典および祝宴が行なわれた。

中学・高校フットボール発祥の地 母校中庭で記念碑の除幕式

50年前にピーター岡田氏の指導で始めた豊中中学のフットボールは、わが国の中学(旧制)では初めてのものだった。これを記念して、OB会では先ごろ岡田氏から寄せられたメッセージを彫り込んだ記念碑(ページに写真)を母校中庭に建立、9月29日午前10時から現地でその除幕式が行なわれた。

当日式場には田中校長、荒木教諭(アメリカンフットボール部顧問)をはじめ現役・OBら関係者約50名が見守るなかで、代表5名による除幕のあと、OB会小野会長の式辞、道之前山志一さん(高4期)による「歴史的事実をそのまま遺したい」という、取っておきのエピソードをまじえた記念碑の由来説明のほか、田中校長・豊陵会小西会長などからも祝辞が寄せられ、晴れやかなムードのなかで滞りなく式を終えた。

記念式典でキッキングネット贈呈 130名出席し盛大に祝賀会

その後正午から豊中駅前のホテル・アイボリーで、来賓、OB、現役選手とそのお母さん方・マネージャーの皆さんなど約130名が集まって創部50周年の記念式典を開催した。

式典は加納巖さん(高9期)の司会で初代キャプテンだった故・酒井昭雄さんら亡くなられた会員に黙祷を捧げたあと、小野会長のあいさつ、道之前さんによる記念事業の紹介について、例年のとおりのOB会からの支援金のほかに、選手待望のキッキングネットが記念品として贈られた。

また96年度の最優秀選手として紀孝夫君に上村杯が、森井太朗君に小宮杯がそれぞれ贈呈されたが、とくに今年の小宮杯は、故・小宮敏幸さんのお父様がわざわざ福岡から来られて手渡された。

このあと来賓から祝辞、祝電の披露ののち、全員で校歌を合唱して記念式典は終了した。

午後1時からの祝宴は、若柳京鼓さん(高36期)が奏でる祝琴とともに若柳吉純美さん(京鼓さんのお母さま)のご祝儀舞いに続いてOB会湯浅一也さん(中21期)の開宴あいさつを皮切りに約2時間にわたって盛大に行なわれた。

会場には84歳でますます元気な初代顧問の上田健夫先生をはじめ、その後の顧問だった齊藤良二、今安達也、長瀬尚の各先生方や、これまで多くの卒業生が世話になっている関学・同志社・神戸の各大学チームの監督の皆さんのが見え、各大学の校歌や応援歌とともにリクルート含み(?)の交歓などもあって大いに盛り上がっていった。

祝宴は午後3時すぎ井出春中さん(高5期)によるユーモアたっぷりな5本締めと現役選手・マネージャーによるエール交換を行なった後、賑やかな雰囲気を残して幕を閉じた。



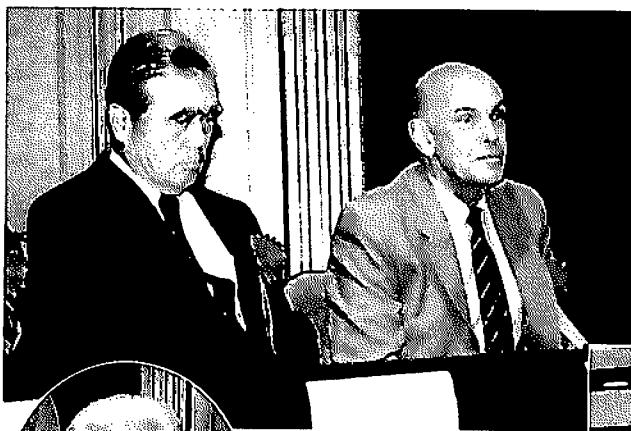
「セイノー」の掛け声のもとに
幕を引いた



このメンバーがピーター岡田氏
から手ほどきを受けた

葉室鐵夫さん、チャック・ミルズさんらも来場

この日の式典には、来賓として第1回毎日甲子園バウル以来フットボールに貢献されていた葉室鐵夫さん（もと毎日新聞社運動部）、1974年以降毎年の学生MVPにミルズ杯を贈っているチャック・ミルズさん（アメリカ沿岸警備隊士官学校体育局長）らの姿も見られた。なお古川明さん（日本アメリカンフットボール協会理事長）の案内で来場のミルズさんからは、メッセージも寄せられていた。



初試合のTD選手（徳永義雄さん一中22期）
を中心にミルズ杯受賞選手（左、柴田尚さん一高23期、1974年第1回受賞、右、
伊藤重将さん一高43期、1995年に受賞）



チャック・ミルズさ
ん(右)と古川明さん
円内は葉室鐵夫さん



チャック・ミルズさんから寄せられたメッセージ（邦訳）

豊中高校並びに豊中高校フットボールチームへ

50周年記念式典にご出席の豊中高校アメリカンフットボールチームの皆さん、本当におめでとうございます。皆さんは日本におけるもっとも古い歴史を有するチームのひとつであり、このことは大変に誇るべきことあります。

私にとって豊中高校は特別な意味をもっています。それは、1971年に日本で試合をした最初の大学チームであるユタ州立大学フットボールチームのために、素晴らしいクリスマスパーティを開催してくださった人がいました。その人こそ徳永義雄さんで、私が日本で初めて会った日本人のうちのひとりであり、豊中高校アメリカンフットボールチームの偉大な選手で素晴らしい人です。

また、1974年以来毎年、日本の大学フットボールの最優秀選手にミルズ杯を贈っておりますが、その第1回受賞者が豊中高校卒業生の柴田尚さんでした。

かくして、貴校のフットボールの伝統は、私にとって本当に特別の意味のあるものとなっています。

1996年9月20日

アメリカ沿岸警備隊士官学校体育局長
チャック・ミルズ Chuck Mills

創部50周年記念事業

○池田高校との定期戦、交歓会	1996年3月17日
○アメリカ・ワシントン州シアトル「レークワシントン高校」招待	“ 7月18~28日
○記念碑の建立・除幕、記念式典、祝宴	“ 9月29日
○現役フットボール部へ「記念品」「支援金」贈呈と最優秀選手表彰	“
○50年史の発行	1997年1月

創部50周年記念式典の来賓

中野 寛成	さん（衆議院議員、高11期）
北之坊 鮎司	さん（大阪府会議員、高11期）
岡本 重伸	さん（豊中市会議員、高11期）
宇野 尚一	さん（豊中市助役、高4期）
青木 伊織	さん（豊中市教育委員会教育長）
田中 紘人	さん（豊中高校校長）
向浦 鉄督	さん（前豊中高校校長）
篠室 鉄夫	さん（もと毎日新聞社運動部）
チャック・ミルズ	さん（ミルズ杯創設者）
古川 明	さん（日本アメリカンフットボール協会理事長）
浦元 則嗣	さん（池田高校アメリカンフットボール部顧問）
宝内 保次郎	さん（池田高校アメリカンフットボール部OB会会长）
鳥内 秀晃	さん（関西学院大学アメリカンフットボール部監督）
川口 隆弘	さん（同志社大学アメリカンフットボール部監督）
木村 泰弘	さん（神戸大学アメリカンフットボール部監督）
崎根 弘昭	さん（関西学院高等部アメリカンフットボール部監督）
矢井 照義	さん（平安高校アメリカンフットボール部顧問）
細井 上藤	さん（池田高校アメリカンフットボール部OB）
佐和 弘周	さん（ “ ” ）
岩佐 和弘	さん（ “ ” ）
岩本 早苗	さん（株式会社タッチダウン社）
上田 健夫	さん（豊中高校アメリカンフットボール部もと顧問）
斎藤 良二	さん（ “ ” ）
今安 邦也	さん（ “ ” ）
長瀬 尚	さん（ “ ” ）
荒木 雄造	さん（豊中高校アメリカンフットボール部顧問）
小宮 满男	さん（故・小宮敏幸さん—高29期ーのお父さま）
上村 美奈子	さん（故・上村 登さん—高4期ーの奥さま）
上村 恵美子	さん（ “ ” お嬢さま）



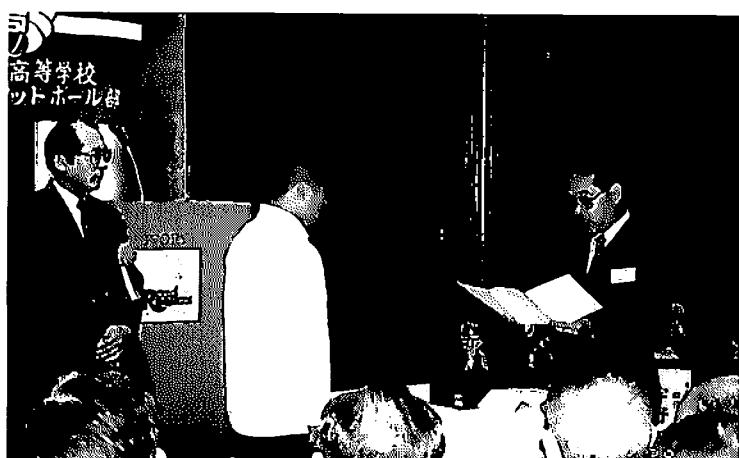
式典で挨拶をする
OB会小野会長

続々とつめかける出席の皆さん

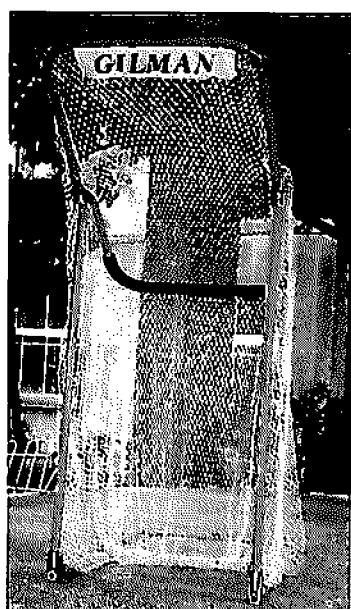


福岡から来られた小宮満男さんから
森井選手に小宮杯が、上村美奈子さん・
恵美子さんから紀選手に上村杯
が贈られた。

(右から、小宮満男さん、森井選手、
紀選手、上村美奈子さん・恵美子さん)



OB会から記念品として選手希望のキッキングネットが贈られた。
(写真左 = OB会小野会長からキャプテン山城選手に目録を渡す。
写真右 = 贈られたキッキングネット)

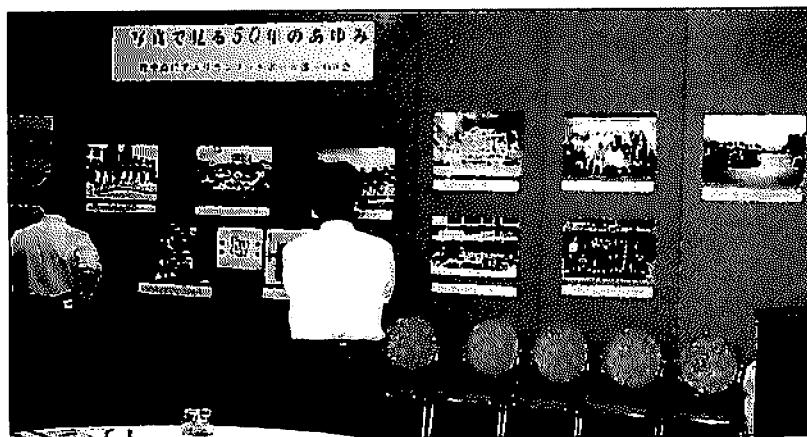




若柳吉純美さんのご祝儀舞
で祝宴の幕明け



祝宴は次第に盛り上がってゆく



会場には「50年のあゆみ」の
写真も飾られていた



「その写真、オレが
買う！」
(祝宴終了後、希望者
に実費で提供)

そけぞれに気勢をあげた……



中央は家門正さん（高11期）



名門大学チームを支えたのもわれわれ？



マイクで話すのは森里光生さん（高16期）

来賓の池田高校OB、顧問の皆さんも登場





これからの健闘を目指して気勢をあげる現役選手たち



井出春中さん（高3期）のリードで「五本綺め」
(フォルスマスターでやり直しもあったけれど、無事お開きになりました)



この記念史の発行に当たって、多くのかたがたからお手持ちの写真やパンフレットなど貴重な資料をご提供いただきました。厚くお礼を申しあげます。

資料などをご提供いただいた方々

古川 明さん（日本アメリカンフットボール協会理事長）	山形泰正さん（もと豊中高校顧問）	
齐藤良二さん（もと豊中高校顧問）	森 真一さん（もと豊中高校顧問）	
長瀬 尚さん（もと豊中高校顧問）		
荒木雄造さん（豊中高校顧問）		
徳永義雄さん（中23期）	奥尾幸一さん（高2期）	小野 實さん（高4期）
井出春中さん（高5期）	上林和夫さん（高8期）	木村陽吉さん（高10期）
谷 浩輔さん（高11期）	森里光生さん（高16期）	田村雅史さん（高20期）
東元春夫さん（高21期）	粉川正博さん（高22期）	柴田 尚さん（高23期）
卓 良泰さん（高25期）	黒田能弘さん（高25期）	

.....編集後記.....

○…師走の5日、昼休みに中川（英樹）君から電話をいただいた。その前の日に、印刷をお願いしている上林さんの事務所にお伺いして、帰路Mさんと一緒に飲みながら「泣いても笑っても、原稿も写真もみんな入稿しましたから、もう勝負がつきましたね」と話していたばかりだった。

実はだいぶん前に中川君のもとに手紙を出したままになっていて、そろそろこちらから電話をしてみようかなと気になっていたところだった。取材のテーマは彼らの時代に大阪府から表彰された一件についてだった。

「あの時はなんでも鶴橋の方に行きました」

—「それ、鶴橋じゃなくて手前の森の宮じゃないですか」—

「そ、そ、そうです。私、代表で桶を貰いに行きました」

—「あの、糸井君や八木君に聞いてもまるで記憶がないと言うんです」—

「そうですか。でも、ごめんなさい、私もそれ以上覚えていません。それにお返事遅れてまことに申し訳ありません」

—「いやあ、お忙しいところありがとうございます…」

こんな風に、中川君、八木（健太）君、そして九州にいる幸田（浩明）君など後輩のスター達と会話ができただけでも楽しかった。(O)

○…50年史の編集会議は梅田の地下街の喫茶店「菊屋」で始まり、そこが閉店近くになると飲み屋へ移るのがお定まりのコース。F氏など遅くなると飲み屋で合流することも多い。ここでもお好みはいつも定番。まずサービスのビールから始まり、湯豆腐・肉じゃが・やきとり…。ここまでではいつも一緒。それから、チューハイ、お酒と好みが分かれる。当方、こちらには多大の協力をしたが、肝心の50年史の方にはどれ程の貢献を果たしたかは甚だ疑問。原稿を書いてくれた人、写真や資料を提供してくれた人、さらには名簿篇では同期

の人の動向を丹念に調べて知らせてくれた人など多くの関係者のご協力で予定どおり1月に完成。しかしM編集長の“熱意”と“実行力”がなければ果たして公約どおりの期日に完成していただろうか。めでたし、めでたし。(K)

○…50年の歴史の中で、風も吹かなければ光り輝くこともなかった時代がある。それは1970年代前半の頃のこと、N先輩が練習中に頭部の大きな怪我をされたことに端を発する。幸いにもN先輩は部に復帰されるまでに回復されたが、フットボール選手としての生命は絶たれていた。

N先輩の怪我の後約1年半の間、対外試合は禁止され、実質活動が停止した。その間、安全管理、コーチング体制をめぐり、学校、顧問の先生、OBそして現役の間で、様々な議論がなされたと聞いている。最終的には、アメリカンフットボールは公立高校の部活動には向かない、廃部すべしという意見に対して、OB会を中心とするグループが踏ん張って、部の伝統を護り抜いた。N先輩の2年後輩である編集子は、試合はもちろん、明日練習ができるかどうか判らない状態で1年を過ごし、2年生になって主将になってからは、面倒を見てくれる顧問の先生を探すという厄介な仕事までやらねばならなかった。幸い山形先生が部の事情を理解して顧問を引き受け下さり、梶谷、栗田、斎藤の3先輩に引き継ぎ、坂口先輩や多くの先輩がコーチとして毎日のように面倒を見て下さったので(それは信じられないくらいきつい練習でしたが…), 徐々に部は再建されていった。この当時のOB諸氏の努力がなければ、50周年はなかったと思う。

無類のフットボールの虫だったN先輩が、卒業後母校のコーチとして尽力され、編集子がその後を引き継いだ。以来わが部は重大な事故もなく、それどころか輝かしい戦績を残してきた。長瀬先生や荒木先生、OBコーチ諸氏の尽力の結果である。しかし、残念ながら安全管理やコーチ確保の面ではまだまだ不十分ではないだろうか。事故が起きてからOB会が動くのではなく、事故の予防のためにOB会が機能すれば素晴らしいと思う。日本一、100周年に向けての夢でしょうか。(F)

○…縁があつて50年史の編集をすることになった。ひとりで出来ることではないので、迷惑になっても、なるべくたくさんの方々の手を煩わそつかなあと思った。何人かの方々に直接会いして記憶を掘り起こしてもらってエピソードなどを承ってまとめたものや、いきなり電話でお願いしただけで寄稿していただいた方など、いろいろだった。でも、ほとんどの方が快く引き受け下さったのは有り難かった。50年も前のことになると、人の記憶も曖昧になってくるし、何よりも記録が残っていないことが多く、結果的には「主な戦績」ということになった。このほか多くの方からご自分のアルバムの写真や貴重な資料など、いろいろご提供いただいたし、とりわけレイアウトから印刷・出版については、上林和夫さん(高8期)のご尽力に負うところが大きい。心からお礼を申し上げます。(M)

編集委員 政木 武(高2期)
加納 巍(高9期)
小畑 節三(高11期)
藤井 義久(高28期)

発行日 1997年1月25日

発行者 大阪府立豊中高等学校アメリカンフットボール部OB会
会長 小野 實
〒560 豊中市本町2-3-17

印刷者 富士写真製版株式会社 上林 和夫
〒530 大阪市北区太融寺町2-21 ニュープラザビル

